

**選挙と政治に関する意識調査
結果報告書**

高知市選挙管理委員会

高知大学人文社会科学部 遠藤晶久研究室

平成29年5月

目次

はじめに.....	1
調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 はじめに	4
2 選挙関心度・政治関心度	6
(1) 選挙関心度.....	6
(2) 政治関心度	7
3 投票に対する意識	8
4 投票参加率	8
(1) 社会的属性と投票参加率	9
(2) 政治意識と投票参加率	16
5 棄権の理由	20
6 投票行動	22
7 政治的態度	27
8 選挙関連情報源	31
9 選挙制度関連	39
10 合区制度	42
11 18歳選挙権.....	48
12 地区別分析	50
13 過去選挙の投票参加率	57
おわりに.....	63
<資料>	
質問票と回答の単純分布	64

はじめに

平成28年7月10日執行の第24回参議院議員通常選挙において、高知市における投票率は40.29%と、第17回参議院議員通常選挙（平成7年7月23日実施）の40.53%を下回り、過去最低を記録した。高知県全体で見ても、45.52%と過去最低、なおかつ全都道府県で最下位の数字を記録している。そればかりでなく、前年の高知県議会議員選挙高知市区は41.58%、高知市議会議員選挙は38.06%と過去最低を記録し、高知市長選挙も28.93%（過去3番目の低さ）と低投票率に沈んだ。

このような低投票率の現状に対し、今後の啓発活動・選挙管理のあり方を検討するため、高知市選挙管理委員会は、高知大学人文社会科学部遠藤晶久研究室の協力を得て、高知市の有権者の政治や選挙への関心、投票行動、選挙環境などについて意識調査を実施した。

平成29年5月

高知市選挙管理委員会

調査の概要

- 1 調査の目的 今後の選挙啓発業務・選挙管理業務の改善等を目的とする。

- 2 調査の方法
 - (1) 調査対象者 高知市内在住の有権者
 - (2) 調査対象者数 5,000名
 - (3) 抽出方法 選挙人名簿から無作為抽出
 - (4) 調査方法 郵送調査（回収も郵送による，督促なし）

- 3 調査対象事項
 - (1) 選挙関心度・政治関心度
 - (2) 投票に対する意識
 - (3) 参院選での投票行動
 - (4) 政治意識・政治的態度
 - (5) 政治・選挙についての情報環境
 - (6) 選挙制度の認知および意見
 - (7) 過去の選挙における投票参加
 - (8) 社会的属性
 - (9) その他

- 4 調査の実施期間
 - (1) 調査票発送 平成28年11月15日
 - (2) 調査票回答期限 平成28年12月15日
 - (3) 実際の回収期間 平成28年11月18日-平成29年3月1日

- 5 回答者の集計
 - (1) 郵送未達数 16名
 - (2) 返送数 1,787名
 - (3) 返送（無回答） 12名
 - (4) 返送（代理回答） 2名
 - (5) 有効回収数 1,773名
 - (6) 回収率 35.6%

6 男女別回収結果（男女別の無回答を除く）

(1) 男性

年代	送付数	回収数	回収率
18・19歳	54	9	16.7
20歳代	245	40	16.3
30歳代	323	51	15.8
40歳代	430	99	23.0
50歳代	350	121	34.6
60歳代	430	194	45.1
70歳代以上	460	235	51.1
合計	2,292	749	32.7

(2) 女性

年代	送付数	回収数	回収率
18・19歳	49	8	16.3
20歳代	270	50	18.5
30歳代	356	118	33.1
40歳代	489	162	33.1
50歳代	354	154	43.5
60歳代	452	226	50.0
70歳代以上	738	266	36.0
合計	2,708	984	36.3

7 調査の実施主体 高知市選挙管理委員会

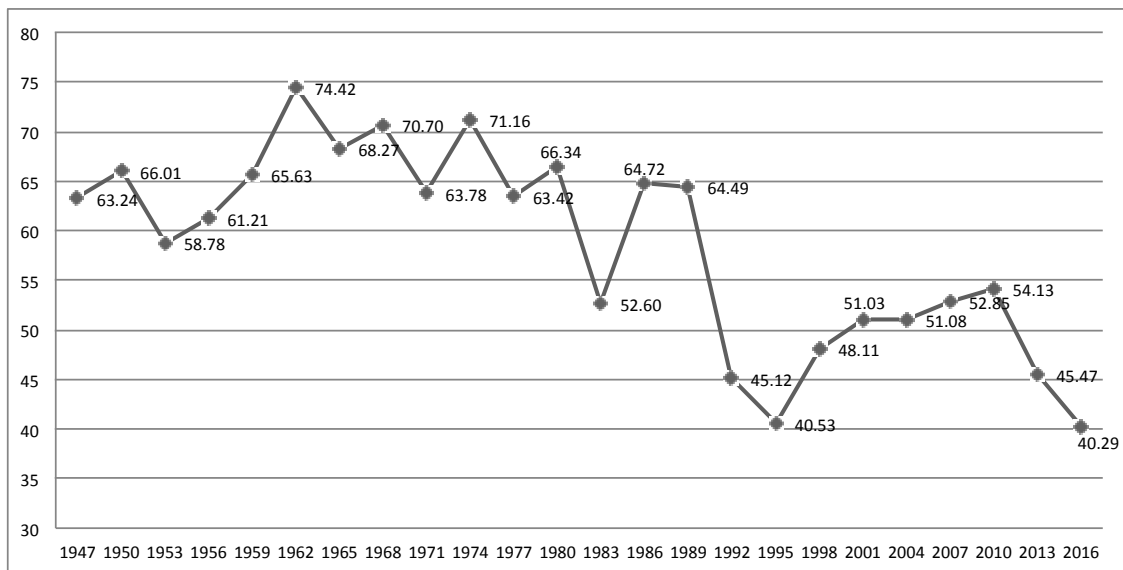
調査結果の概要

1 はじめに

第24回参議院議員通常選挙は平成28年7月10日に実施された。この選挙で大きく注目を集めたのは、2つの制度変更である。一つは、71年ぶりの選挙権の拡大であり、選挙権が20歳以上の国民から18歳以上に引き下げられた。18歳選挙権の実現を契機に、高校を現場とするものも含め、若者への選挙啓発活動が全国的に活発に行われた。もう一つは、都道府県を単位とした選挙区選挙に初めて合区制度が導入された。それまでは都道府県に少なくとも定数2（半数改選なので選挙では1）が割り振られていたところ、一票の格差の解消策として人口の少ない複数の県をまとめて定数2とする合区が設けられた。高知県と徳島県は、鳥取県・島根県とともに対象になり、今回の選挙区選挙は、徳島・高知選挙区として初めての選挙であった。

今回の参院選の全国での投票率は54.70%であり、過去4番目に低い数字を示した。それに対し、高知市における投票率は過去最低の40.29%を記録した。これまでの最低記録は第17回参議院議員通常選挙（平成7年7月23日実施）の40.53%であったが、それを0.24ポイント下回ったことになる。前回参院選（45.47%）から比べても、5.18ポイントの下落である。

図 1 参議院議員通常選挙・高知市投票率の推移



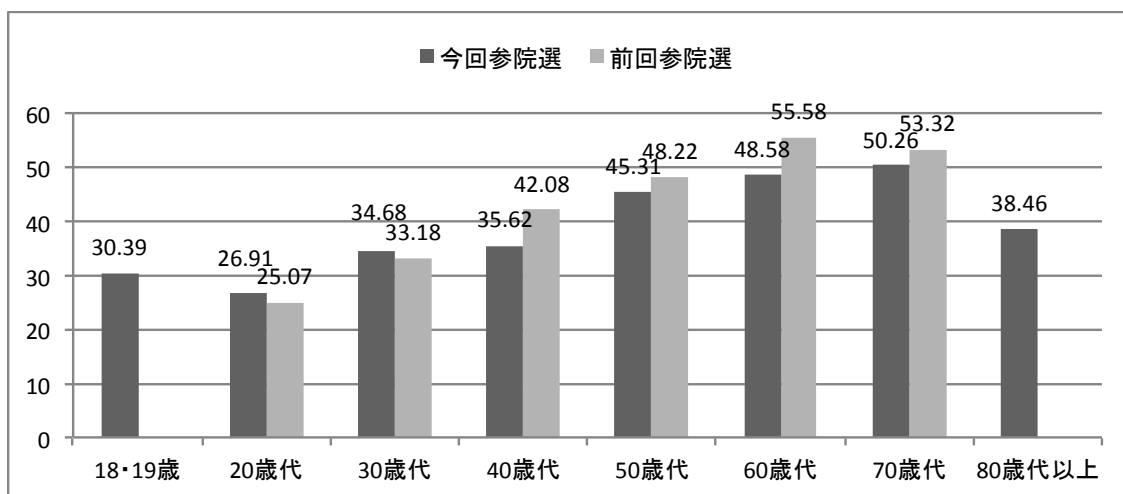
高知市の投票率は、時系列で見て最低を記録しただけでなく、他の同規模の都市に比べても低迷した。全国47の中核市の投票率を比較しても、高知市は最低の数字を記録している。下から2番目の投票率であった福山市でも46.34%を示しており、6.05ポイントもの差がある。なお、中核市ではないものの、徳島市の投票率は43.25%であり、やはり高知市の投票率の方が低い。また、都道府県別で見ても、高知県の投票率（45.52%）は最下位を記録しており、前回参院選からの下落率（-4.37）も最も大きい。

表 1 中核市の投票率

豊田市	65.55	西宮市	54.96	呉市	52.42	宇都宮市	50.79
長野市	60.15	青森市	54.59	船橋市	52.35	越谷市	50.64
岡崎市	58.71	豊中市	54.52	富山市	52.26	和歌山市	50.36
秋田市	58.00	枚方市	54.23	岐阜市	51.99	高松市	48.86
奈良市	57.52	松山市	54.14	高崎市	51.94	姫路市	48.67
八王子市	56.22	豊橋市	54.04	尼崎市	51.91	東大阪市	48.41
大津市	55.75	佐世保市	53.68	旭川市	51.79	倉敷市	47.16
那覇市	55.63	いわき市	53.53	柏市	51.78	宮崎市	47.16
盛岡市	55.50	郡山市	53.46	下関市	51.65	前橋市	46.80
高槻市	55.48	長崎市	53.02	鹿児島市	51.56	福山市	46.34
横須賀市	55.26	函館市	52.90	川越市	51.47	高知市	40.29
大分市	55.12	久留米市	52.47	金沢市	51.36		

今回の参院選は18歳選挙権の導入により若者の投票率が注目された選挙であった。都道府県単位で見れば、高知県の18・19歳の投票率は30.93%で全国で最下位であった。高知市の18歳・19歳の投票率は30.39%であった。ただし、この数字は20歳代より高く、30歳代より低い値を示している（18・19歳の投票率は全数調査に基づく、他は抽出調査による投票率）。20歳代・30歳代の若い有権者は他の年代よりも投票率が低いものの、前回参院選よりは投票率が向上している。むしろ今回参院選の投票率低迷は、40歳代から70歳代における投票率の低下に起因する。なお、前回参院選については80歳代以上の投票率は調査していないため、この層の投票率の動きはわからない。

図 2 年代別投票率



投票率が低迷しているのは、参議院選挙にかぎらず、この2年間の地方選挙においても過去最低の記録を更新し続けてきた。平成27年4月に実施された高知県議会議員選挙高知市区の投票率は41.58%と最低を記録し、高知市議会議員選挙においても38.06%と過去最低を記録し、40%台を下回った。平成27年11月実施の高知市長選挙においては過去最低を免れたものの、28.93%と30%台を下回り、過去3番目の低投票率を記録した。

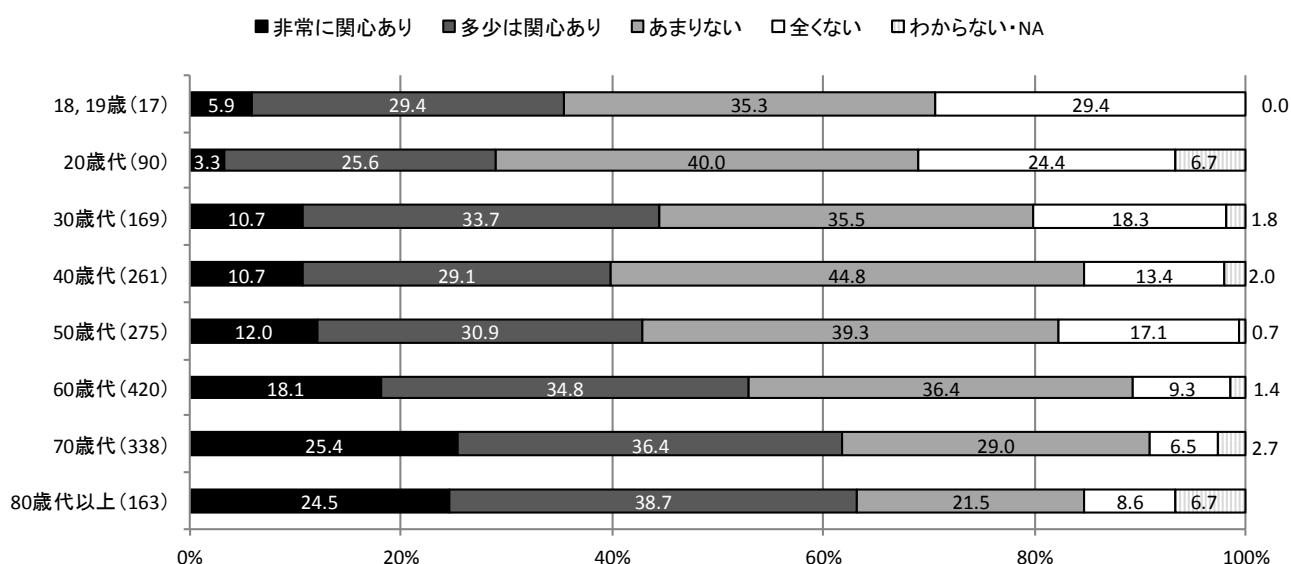
以上のような現状を踏まえ、今後の選挙啓発・選挙管理の参考のために、高知市有権者の政治や選挙に対する意識や行動、選挙環境について調査を実施した。以下では、本調査から浮かび上がる高知市の有権者の意識・行動、置かれている環境について描出する。

2 選挙関心度・政治関心度

(1) 選挙関心度

高知市の有権者のうち、今回の参院選に「非常に関心があった」という回答は16.2%、「多少は関心があった」という回答は33.5%、「あまり関心がなかった」という回答は35.3%、「全く関心がなかった」という回答は12.4%であった。すなわち、関心があった回答者となかった回答者がおよそ半々という結果になった。なお、「わからない」という回答は2.1%、回答なし（無回答）は0.5%であった。以後、無回答についてはあまり触れないが、特に断りのない場合かぎり、無回答も含めて計算した結果を提示する。また、図表における各カテゴリーの括弧内は、そのカテゴリーに該当する回答者の人数を示している。

図 3 選挙関心度（年代別）



選挙関心度を年代別に見ると、「非常に関心があった」という回答が最も低いのは20歳代で3.3%であり、10歳代（18・19歳）の5.9%より低かった。30歳代と40歳代では10.7%となり、年齢が上がる

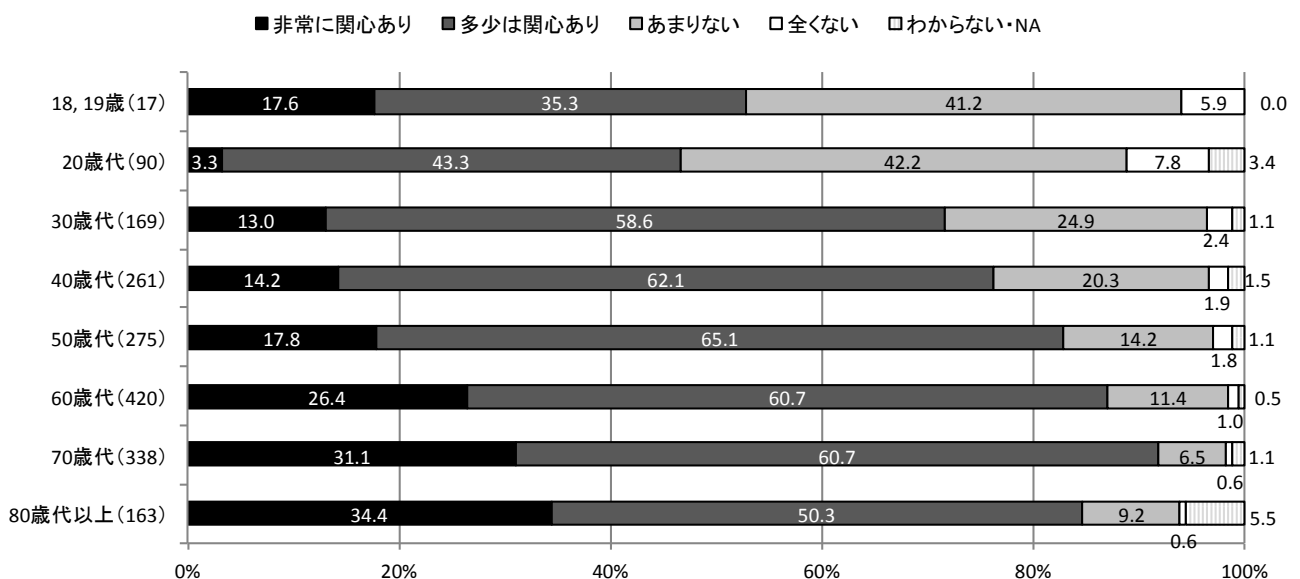
ごとに割合も高くなる。最も高いのは、70歳代で25.4%あった。20歳代は「あまり関心がなかった」「全く関心がなかった」「わからない」をあわせて70%以上に及び、選挙関心の低さが顕著であった。今回から選挙権が認められた18・19歳の回答者については、20歳代と比べれば関心が高く、「多少は関心があった」という回答とあわせると関心があった回答者はおよそ35%であった。

(2) 政治関心度

次に、今回の選挙だけではなく、「ふだんから国や地方の政治に関心があるか」という質問に対する回答を確認していく。回答者のうち、22.2%が「非常に関心を持っている」、59.3%が「多少は関心を持っている」、14.9%が「あまり関心を持っていない」、1.7%が「全く関心を持っていない」、1.2%が「わからない」と回答している。今回の選挙に対する関心度と比較すると、ふだんの政治に対する関心度の方が高い。すなわち、普段から政治に関心を持っているような人で今回の選挙については関心が低かった有権者が一定数存在することが示されている。

政治関心度を年代別に見ると、「非常に関心を持っている」という回答が最も低いのはやはり20歳代で3.3%であり、10歳代（18・19歳）の17.6%より大幅に低かった。「非常に関心を持っている」という回答についての、10歳代における割合は30歳代（13.0%）、40歳代（14.2%）よりも高く、50歳代（17.8%）と同等程度であった。60歳代以上になるとさらに割合は高くなり、80歳代以上で最多で34.4%であった。ただし、10歳代の政治関心度は20歳代より高いとはいえ、他の年齢層よりも高いとは結論付けられない。なぜなら、10歳代における「非常に関心を持っている」に「多少は関心を持っている」という回答をあわせた割合は52.9%とようやく半数を超える程度であり、30・40・50歳代よりも20ポイント以上も低いからである。いずれにせよ、どの年齢層でも選挙関心度よりも政治関心度の方が高かった。

図 4 政治関心度（年代別）

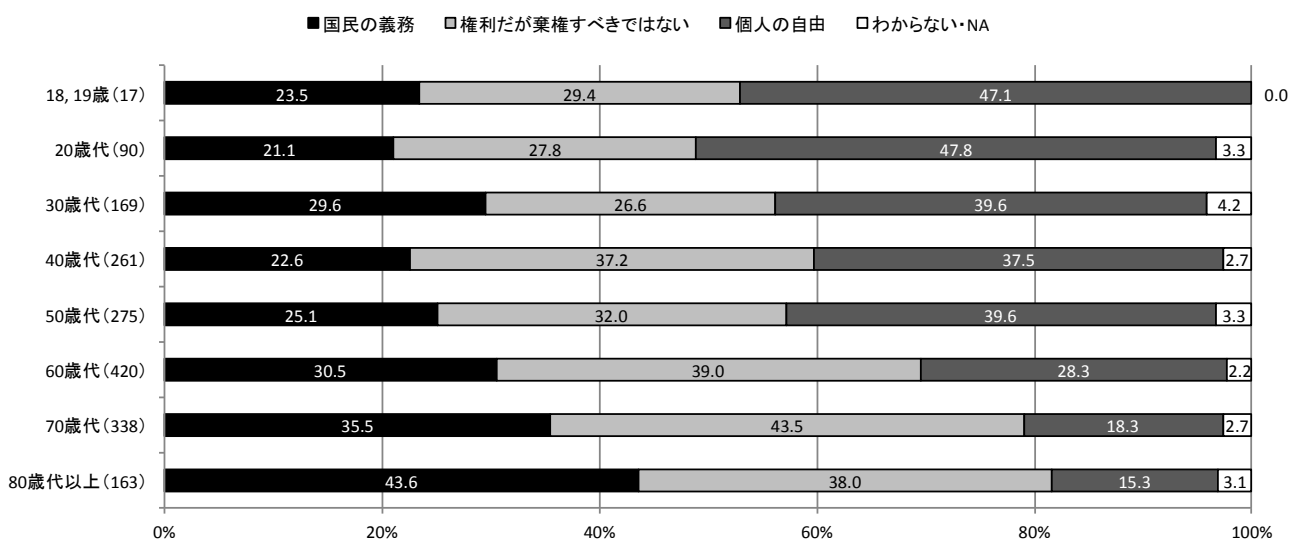


3 投票に対する意識

投票について、高知市の有権者はどのように考えているのかを尋ねた。「あなたはふだん、選挙の投票について、下記の中のどれに近い考えを持っていますか」という回答について、どれか一つを選択してもらったところ、29.9%が「投票することは国民の義務である」、36.5%が「投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない」、30.6%が「投票する、しないは個人の自由である」、2.6%が「わからない」と回答した。

投票に対する意識を年代別に見ると、年齢によって投票について異なる捉え方をしていることが明らかになる。投票を国民の義務と捉える考え方は若い世代よりも高齢層において顕著に見られ、80歳以上では43.6%にも及ぶ（20歳代では21.1%）。それに対して、若い世代は投票参加について「個人の自由」と考えており、10・20歳代では半数近くがそのように回答している（80歳代以上は15.3%）。「権利だが棄権すべきではない」という考え方も高齢層では広がっており、70歳代で43.5%と最も高い（10・20・30歳代は20%後半）。

図 5 投票に対する意識（年代別）



4 投票参加率

本報告書では、実際の投票率と混同しないように、本調査の回答者における投票率のことを「投票参加率」と呼ぶことにする。今回の参院選について「投票に行った」という回答は62.9%、「投票に行かなかった」という回答は34.3%、「わからない」という回答は0.5%、無回答は2.4%であった。結果の解釈を容易にするため、ここでは「わからない」および無回答をすべて欠損値扱いとして分析から除外した。その結果、有効回答の中で投票参加率を再計算すると64.71%となる（投票不参加率は35.29%）。今回の参院選における高知市の投票率は40.29%であったので、それに比べて、本調査における投票参加率は25ポイントほど高いことになる。

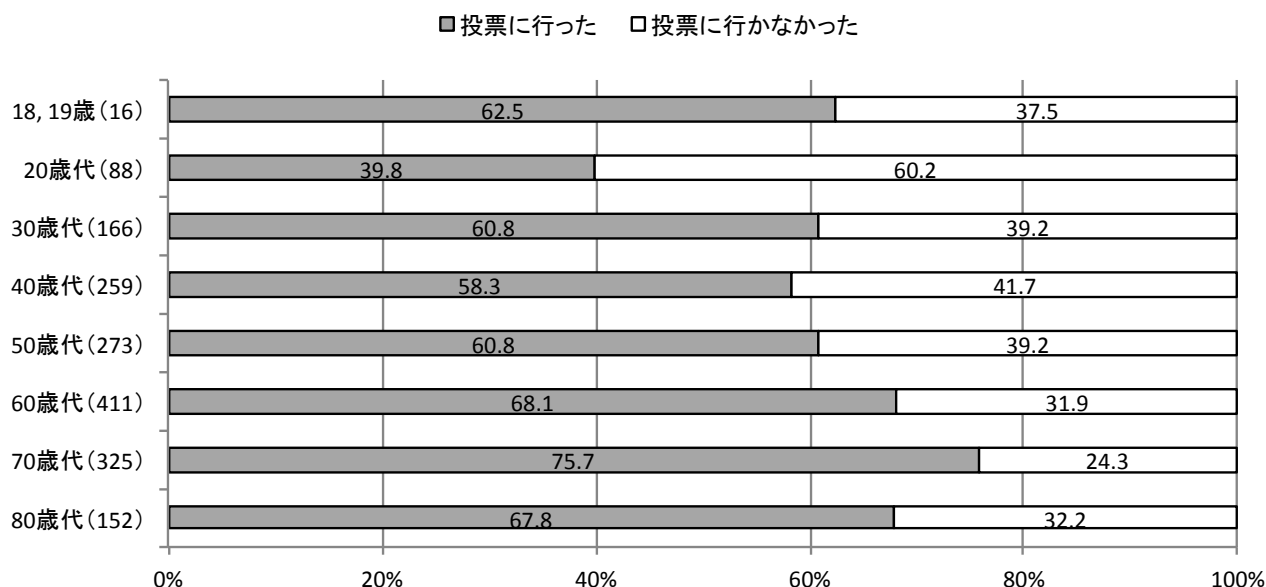
世論調査において、実際の投票率よりも高い割合の投票参加報告が見られるのはよく知られた現

象である。その大きな理由として、調査回答を依頼した人たちの中で世論調査に回答しない人たちは、投票にも参加しない傾向があることが挙げられる。裏返せば、世論調査に協力した回答者は、一般的な有権者よりも投票に行きやすい傾向があるともいえる。そのことを念頭に置きつつ、ここでは様々な要因と投票参加率の関係を確認していく。

(1) 社会的属性と投票参加率

投票参加率を年代別に見ると、年齢が上がるほど投票参加率が高い傾向が見られる。最も低いのは20歳代で39.8%であり、最も高いのは70歳代で75.7%である。今回の参院選から選挙権が認められた18・19歳については62.5%であり、20歳代より20ポイントほど高い。ただし、実際の投票率では両者の差は5ポイントほどでしかない。このことから、他の年齢層に比べて、18・19歳の調査回答者は政治的に積極的な有権者に偏っていることが示唆される。さらに、この質問に対して回答した者は10歳代では16人と少なく、その分だけ他の年齢層と比べても誤差が大きいことに注意されたい。

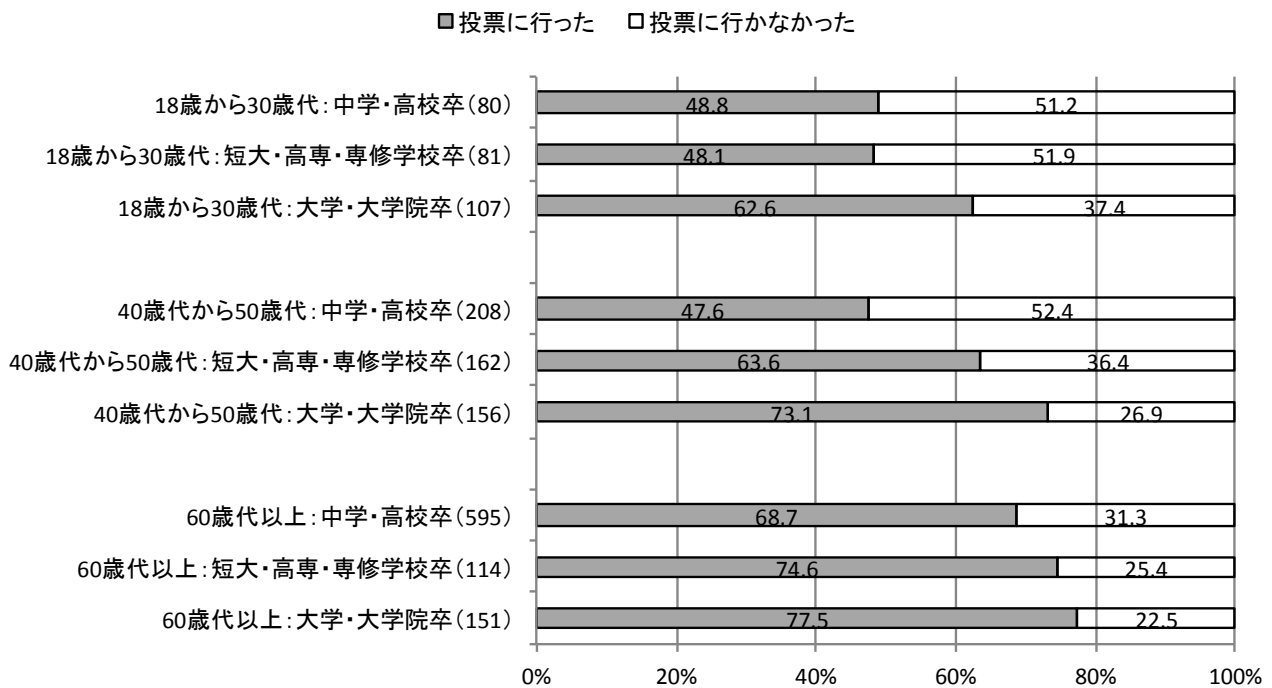
図 6 投票参加率（年代別）



次に、投票参加率を教育程度別に確認する。ただし、年齢層によって教育程度の分布は異なるため、ここでは、「18歳から30歳代まで」「40歳代・50歳代」「60歳代以上」という3つのグループに分けて、それぞれの中で教育程度別の投票参加率を図示した。教育程度は「小学校・中学校・高校卒（高等小学校・旧制中学校を含む）」「短大・高専・専修学校卒」「大学・大学院卒（旧制高校、旧制専門学校を含む）」の3段階で分けた。

どの年代でも教育程度が高いほど投票参加率が高いが、その関連の度合いは年齢層によって異なる。教育程度による差が最も大きいのは、40歳代・50歳代で25ポイントほど異なる。それに対し、18歳から30歳代までではおよそ15ポイント、60歳代以上はおよそ10ポイントの差であった。

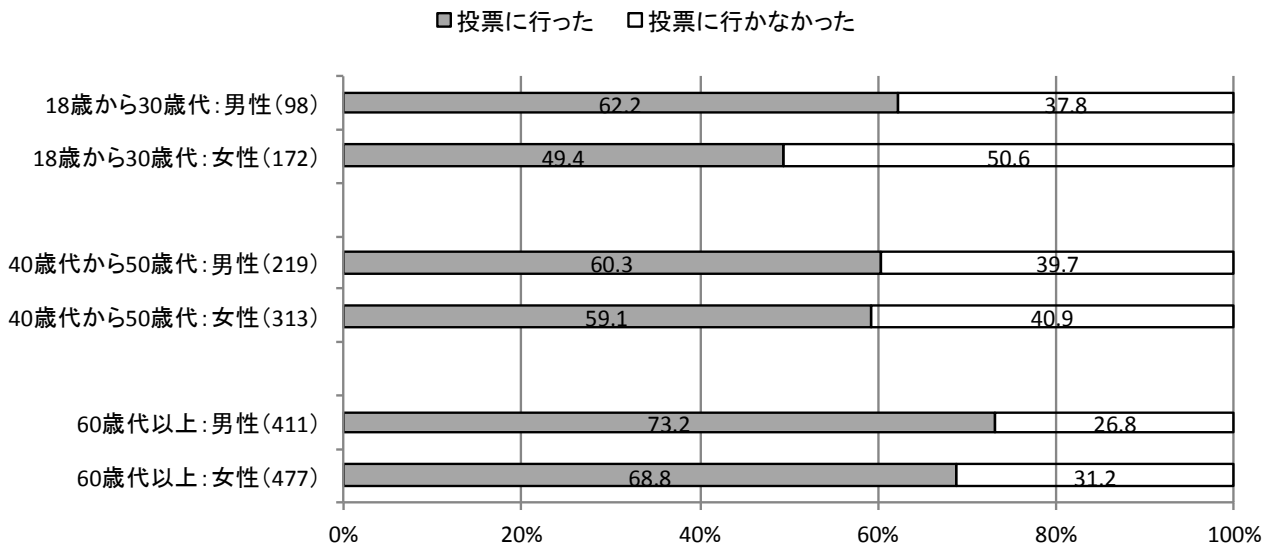
図 7 投票参加率（年代別，教育程度別）



投票参加率を性別から見てみると、男性で68.2%，女性で62.1%となっている。実際の投票率では、男性38.9%，女性40.8%であるので、本調査では投票参加と性別の関係が逆転していることがわかる。女性に比べて男性で調査回収率が低いことを考えれば、投票参加傾向が強いほど調査回答をするという方向でのバイアスが男性回答者に強いと考えられる。

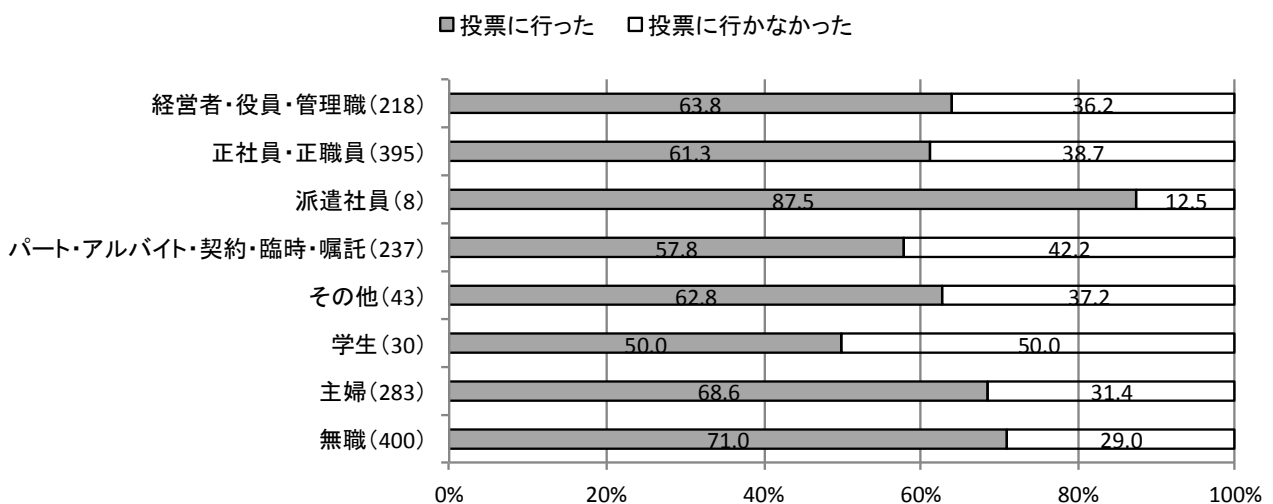
年代別に、性別との関連を確認すると、特に差が大きいのは若年層であり（13ポイント）、高齢層でもおよそ5ポイントの差が認められる。他方で、40歳代・50歳代では男性の方が高いもののその差は小さい。この結果、とりわけ若年層の男性において投票参加率の誤差が大きいことが示唆される。

図 8 投票参加率（年代別、性別）



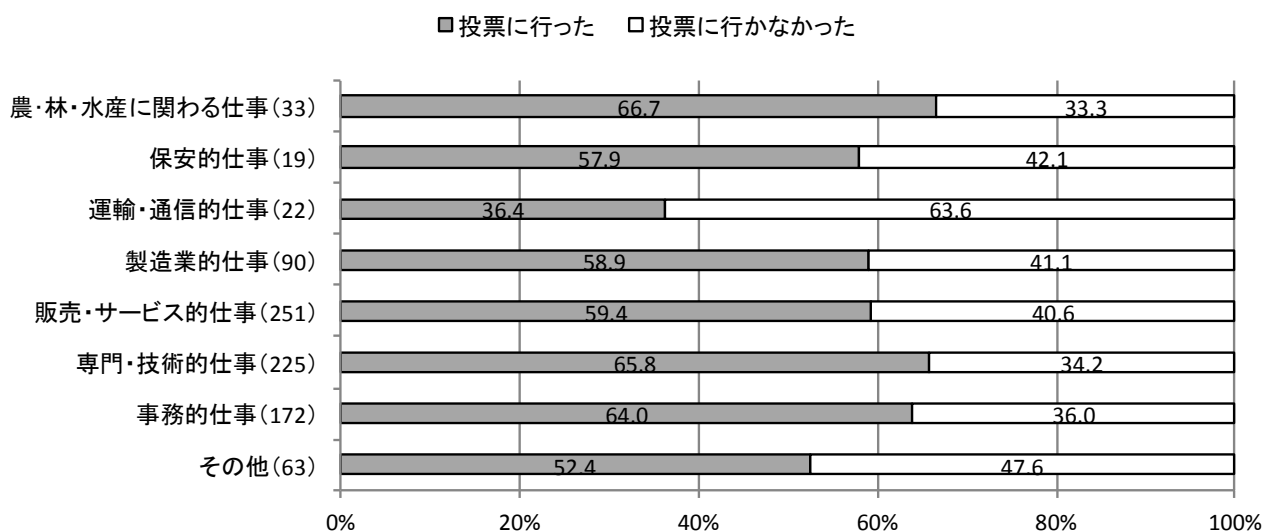
投票参加率を就業形態別に見てみると、最も投票参加率が高いのは「派遣社員」の87.5%である。ただし、派遣社員の回答者が8人しかおらず、投票参加率の誤差が大きいことが推測されるため、あくまで参考の値として取り扱うべきであろう。他の就業形態でいえば、全体の平均である64.7%より投票参加率が高いのは、主婦と無職である。「経営者・役員・管理職」「正社員・正職員」「その他」は投票参加率がほぼ全体平均並みであり、「パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託」は57.8%とそれよりも低い。投票参加率が最も低いのは「学生」で半数でしかない。

図 9 投票参加率（就業形態別）



投票参加率を職種別に見てみる。職種については、自分の職業について「勤め」「自営業主、自由業者」「家族従業」と回答した者に限って尋ねており、就業形態としては「経営者・役員・管理職」「正社員・正職員」「派遣社員」「パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託」「その他」のいずれかに該当する者のみが回答している。したがって、就業形態別の投票参加率で見たとおり、全体平均と比べると数値は低い傾向にある。その中で、全体平均の64.7%よりも高い数字を示しているのは、「農・林・水産に関わる仕事（農作物生産者、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など）」と「専門・技術的工作（医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの）」であるが、その差は1ポイント程度であり大きくない。「事務的工作（企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の仕事など）」は64.0%で、全体平均より若干低い程度である。「保安的工作（警察官、消防職員、自衛官、警備員など）」、「製造業的工作（製品製造・組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など）」、「販売・サービスの仕事（小売・卸売店主・店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールス、理・美容師、コック・料理人、ウェ이터・ウェイトレス、客室乗務員など）」の投票参加率は50%後半である。最も低いのは、「運輸・通信的工作（トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など）」の36.4%である。

図 10 投票参加率（職種別）

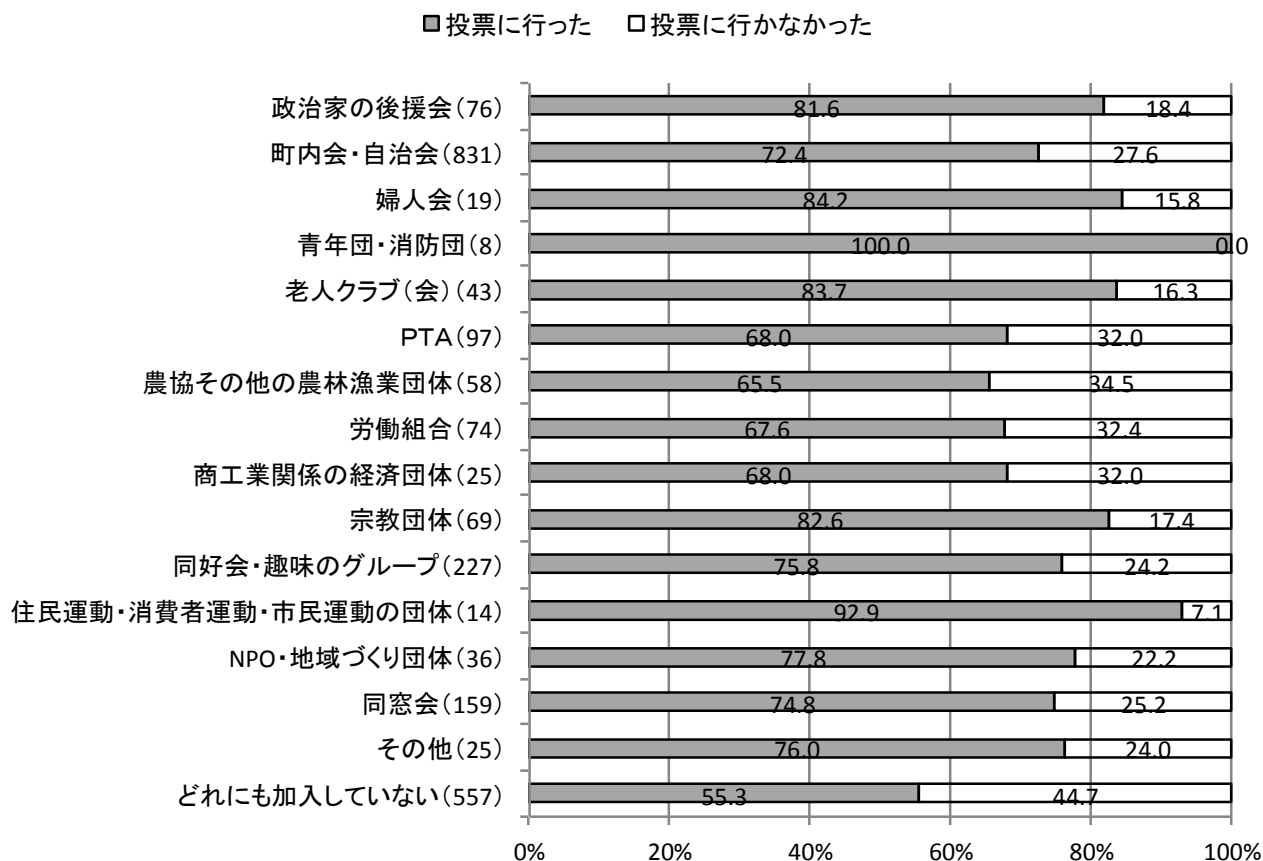


投票参加率を所属団体別に見てみる。所属団体については、所属している団体をすべて回答する形式であるので、図で示されているそれぞれのグループの構成員は相互排他的ではないことに注意されたい。

投票参加率が最も高いのは「青年団・消防団」で100%に及ぶ。ただし、こちらも回答者が8人しかおらず、参考値として扱うべきであろう。また、同様に回答者数が少ないものの、「住民運動・消費者運動・市民運動の団体」でも投票参加率は92.9%に上る。その他、投票参加率が高い順に、「婦人会」84.2%、「老人クラブ（会）」83.7%、「宗教団体」82.6%、「政治家の後援会」81.6%、「NPO・

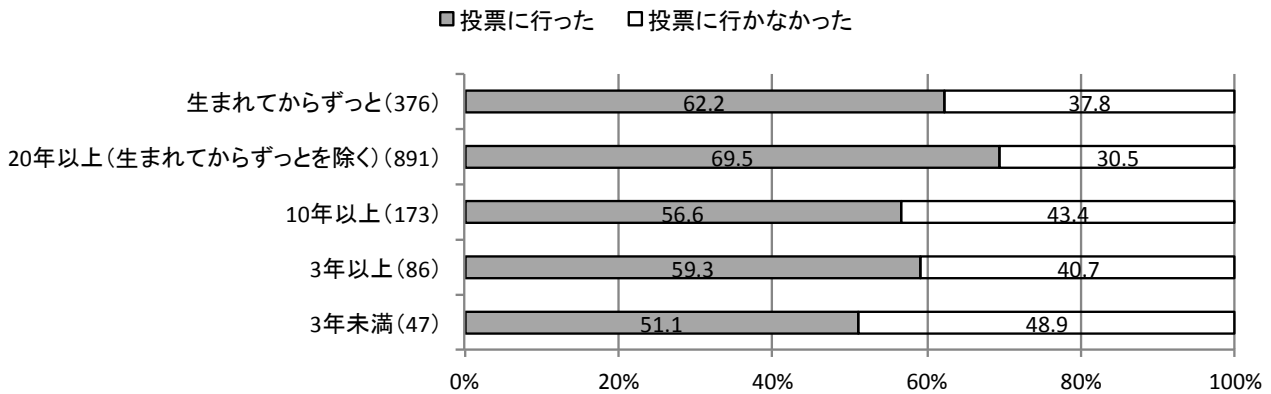
地域づくり団体」77.8%、「その他」76.0%、「同好会・趣味のグループ」75.8%、「同窓会」74.8%、「町内会・自治会」72.4%、「商工業関係の経済団体」68.0%、「PTA」68.0%、「労働組合」67.6%、「農協その他の農林漁業団体」65.5%となっており、すべてのグループで全体平均より高い数字を示している。また、上記の団体について「どれにも加入していない」回答者は557人いるが、投票参加率は55.3%と低い。

図 11 投票参加率（所属団体別）



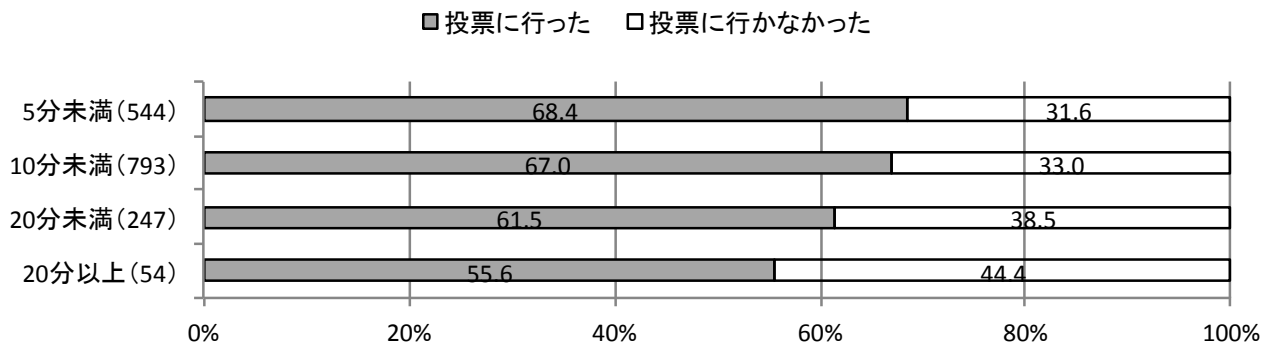
居住年数別に投票参加率を見てみると、「あなたは、この市に何年くらい住んでいますか」という質問に対して、5つの選択肢を示す形で尋ねた。基本的には、居住年数が長いほうが投票参加率が高い傾向にあるが、最も高いのは、「生まれてからずっと」同じ場所に住んでいる有権者ではなく（62.2%）、生まれてからずっとではないものの20年以上住んでいる有権者グループである（69.5%）。次いで「3年以上」（59.3%）、「10年以上」（56.6%）と続き、最も低いのは「3年未満」（51.1%）のグループである。

図 12 投票参加率（居住年数別）



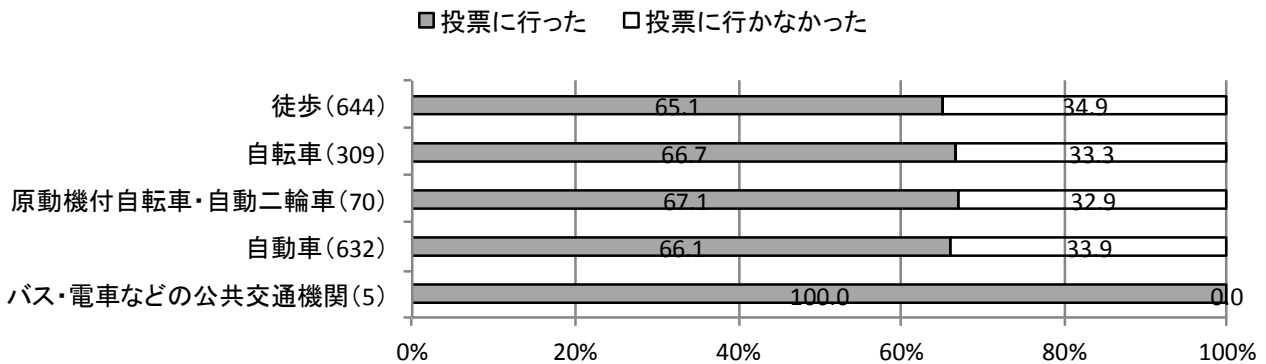
自宅から投票所までの時間別に投票参加率を見てみると、投票所までの時間が短いほど投票参加率が高いという関係が確認できる。およそ8割の回答者が10分未満で投票所に到着できる場所に自宅があるが、5分未満の場合、68.4%、10分未満（5分以上）の場合は67.0%の投票参加率であった。他方、これより時間がかかると投票参加率は全体平均よりも低くなり、20分未満（10分以上）で61.5%、20分以上だと55.6%と差が大きくなる。なお、投票に行かなかった回答者は、投票所までの時間について把握しておらず、「わからない」と回答する者も多いことに注意が必要である。

図 13 投票参加率（投票所までの移動時間別）



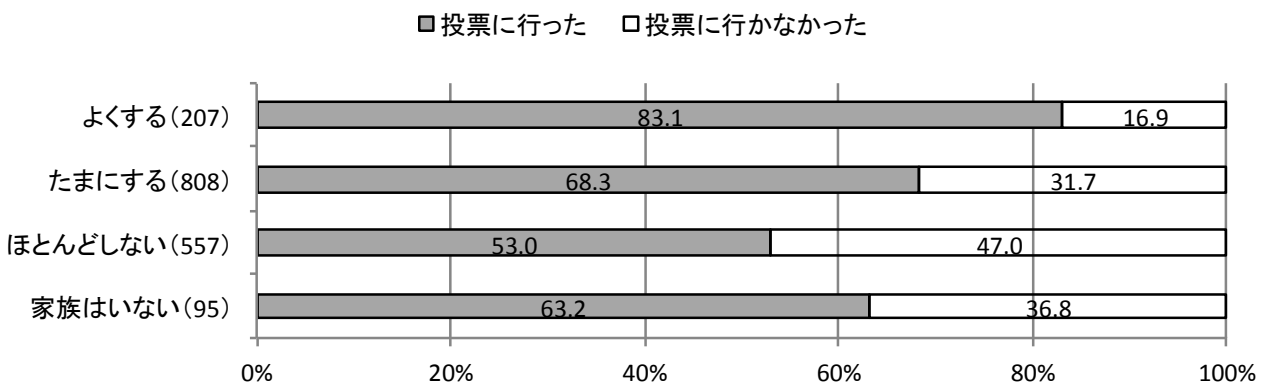
投票参加率と投票所までの移動手段の関係を見てみる。投票所までは徒歩あるいは自動車で行く回答者は、それぞれおよそ4割であり、次いで自転車が2割弱となっている。最も投票参加率が高いのはバス・電車などの公共交通機関で100%であるが、回答者が5人と極端に少なく参考値として扱わざるをえない。原動機付自転車・自動二輪車を含めた他の移動手段では、投票参加率にほとんど差がない。ただし、投票に行かなかった回答者は、投票所までの移動手段について把握していない可能性があり、「わからない」と回答する傾向があるため、その点については注意が必要である。

図 14 投票参加率（投票所までの移動手段別）



家庭内での政治についての会話と投票参加率の関係を見てみる。本調査では、「あなたはふだん政治に関する話を家族としますか」と尋ねている。半数近くが「たまにする」と回答し、3割程度が「ほとんどしない」と回答している。予想されるとおり、家庭での会話の頻度が多くなるほど、投票参加率が高くなる。「よくする」場合は83.1%と高く、「たまにする」場合は68.3%と全体平均並みである。「ほとんどしない」場合は53.0%と低い。家族がいない場合には、63.2%と投票参加率は低いが「ほとんどしない」場合ほどではない。

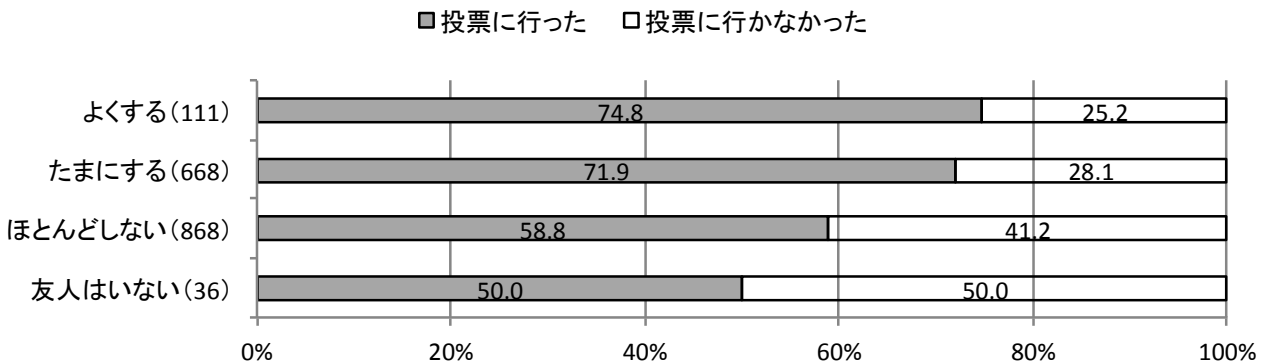
図 15 投票参加率（家族との政治的会話別）



家庭ではなく、友人との政治的な会話の頻度について、投票参加との関係を見てみる。「あなたはふだん政治に関する話を友人としますか」という質問にたいして、半数近くの回答者が「ほとんどしない」と回答し、4割近い回答者は「たまにする」と回答している。家族との頻度と比べて、友人との政治的な会話の頻度は低い傾向にある。

友人との政治的な会話と投票参加率の関係も、頻度が高いほど投票参加率が高い。ただし、家族との会話ほど大きな差はなく、「よくする」場合（74.8%）と「たまにする」場合（71.9%）と高いが7割程度である。「ほとんどしない」場合も58.8%と低いが、家族との政治的会話別ほどではない（53.0%）。友人がいない場合には、投票参加率はさらに低く50.0%となる。

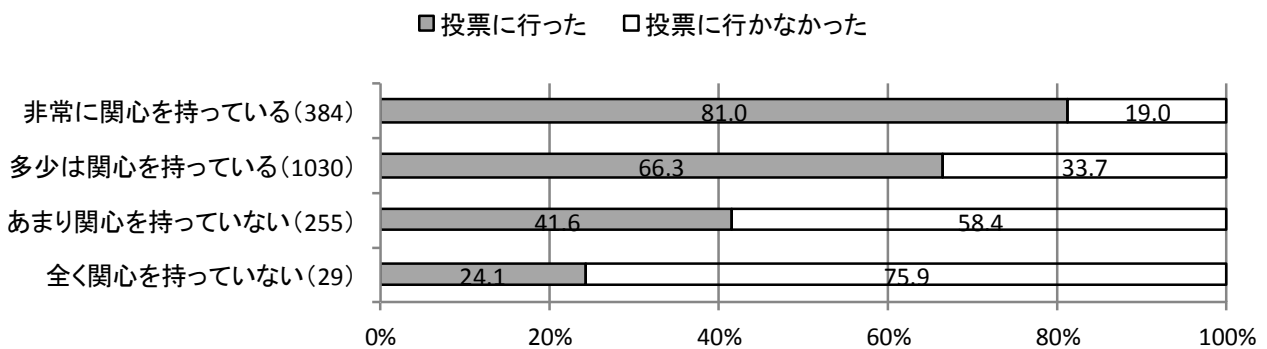
図 16 投票参加率（友人との政治的会話別）



(2) 政治意識と投票参加率

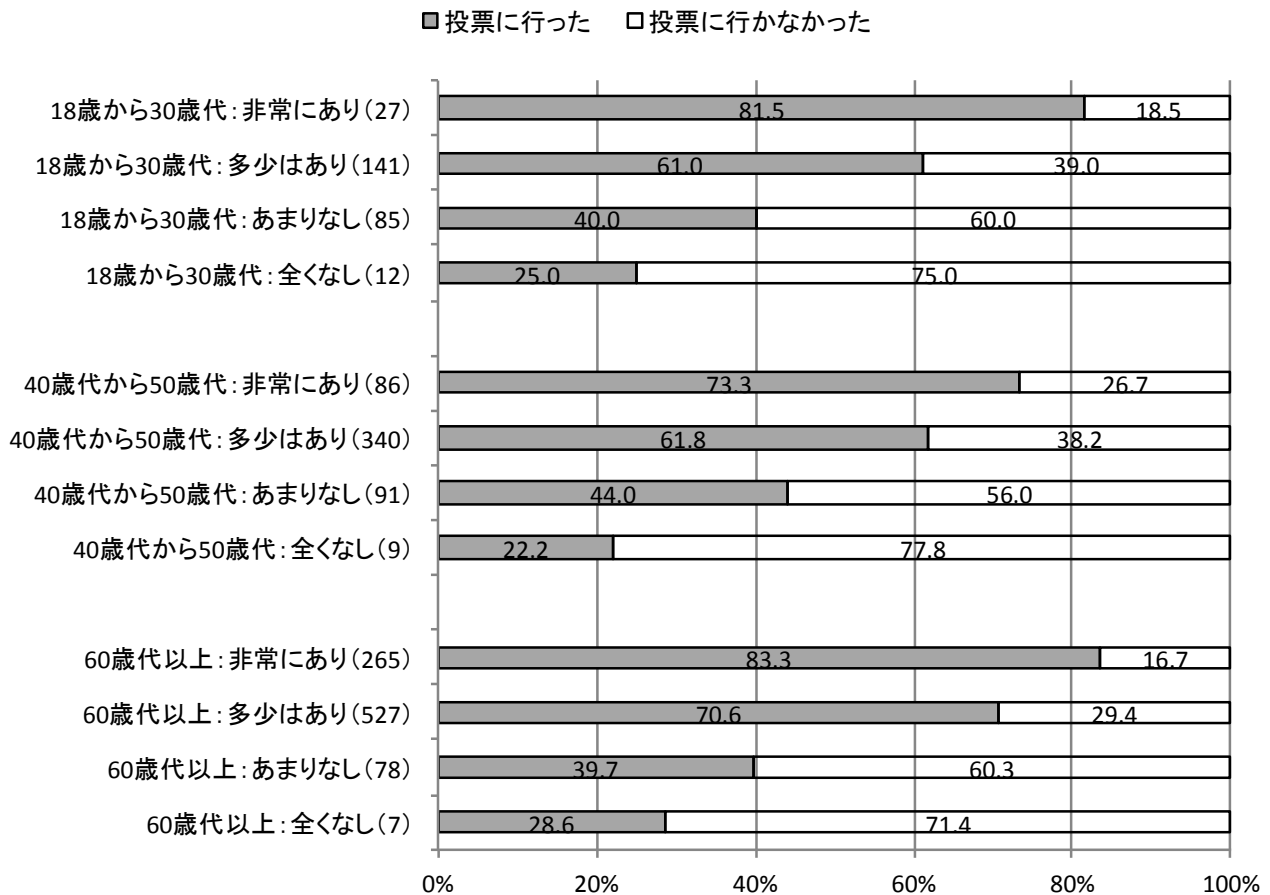
投票参加率を政治関心度別に見てみると、ふだんから国や地方の政治について関心を持っているほど投票参加率が高いという関係がわかる。「非常に関心を持っている」場合には81.0%と非常に高く、「多少は関心を持っている」場合も66.3%と全体平均より高い。他方、「あまり関心を持っていない」場合は41.6%と投票参加率が一気に下がり、「全く関心を持っていない」場合は24.1%と極端に低い。

図 17 投票参加率（政治関心度別）



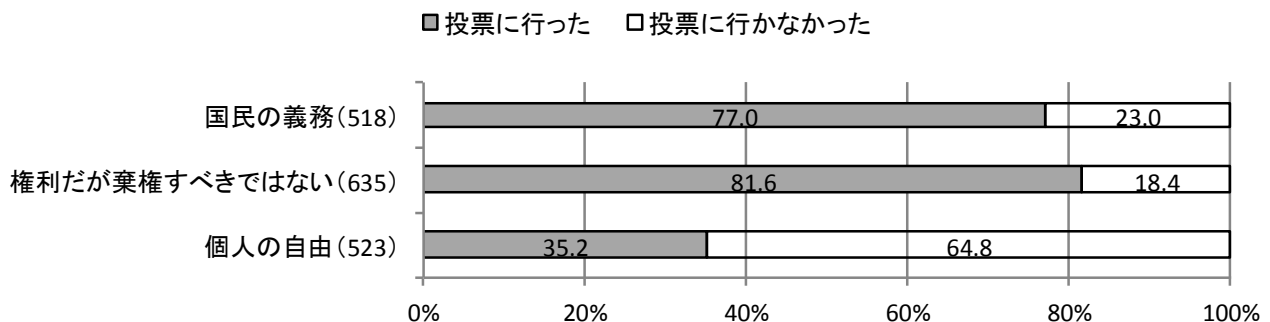
さらに政治関心度と投票参加率の関係を年代別に確認すると、年齢層による相違はそれほど見られない。いずれも政治関心度と投票参加率は比例しており、「非常に関心を持っている」と「全く関心を持っていない」の差は著しく大きい。あえて相違をあげれば、「非常に関心を持っている」有権者のうち、40歳代・50歳代での投票参加率が73.3%と他の年代（若年層81.5%、高齢層83.3%）よりも低いことと、「多少は関心を持っている」有権者のうち、高齢層での投票参加率（70.6%）が他の年代（若年層61.0%、壮年層61.8%）と比べて高いことである。

図 18 投票参加率（年代別，政治関心度別）



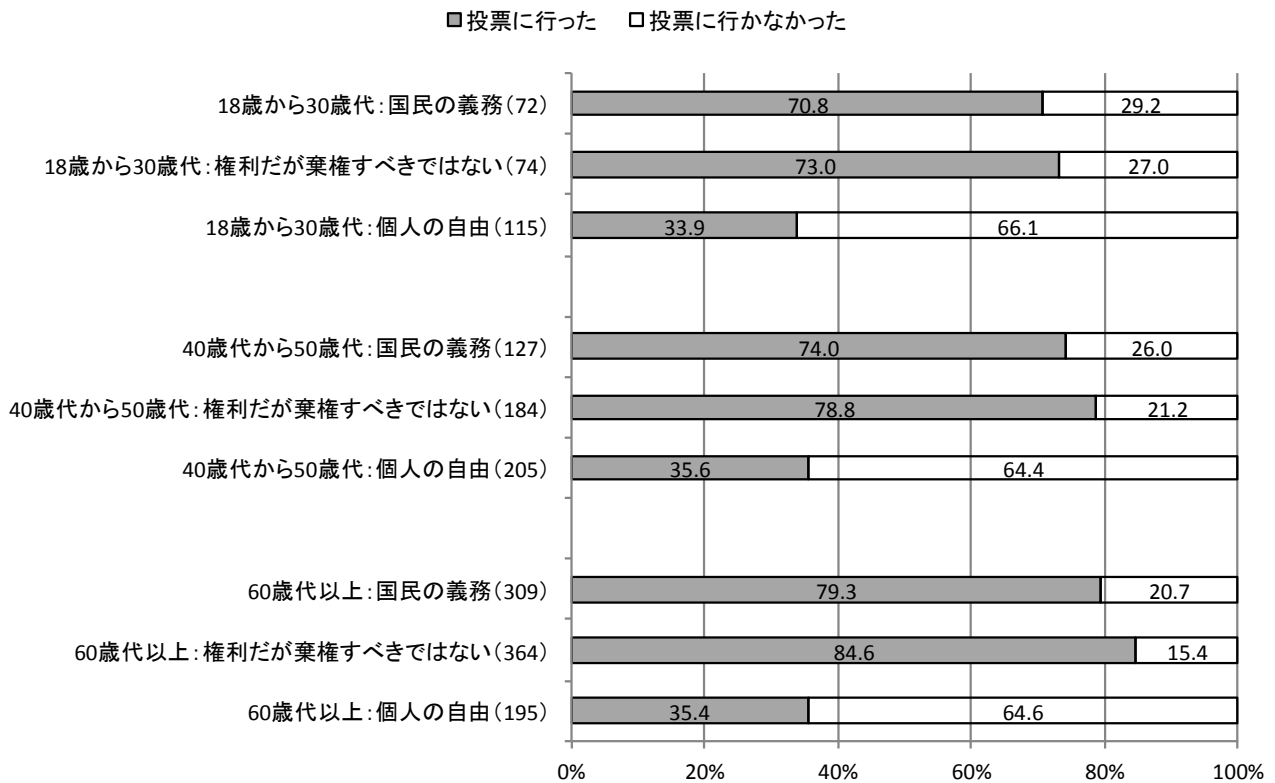
投票参加率を投票に対する意識ごとに確認すると、「投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない」と回答した者の投票参加率が最も高く、81.6%となっている。「投票することは国民の義務である」と捉える者の投票参加率は77.0%とその次に高い。他方で、「投票する、しないは個人の自由である」と考える者の投票参加率は35.2%と極端に低い。

図 19 投票参加率（投票に対する意識別）



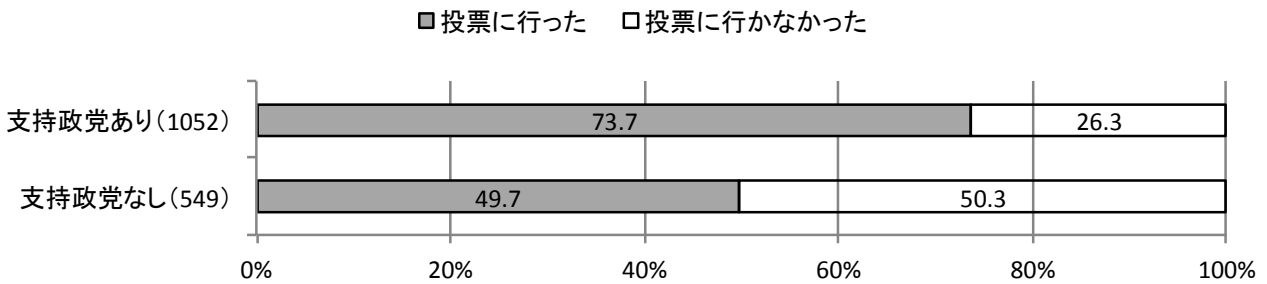
さらに投票に対する意識と投票参加率の関係を年代別に確認すると、年齢層ごとの相違はそれほど見られない。どの年代でも、「権利だが棄権すべきでない」「国民の義務」「個人の自由」という順番で投票参加率が高い。また、高齢層においては「権利だが棄権すべきでない」「国民の義務」と捉えている者の投票参加率が他の年代と比較しても高い。

図 20 投票参加率（年代別、投票に対する意識別）



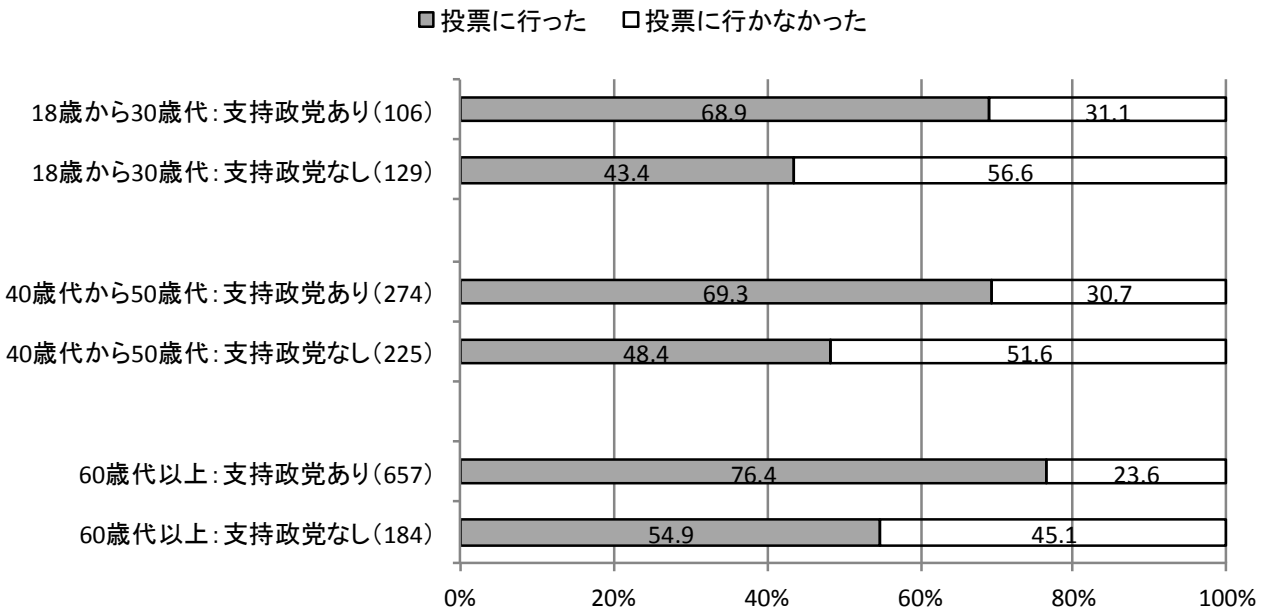
投票参加率を支持政党の有無別に確認してみる。本調査では、「あなたはふだん何党を支持していらっしゃいますか」という形式で支持政党について尋ねている。いずれかの政党を選んだ回答者を「支持政党あり」、「支持する政党はない」と回答した者を「支持政党なし」とした。後者は一般的に無党派層とも呼ばれる。回答者のおよそ6割が「支持政党あり」で、およそ3割が「支持政党なし」である（残り1割弱は「わからない」ないし無回答）。投票参加率は支持政党ありが73.7%と、支持政党なしの49.7%よりも高い。

図 21 投票参加率（支持政党の有無別）



支持政党の有無と投票参加率の関係を年代別に確認すると、いずれの年代でも支持政党ありの回答者の投票参加率が高いという関係は変わらない。支持政党なしの場合、年代が上がるにつれて投票参加率も43.4%、48.4%、54.9%と高くなっていく。他方で、支持政党ありの場合、高齢層の投票参加率（76.4%）は他の年代より高いものの、他の2つの年代の差はほとんどなく、18歳から30歳代で68.9%、40歳代・50歳代で69.3%である。つまり、支持政党がある場合、若年層でも壮年層並に投票参加をすることが分かる。ただし、若年層においては、支持政党ありより支持政党なしの方が多い。

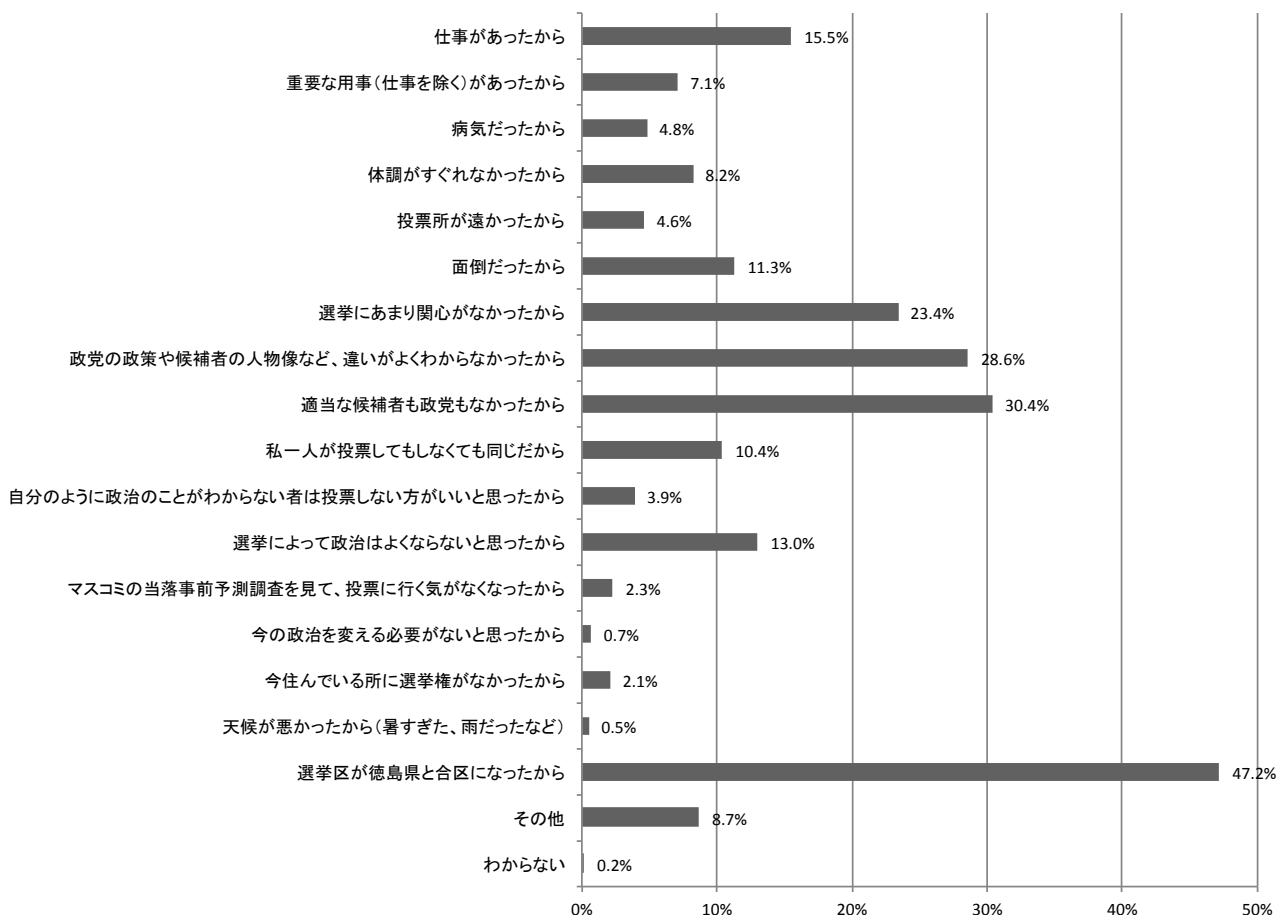
図 22 投票参加率（年代別、支持政党の有無別）



5 棄権の理由

本調査では、今回の参院選に棄権した回答者608人に棄権した理由を直接尋ねている。18個の理由を示し、当てはまるものをすべて選ぶ複数回答形式で尋ねているため、合計すると100%を超えるという点に注意されたい。

図 23 棄権の理由

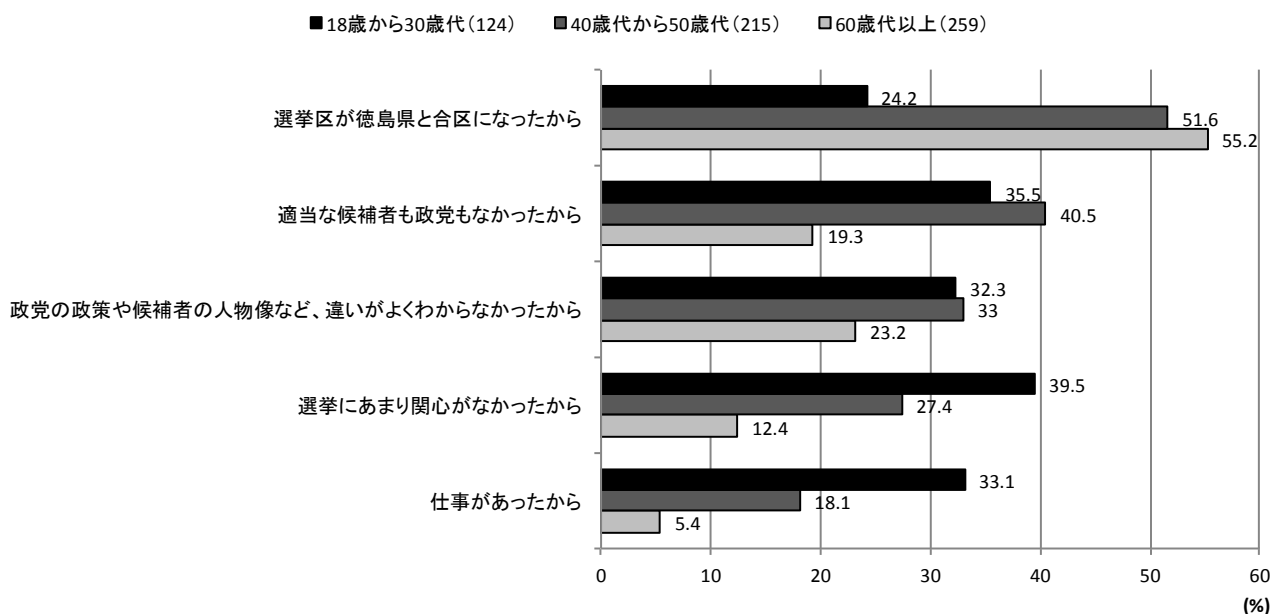


最も多い回答は、「選挙区が徳島県と合区になったから」(47.2%)であり、棄権者のおよそ半数が今回の合区によって棄権を決めたと報告している。他の選択肢と比べても、突出して高い数字であることがわかるだろう。それに次ぐのは、「適当な候補者も政党もなかったから」(30.4%)と「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」(28.6%)という政党や候補者に対する評価に起因するものである。さらに、「選挙にあまり関心がなかったから」(23.4%)、「仕事があったから」(15.5%)と続き、ここまでが上位5つの理由である。6位以降は、「選挙によって政治はよくならないと思ったから」(13.0%)、「面倒だったから」(11.3%)、「私一人が投票してもしなくても同じだから」(10.4%)、「その他」(8.7%)、「体調がすぐれなかったから」(8.2%)、「重要な用事(仕事を除く)があったから」(7.1%)、「病気だったから」(4.8%)、「投票所が遠かったから」(4.6%)、「自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったか

ら」(3.9%)、「マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから」(2.3%)、「今住んでいる所に選挙権がなかったから」(2.1%)、「今の政治を変える必要がないと思ったから」(0.7%)、「天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)」(0.5%)である。

この選択肢のうち、上位5つの理由を取り上げて、年代ごとの分布を確認してみる。年代ごとに棄権理由が異なることが明らかになった。全体1位の「選挙区が徳島県と合区になったから」という理由は40歳代・50歳代および60歳代以上で50%を超えるのに対し、30歳代までの場合はおよそ25%にとどまる。若年層にとってはこの5つの選択肢の中で最も低い言及率である。全体2位の「適当な候補者も政党もなかったから」は若年層と壮年層で言及率が高いが、高齢層では低い。全体3位の「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」も同様の傾向があり、若年層と壮年層は政党や候補者に対する評価を理由に棄権をしている傾向があることがわかる。全体4位の「選挙にあまり関心がなかったから」は、この5つの理由のうち、若年層では最も言及率(39.5%)が高い理由である。他方、壮年層では27.4%、高齢層では12.4%と言及率が下がり、若いほど、この理由を挙げる傾向がある。同様に、全体5位の「仕事があったから」も若いほど言及率が高く、高齢層では言及率が低い。これは仕事に従事している人の割合が高齢者では少ないので当然の結果といえるが、壮年層でもこれを理由に棄権する人はそれほど多くない(18.1%)。

図 24 棄権の理由(年代別)

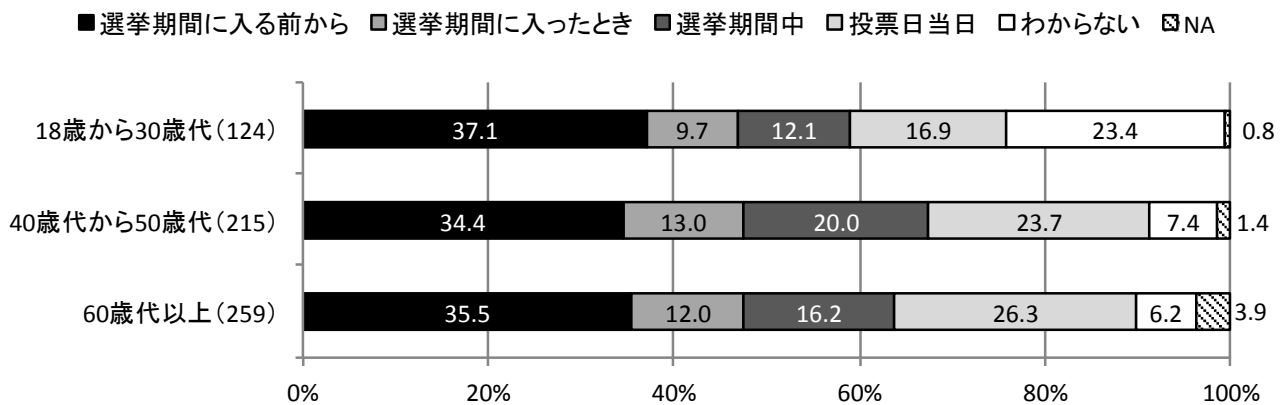


本調査では、棄権を決めた時期について、「投票に行かないと決めたのはいつ頃ですか」という形式で尋ねている。棄権した回答者のうち、「選挙期間に入る前から(6月21日以前)」決めていた回答者が35.6%と最大である。12.2%が「選挙期間に入った時(6月22日(水))」、16.8%が「選挙期間中(6月23日(木)から7月9日(土))」、23.4%が「投票日当日(7月10日(日))」に決め

たとしている。なお、10.4%が「わからない」と回答し、自分が棄権を決めた時期を明確に記憶をしていないか、意識をしていない。

年代別に棄権を決めた時期を見てみると、いずれの年代でも選挙期間に入る前には決めていた回答者が最も多い。40歳代・50歳代と60歳代以上は概ね同じようなパターンであるが、最も特徴的なのは18歳から30歳代の「わからない」という回答の多さである。「わからない」は「選挙期間に入る前から」に次いで多く、23.4%が言及している。若年層は棄権するか否かという決断をそれほど明確にしていない可能性が示唆される。

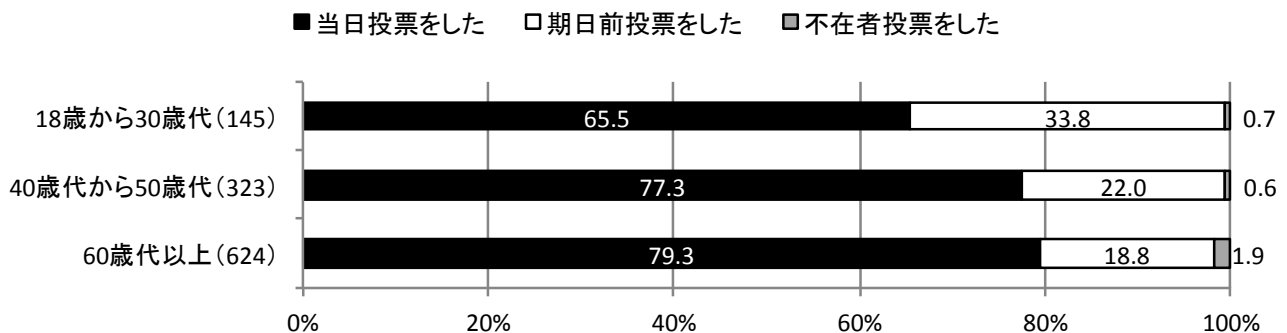
図 25 棄権を決めた時期（年代別）



6 投票行動

本調査では、今回の参院選で投票した回答者1115人に、今回の投票について質問をしている。投票した回答者のうち、76.0%が当日投票、21.6%が期日前投票、1.4%が不在者投票を行っている。実際の期日前投票の投票率は9.23%で、投票率全体（40.29%）に占める割合は22.91%であった。今回の調査結果は、実際の投票率と同程度であることがわかる。

図 26 投票形態（年代別）

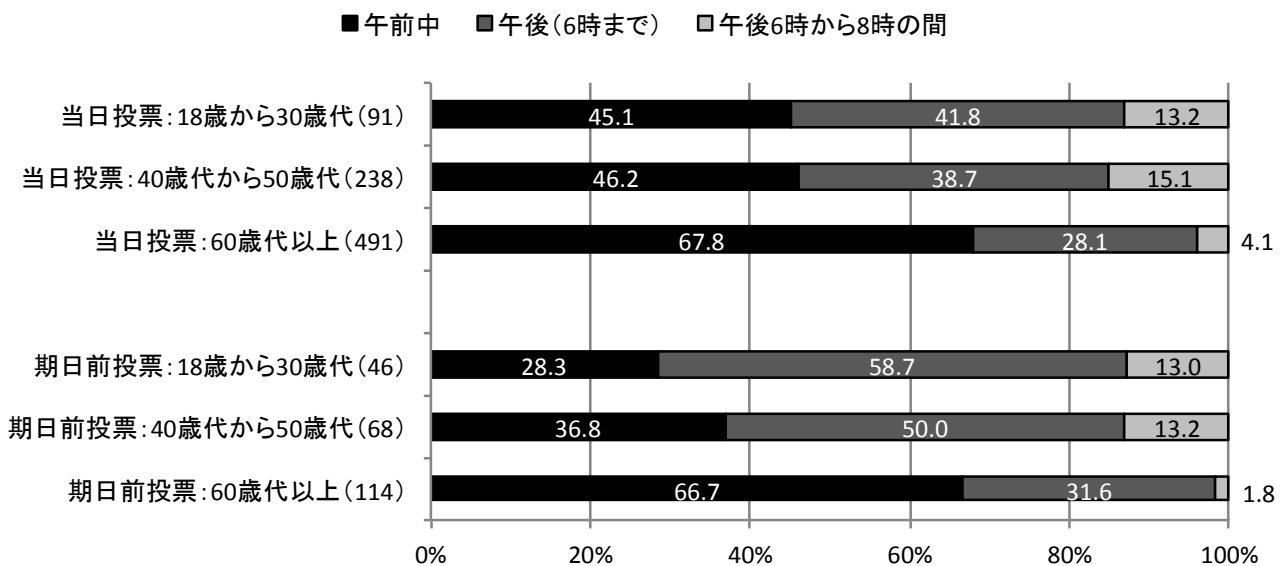


年代別に投票形態を見てみると、40歳代・50歳代では同じような分布である。本調査では、18歳から30歳代では、当日投票が65.5%と他に比べて10-15ポイントほど少ない。その分、期日前投票が33.8%と10-15ポイントほど多くなっている。なお、実際の投票者における期日前投票の割合は18歳から30歳代では23.34%、40歳代・50歳代では23.16%、60歳代以上では22.71%であったので、年代による相違はそれほどない。

本調査では、投票した時間についても尋ねている。投票した時間は当日投票では、58.0%が午前中、32.2%が午後（6時まで）、8.3%が午後6時から8時の間、0.2%が午後8時以降に投票している。期日前投票では、47.3%が午前中、42.3%が午後（6時まで）、7.5%が午後6時から8時まで、2.1%が午後8時以降に投票をしている。当日投票も期日前投票も午後8時には投票所は開いていないため、午後8時以降という申告は本人の記憶違いであることが推測される（この後の分析では除外する）。

さらに投票した時間を投票形態別、年代別に見てみると、当日投票では高齢層の午前中投票が67.8%と高く、他の年代の45%程度という数字よりもかなり高い。他方、他の年代はほとんど同じようなパターンを示しており、およそ45%が午前中、およそ40%が午後（6時まで）、およそ15%が午後6-8時に投票している。期日前投票でも、高齢層は午前中に投票をする傾向がある（66.7%）。18歳から30歳代と40歳代・50歳代の両者は半数以上が午後（6時まで）に期日前投票をしているが、若年層のほうが58.7%とその傾向が強い。

図 27 投票した時間（投票形態別、年代別）

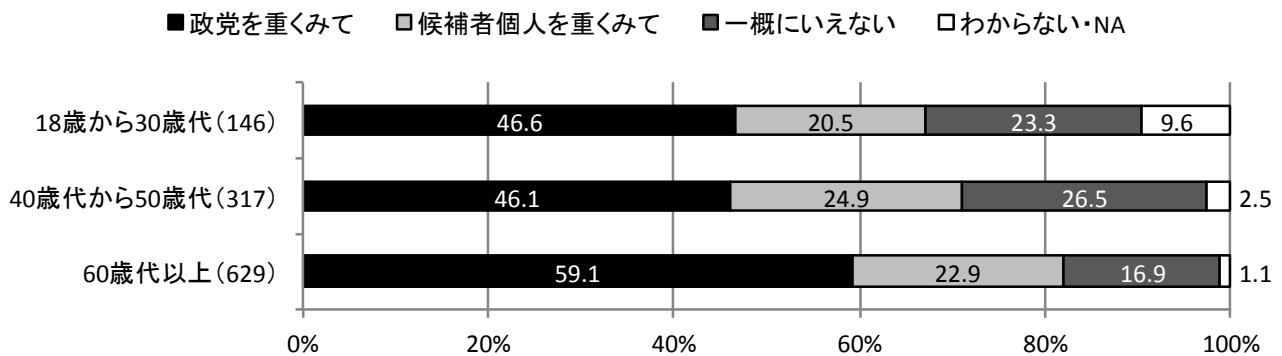


次に、今回の参院選の選挙区選挙で投票するとき、政党と候補者のどちらを重視して投票したかを尋ねた。質問文としては、「あなたは、選挙区選挙で、政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか」というものである。全体では、53.5%が「政党を重くみて」と回答し、23.1%が「候補者個人を重くみて」と回答している。「一概にいけない」という回

答が20.5%で、「わからない」という回答は2.2%であった。

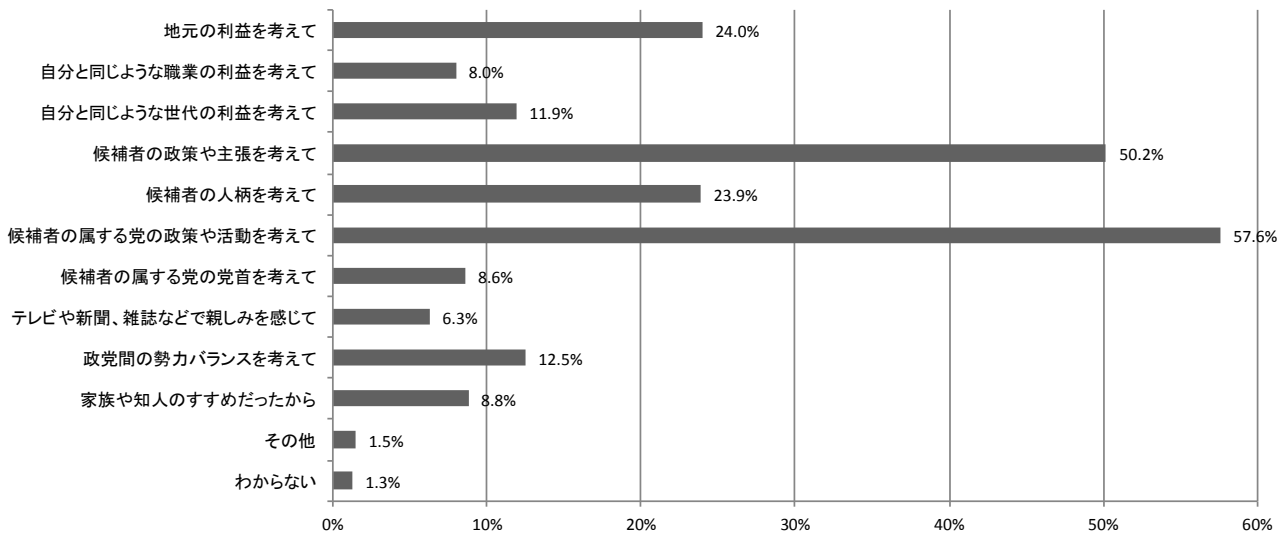
年代別に見てみると、60歳代以上で政党重視の回答が多いことが分かる。60歳代以上はおよそ60%が政党重視であるが、下の年代は45%程度である。それでは下の2つの年代は候補者重視かという世代間での相違はそれほど大きくはなく、むしろ「一概にいけない」や「わからない」という回答が多くなり、両方の年代ではおよそ30%を占める。

図 28 選挙区選挙における投票基準（年代別）



さらに、選挙区選挙で重視した点を尋ねた。具体的には「あなたは選挙区選挙で候補者を選ぶ時、どういう点を重くみて投票する人を決めたのですか」という質問に対して、11の点を列挙してあてはまるものをすべて選択してもらった。最も選ばれたのは、「候補者の属する党の政策や活動を考えて」で57.6%であった。次いで、50.2%が「候補者の政策や主張を考慮」を選んだ。半数以上が選んだのはこの2つで、政党や候補者の政策が考慮に入れられたことが示されている。さらにおよそ4分の1の投票者が選んだのは、「地元の利益を考慮」(24.0%)と「候補者の人柄を考慮」(23.9%)であった。その他は回答者が多い順に、「政党間の勢力バランスを考慮」(12.5%)、「自分と同じような世代の利益を考慮」(11.9%)、「家族や知人のすすめだったから」(8.8%)、「候補者の属する党の党首を考慮」(8.6%)、「自分と同じような職業の利益を考慮」(8.0%)、「テレビや新聞、雑誌などで親しみを感じて」(6.3%)、「その他」(1.5%)であった。

図 29 選挙区選挙において重視した点



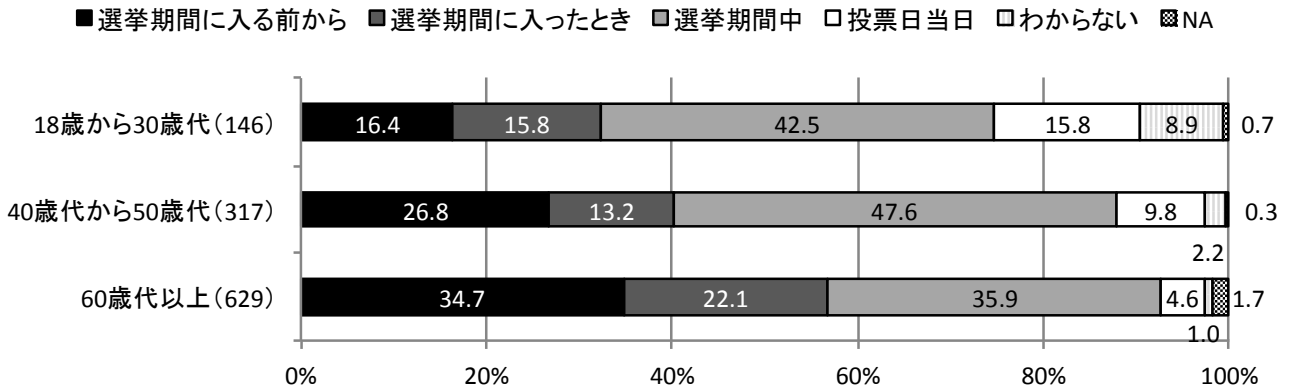
選挙区選挙における投票先については、「選挙区選挙で投票した人は、何党の人でしたか」という質問で投票参加した回答者のみに尋ねた。実際に立候補をしていた候補者は、自民党所属、無所属（民進党、共産党、社民党推薦）、幸福実現党所属であった。調査での回答では、「自民党」が43.2%、「民進党」が20.4%、「公明党」が6.0%、「共産党」が13.1%、「おおさか維新の会」が1.0%、「日本のこころを大切にする党」が0.1%、「社民党」が0.7%、「その他の党」が0.7%、「無所属」が3.9%、「白票を入れた」が3.0%、「わからない」が4.8%であった。候補者名で選択肢を用意しなかったため、実際には立候補していない政党への回答が多く見られる。民進党、共産党への回答数が多いが、これらは野党系無所属候補への投票を指していると思われる、それぞれの回答者がその候補者をどのような観点から捉えていたかを表しており、興味深い。なお、実際の得票率は中西祐介候補（自民党）が46.79%、大西聡候補（無所属）が50.69%、福山正敏候補（幸福実現党）が2.51%、無効投票率が6.33%であった。

選挙区選挙での投票先決定時期についても尋ねている。「選挙区選挙で、投票する人を決めたのはいつ頃でしたか」という質問に対し、「選挙期間に入る前から（6月21日以前）」が29.8%、「選挙期間に入った時（6月22日（水））」が18.5%、「選挙期間中（6月23日（木）から7月9日（土））」が40.4%、「投票日当日（7月10日（日））」が7.4%、「わからない」が2.5%であった。

年代別に確認すると、高齢層ほど早めに投票先を決定していることがわかる。およそ3分の1は選挙期間の前から投票先を決定している。高齢層は選挙期間に入ったときに決める人も他の年代に比べて多く、半数以上は選挙期間が始まったときには投票先を決定している。それに対して、若年層では選挙期間前から決めているのは16.4%で、選挙期間に入ったときとあわせてようやく3分の1程度が投票先を決定していることになる。若年層で特徴的なのは、投票日当日に投票先を決める割合が他の年代よりも高く、15.8%もあることである。また、「わからない」という回答も多く（8.9%）、投票先決定について明確に意識をしていないか覚えていない傾向があることがわかる。40歳代・50

歳代は高齢層と若年層の間のような結果となっている。選挙期間に入ったときにはおよそ4割が投票先を決定しており、選挙期間中には9割が決定することが明らかになった。

図 30 選挙区選挙における投票先決定時期（年代別）

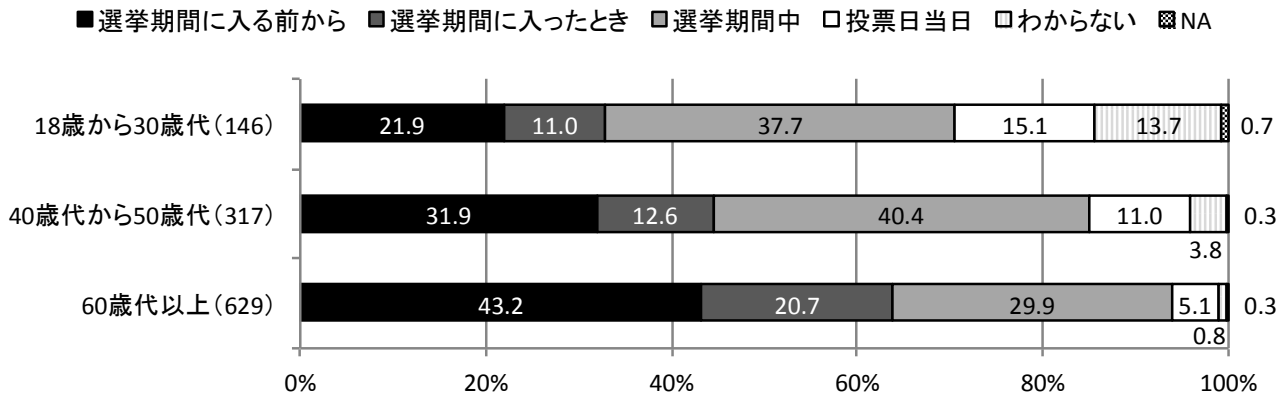


比例代表選挙での投票先については、「比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者でしたか」という質問で投票参加した回答者のみに尋ねた。「自民党」が37.0%、「民進党」17.1%、「公明党」9.8%、「共産党」18.4%、「おおさか維新の会」2.9%、「日本のことを大切にする党」0.8%、「社民党」1.8%、「生活の党」0.8%、「新党改革」0.1%、「その他の党」1.3%、「白票を入れた」1.2%、「わからない」6.4%であった。なお、実際の投票率は、自民党が30.80%、民進党が17.66%、共産党が20.62%、公明党が16.85%、おおさか維新の会が4.63%、社民党が3.08%、生活の党が1.86%、国民怒りの声が1.06%、日本のことを大切にする党が0.96%、新党改革が0.78%、幸福実現党が0.67%、白票・無効投票率が3.59%であった。

投票先決定時期については、比例代表選挙でも選挙区選挙同様に尋ねている。「比例代表選挙で、あなたがその政党、または候補者に投票することを決めたのはいつ頃でしたか」という質問に対し、「選挙期間に入る前から（6月21日以前）」が37.0%、「選挙期間に入った時（6月22日（水））」が16.8%、「選挙期間中（6月23日（木）から7月9日（土））」が34.2%、「投票日当日（7月10日（日））」が8.2%、「わからない」が3.4%であった。

年代別に見てみると、選挙区選挙同様に高齢層では投票決定時期が早く、若年層では遅い傾向がある。ただし、選挙区選挙に比べて、比例代表選挙の場合には投票先決定は早い傾向があるようである。基本的に政党で選ぶ比例代表選挙については、ふだんのニュースなどから、それぞれの政党についての認知と評価をある程度有しているのに対して、候補者を選ぶ選挙区選挙では、個々の候補者を知る必要があるために、投票先決定が遅れるのかもしれない。また、合区選挙となり、選挙区選挙の候補者がすべて徳島出身であったため、高知市の有権者には馴染みが薄く、投票先決定に時間がかかったとも考えられる。

図 31 比例代表選挙における投票先決定時期（年代別）

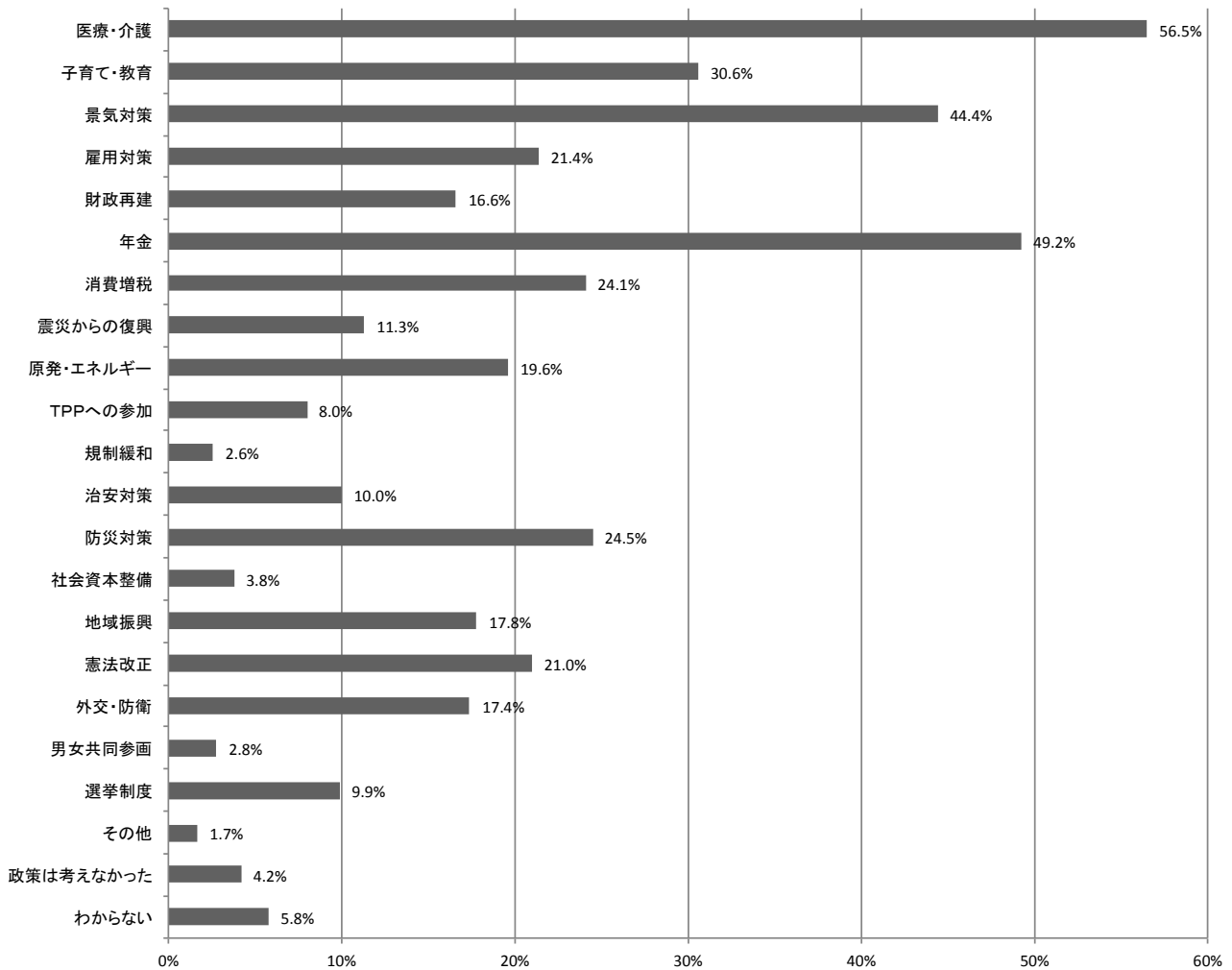


7 政治的態度

本調査は、参院選において考慮された政策課題について、「今回の参院選では、どのような政策課題を考慮しましたか」という質問によって尋ねている。選択肢としては20の政策課題を並べ、回答者には当てはまるものをすべて選ぶ、複数回答形式の質問となっている。この質問については、投票者だけでなく棄権者についても対象としている。

全体として最も考慮された政策課題は、「医療・介護」（56.5%）であった。実に半数以上がこの政策課題を選んでいる。さらに、半数近くが「年金」（49.2%）を選び、「景気対策」（44.4%）が大きな関心を集める課題であったことがわかる。4位以降は、「子育て・教育」（30.6%）、「防災対策」（24.5%）、「消費増税」（24.1%）、「雇用対策」（21.4%）、「憲法改正」（21.0%）、「原発・エネルギー」（19.6%）、「地域振興」（17.8%）、「外交・防衛」（17.4%）、「財政再建」（16.6%）、「震災からの復興」（11.3%）、「治安対策」（10.0%）、「選挙制度」（9.9%）、「TPPへの参加」（8.0%）、「社会資本整備」（3.8%）、「男女共同参画」（2.8%）、「規制緩和」（2.6%）、「その他」（1.7%）の順である。総じて、福祉政策（「医療・介護」「年金」「子育て・教育」）と経済政策（「景気対策」「消費増税」「雇用対策」）が考慮され、前年に注目された「外交・防衛」政策についてはそれほど考慮されていなかった。なお、「政策は考えなかった」回答者は4.2%、「わからない」という回答者は5.8%いた。

図 32 考慮した政策課題



年代別に見てみると、年代によって異なる政策課題が考慮されていたことが明らかになる。上位3つをそれぞれの年代であげると、18歳から30歳代では「子育て・教育」「景気対策」「医療・介護」、40歳代・50歳代では「医療・介護」「景気対策」「年金」、60歳以上では「医療・介護」「年金」「景気対策」であった。「医療・介護」はどの世代でも関心が高いが、特に年齢が高いほどこの政策課題を挙げる傾向がある。高齢層で3分の2、壮年層で半数、若年層で3分の1の言及率となっている。同様に、高齢者向けの福祉政策である「年金」についても、年齢によって考慮の度合いが異なる。高齢層では62.8%（2位）、壮年層では40.3%（3位）、若年層では23.9%（5位）の言及率となっている。他方で、若年層向けの福祉政策である「子育て・教育」については、若年層では最も考慮されているが（43.8%、1位）、壮年層では35.3%（4位）、高齢層では24.4%（7位）と考慮の度合いが低くなる。他方で、世代を通じて考慮されているのは「景気対策」であり、若年層・壮年層で2位、高齢層で3位の言及率となっている。

また、若年層の言及率は全体的に低く、高齢層のほうが言及率が高い。若者において「わからない」という回答は16.3%にも上り、政策課題の中に並べれば6位となる。他方で、壮年層では5.2%、

高齢層では2.8%となっている。「政策は考えなかった」若年層は9.8%，壮年層は6.0%，高齢層は1.5%であった。

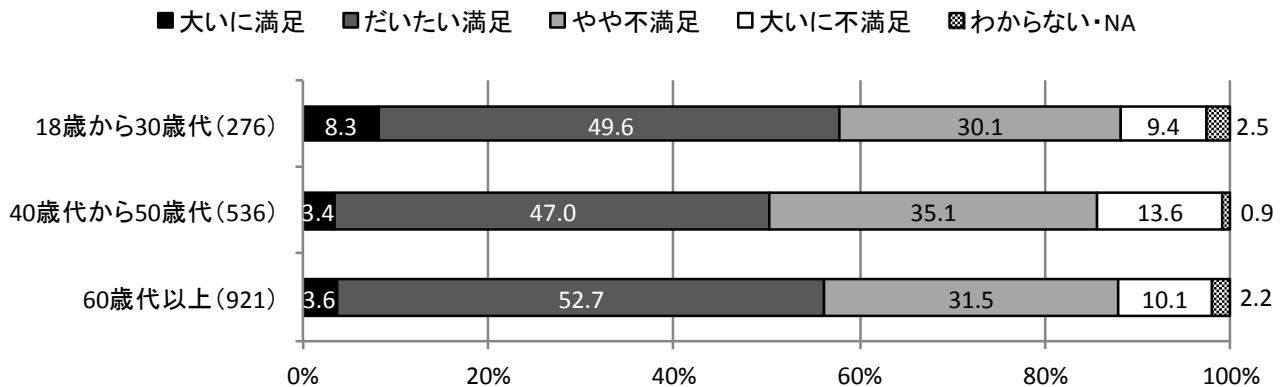
表 2 考慮した政策課題（年代別）

	18 歳から 30 歳代 (276)		40 歳代から 50 歳代 (536)		60 歳代以上 (921)	
1	子育て・教育	43.8	医療・介護	50.0	医療・介護	67.5
2	景気対策	42.0	景気対策	48.1	年金	62.8
3	医療・介護	32.6	年金	40.3	景気対策	43.8
4	雇用対策	26.8	子育て・教育	35.3	防災対策	29.3
5	年金	23.9	雇用対策	24.4	消費増税	27.8
6	防災対策	15.2	消費増税	23.5	憲法改正	25.1
7	消費増税	13.8	防災対策	21.5	子育て・教育	24.4
8	地域振興	12.7	原発・エネルギー	18.7	原発・エネルギー	23.6
9	財政再建	12.0	憲法改正	18.5	地域振興	21.6
10	憲法改正	11.6	財政再建	18.1	外交・防衛	20.7

本調査では、生活満足度と政治満足度を尋ねている。「あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか」という質問への回答に基づく生活満足度から見ると、全体として、4.2%が「大いに満足している」、50.3%が「だいたい満足している」、32.4%が「やや不満足である」、11.2%が「大いに不満足である」、1.6%が「わからない」と回答している。高知市の有権者は概して現在の生活に満足しているようである。

生活満足度を年代別に見てみると、特徴的なのは年齢との関係が比例関係ではなく、40歳代・50歳代の生活満足度が低いという凹型の関係があるという点である。「大いに満足している」と「だいたい満足している」を合わせて、40歳代・50歳代では50.4%であったのに対し、高齢層では56.3%程度、若年層ではおよそ57.9%であった。

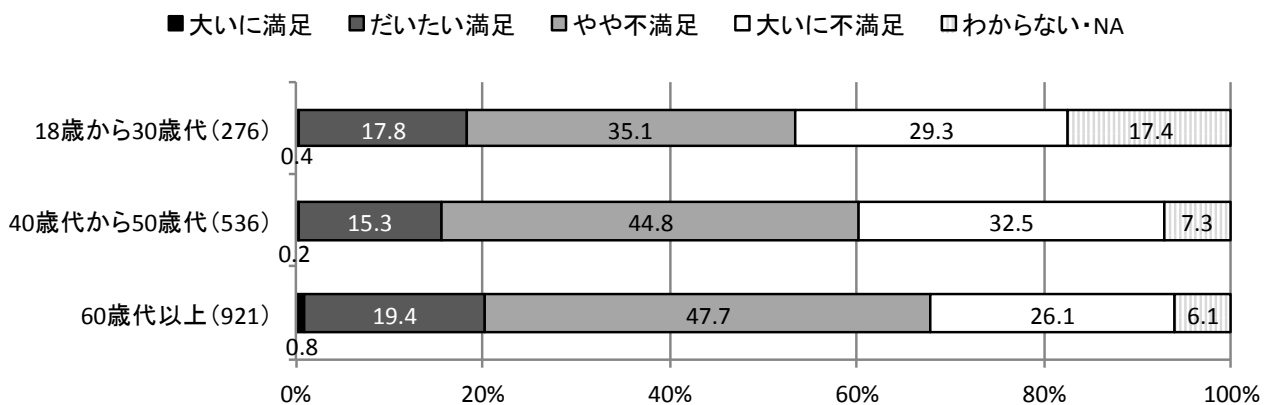
図 33 生活満足度（年代別）



政治満足度については、「あなたは現在の政治に対してどの程度満足していますか」という質問で尋ねている。全体としては、0.5%が「大いに満足している」、17.8%が「だいたい満足している」、45.0%が「やや不満足である」、28.4%が「大いに不満足である」、8.0%が「わからない」と回答している。生活満足度と比べてみると明らかであるが、政治については著しく不満足に感じていることがわかる。

政治満足度を年代別に見てみると、各年代とも15-20%が政治に満足しており（「大いに満足」＋「だいたい満足」）、年代によっては変わらない。他方で、政治に不満足という回答（「やや不満足」＋「大いに不満足」）は、40歳代・50歳代で77.3%と高く、高齢層が73.8%で続き、若年層は64.4%と低い。その代わりに、若年層は「わからない・無回答」が他と比べて多い。生活満足度と合わせて考えると、40歳代・50歳代は生活に満足しておらず、政治にも不満が高い。

図 34 政治満足度（年代別）

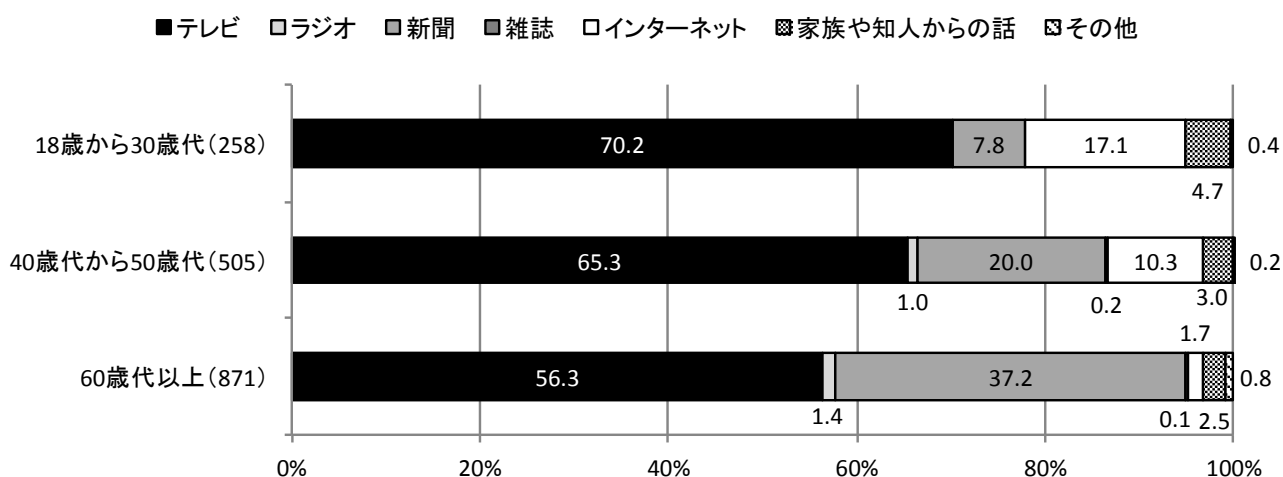


8 選挙関連情報源

本調査では、政治や選挙に関する情報の入手先や内容について様々な質問で尋ねている。一般的な政治・選挙情報の入手先メディアについては、「あなたは、政治、選挙に関する情報を主に何から得ていますか」として尋ね、最も多くの情報を得ているものを1つだけ回答してもらった。全体として、57.6%が「テレビ」、25.7%が「新聞」、1.2%が「ラジオ」、6.4%が「インターネット」、2.8%が「家族や知人からの話」、0.6%が「その他」、0.1%が「雑誌」と回答していた。

政治や選挙に関する情報の入手先メディアについて年代別に見てみると、世代による情報入手経路の相違がよくわかる。18歳から30歳代は、70.2%がテレビから情報を入手し、次にインターネットが17.1%で、新聞は7.8%に過ぎない。40歳代・50歳代では、テレビが65.3%、インターネットも10.3%に減り、その代わりに、新聞が20.0%に上昇している。これが60歳代以上になると、テレビが56.3%、インターネットは実に1.7%にまで減り、新聞が37.2%にまで上がる。

図 35 政治や選挙に関する情報入手先（年代別）



次に、参院選での選挙運動への接触度と有用度を見てみよう。本調査では、「今回の参院選で、あなたが見たり聞いたりしたもの」として24の選挙運動の手段を挙げ、接触したものをすべて選択してもらっている。さらに、接触したもののうち「役に立った」ものについてもすべて選択してもらった。

まずは接触度のほうから確認すると、最も接触度の高いものは「候補者の政見放送・経歴放送（テレビ）」（46.2%）であり、次いで「掲示場にはられた候補者のポスター」（43.9%）が挙げられた。政見放送で候補者の情報を得るような有権者や候補者のポスターを見る有権者はそれぞれ45%程度いることがわかる。続いて、「政党の政見放送（テレビ）」（38.9%）、「候補者の新聞広告」（34.6%）、「選挙公報」（34.2%）、「政党の新聞広告」（27.2%）、「党首討論会（テレビ・インターネット）」（26.3%）となる。多くはメディアを通じた情報接触となっている。さらに、「政党のビラ・ポスター」（24.0%）、「候補者のビラ」（21.1%）、「政党のテレビスポット広告」（18.8%）、「候補

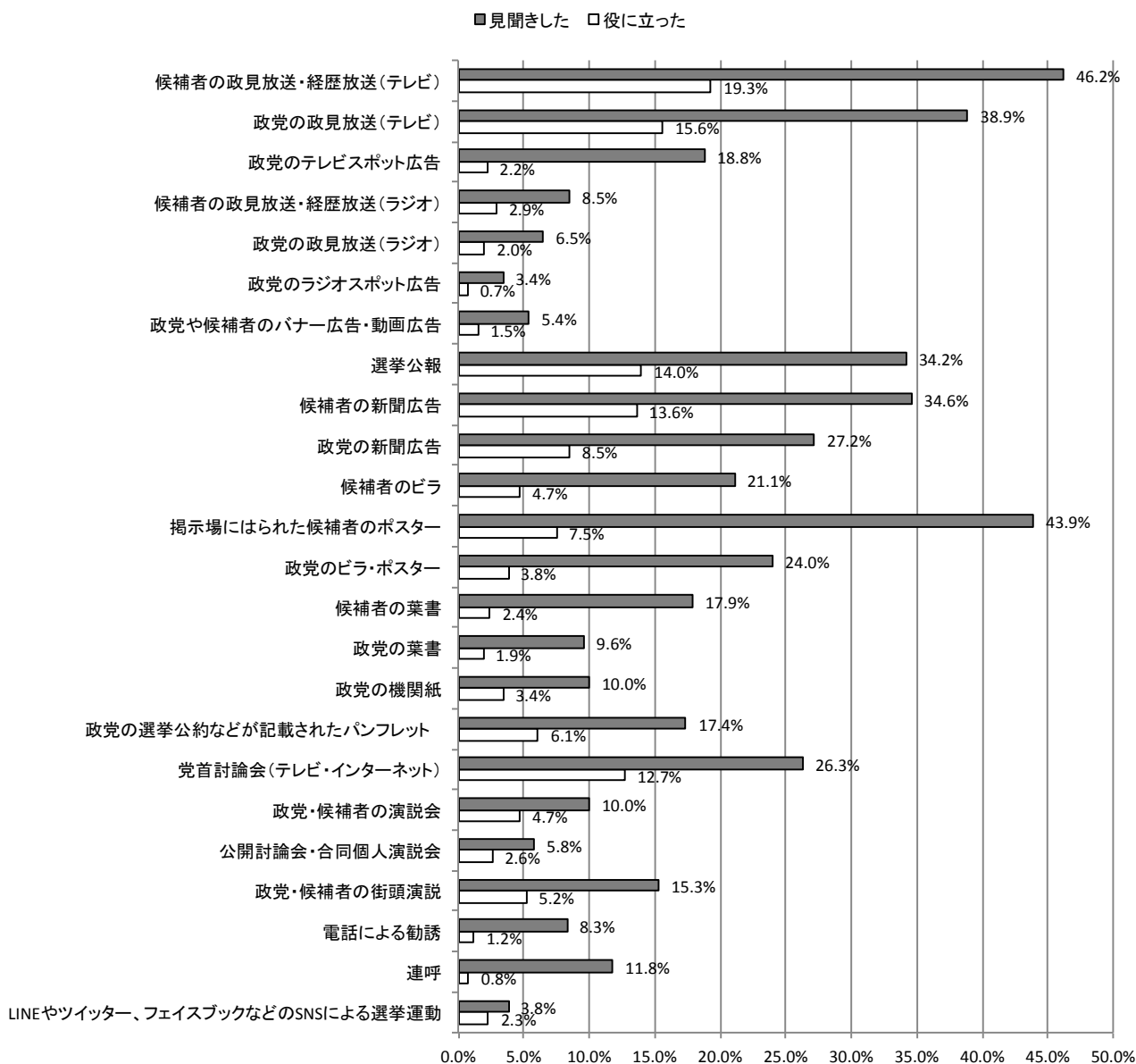
者の葉書」(17.9%)、「政党の選挙公約などが記載されたパンフレット」(17.4%)、「政党・候補者の街頭演説」(15.3%)、「連呼」(11.8%)、「政党・候補者の演説会」(10.0%)、「政党の機関紙」(10.0%)、「政党の葉書」(9.6%)、「候補者の政見放送・経歴放送(ラジオ)」(8.5%)、「電話による勧誘」(8.3%)、「政党の政見放送(ラジオ)」(6.5%)、「公開討論会・合同個人演説会」(5.8%)、「政党や候補者のバナー広告・動画広告」(5.4%)、「LINEやツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動」(3.8%)、「政党のラジオスポット広告」(3.4%)と続く。直接的な選挙運動の接触度はせいぜい25%程度(「政党のビラ・ポスター」)であり、下位に多いことが分かる。また、「この中のどれも無い」という回答は3.8%、「わからない」は3.2%であり、ほとんどの有権者は何らかの情報には少なくとも接触している。

有用度について見てみると、もっとも多く回答者に役に立ったと言及された選挙運動は、「候補者の政見放送・経歴放送(テレビ)」(19.3%)であり、およそ2割に及ぶ。続いて、「政党の政見放送(テレビ)」(15.6%)、「選挙公報」(14.0%)、「候補者の新聞広告」(13.6%)、「党首討論会(テレビ・インターネット)」(12.7%)と続き、ここまでが10%台である。さらに、「政党の新聞広告」(8.5%)、「掲示場にはられた候補者のポスター」(7.5%)、「政党の選挙公約などが記載されたパンフレット」(6.1%)、「政党・候補者の街頭演説」(5.2%)、「候補者のビラ」(4.7%)、「政党・候補者の演説会」(4.7%)、「政党のビラ・ポスター」(3.8%)、「政党の機関紙」(3.4%)、「候補者の政見放送・経歴放送(ラジオ)」(2.9%)、「公開討論会・合同個人演説会」(2.6%)、「候補者の葉書」(2.4%)、「LINEやツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動」(2.3%)、「政党のテレビスポット広告」(2.2%)、「政党の政見放送(ラジオ)」(2.0%)、「政党の葉書」(1.9%)、「政党や候補者のバナー広告・動画広告」(1.5%)、「電話による勧誘」(1.2%)、「連呼」(0.8%)、「政党のラジオスポット広告」(0.7%)と続く。

ただし、有用度の質問は、その選挙運動に接触した人のみに限られるため、有用度の値が低いからといって「役に立たない」とはならない。接触した人のうち、どの程度が役に立ったと判断するかも重要であろう。ここでは、有用度を接触度で除した数値を計算し、有用率とした。有用率の最も高い選挙運動は、「LINEやツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動」で60.5%に上る。2013年参院選から解禁されたネット選挙運動は、接触度でいうと3.8%と低く、浸透しているとはいえないが、他方で、接触をした有権者にとっては有用性の高い選挙運動手段であるということが示された。次いで、「党首討論会(テレビ・インターネット)」(48.3%)、「政党・候補者の演説会」(47.0%)、「公開討論会・合同個人演説会」(44.8%)と政党や候補者が直接語るような機会の有用性も高く評価されている。さらに、「候補者の政見放送・経歴放送(テレビ)」(41.8%)、「選挙公報」(40.9%)、「政党の政見放送(テレビ)」(40.1%)、「候補者の新聞広告」(39.3%)、「政党の選挙公約などが記載されたパンフレット」(35.1%)、「候補者の政見放送・経歴放送(ラジオ)」(34.1%)とマスメディアを通じた選挙運動が続く。他の選挙運動については、「政党の機関紙」(34.0%)、「政党・候補者の街頭演説」(34.0%)、「政党の新聞広告」(31.3%)、「政党の政見放送(ラジオ)」(30.8%)、「政党や候補者のバナー広告・動画広告」(27.8%)、「候補者

のビラ」(22.3%)、「政党のラジオスポット広告」(20.6%)、「政党の葉書」(19.8%)、「掲示場にはられた候補者のポスター」(17.1%)、「政党のビラ・ポスター」(15.8%)、「電話による勧誘」(14.5%)、「候補者の葉書」(13.4%)、「政党のテレビスポット広告」(11.7%)、「連呼」(6.8%)という順になっている。

図 36 選挙運動の接触度と有用度



年代別に選挙運動の接触度を見ていく。年代別の接触度の上位3つは、18歳から30歳代では「掲示場にはられた候補者のポスター」(51.8%)、「候補者の政見放送・経歴放送(テレビ)」(38.8%)、「政党の政見放送(テレビ)」(26.8%)となる。40歳代・50歳代では「掲示場にはられた候補者のポスター」(52.4%)、「候補者の政見放送・経歴放送(テレビ)」(38.1%)、「候補者の新聞広告」(35.4%)であり、60歳以上では「候補者の政見放送・経歴放送(テレビ)」(54.4%)、「政党の政

見放送（テレビ）」（48.0%）、「選挙公報」（41.3%）であった。高齢層では在宅で接触できる選挙運動が上位にきているようである。また、全体的にいて高齢層のほうが若年層よりも選挙運動の接触度が高い。「この中のどれも見聞きしなかった」という回答は、若い世代から順に5.4%、3.9%、3.1%であった。また、「わからない」という回答も若い世代から順に6.9%、4.1%、1.4%であった。

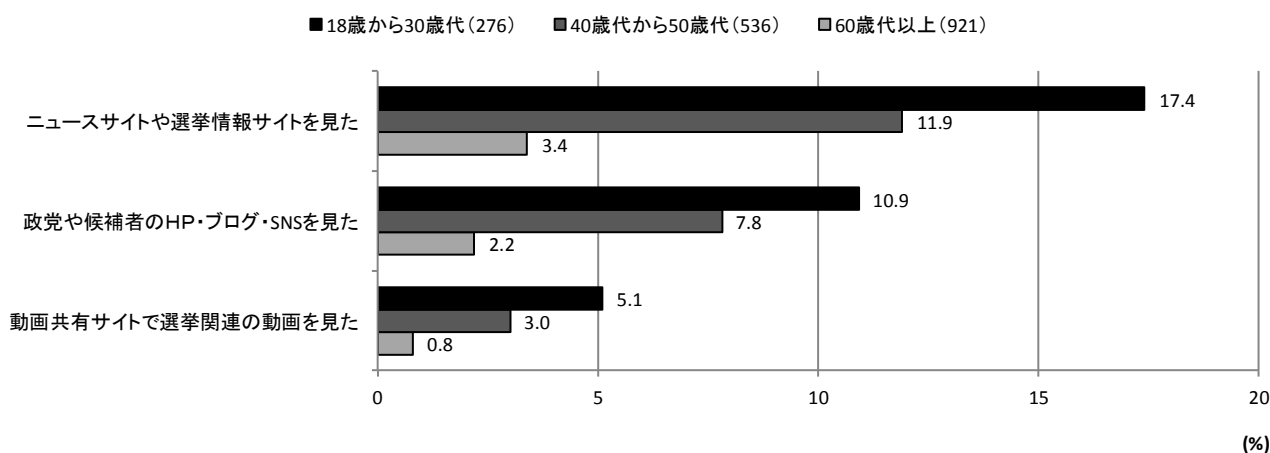
表 3 選挙運動の接触度・有用度・有用率（年代別）

	18歳から30歳代 (276)			40歳代から50歳代 (536)			60歳代以上 (921)		
	接触度	有用度	有用率	接触度	有用度	有用率	接触度	有用度	有用率
候補者の政見放送・経歴放送（テレビ）	38.8	13.8	35.5	38.1	15.5	40.6	54.4	23.9	43.9
政党の政見放送（テレビ）	26.8	8.3	31.1	30.4	12.1	39.9	48.0	20.0	41.6
政党のテレビスポット広告	15.9	2.5	16.0	22.8	2.1	9.0	17.8	2.3	12.8
候補者の政見放送・経歴放送（ラジオ）	4.3	1.4	33.7	5.6	1.1	20.0	11.4	4.3	38.1
政党の政見放送（ラジオ）	1.8	0.7	40.3	4.7	1.7	35.7	9.0	2.6	29.0
政党のラジオスポット広告	3.3	0.7	22.0	3.7	0.6	15.1	3.4	0.9	25.5
政党や候補者のバナー広告・動画広告	8.7	1.4	16.7	5.8	1.1	19.3	4.5	1.7	38.6
選挙公報	20.3	7.6	37.5	30.2	12.1	40.2	41.3	17.3	41.8
候補者の新聞広告	22.1	8.0	36.1	35.4	14.9	42.2	38.4	14.9	38.7
政党の新聞広告	15.2	5.4	35.8	28.9	9.1	31.6	30.4	9.2	30.4
候補者のビラ	21.4	4.3	20.3	22	5.2	23.7	21.1	4.7	22.1
掲示場にはられた候補者のポスター	51.8	7.6	14.7	52.4	7.5	14.2	37.8	7.7	20.4
政党のビラ・ポスター	23.9	2.2	9.1	26.1	3.2	12.2	23.6	4.7	19.8
候補者の葉書	11.2	1.8	16.2	18.5	1.5	8.1	20.2	3.3	16.1
政党の葉書	6.9	1.4	21.0	9.7	0.9	9.6	10.7	2.7	25.4
政党の機関紙	6.2	2.2	35.1	7.1	1.9	26.3	13.1	4.8	36.5
政党の選挙公約などが記載されたパンフレット	8.3	3.3	39.3	14.4	4.9	33.7	22.4	7.7	34.4
党首討論会（テレビ・インターネット）	16.7	7.2	43.4	20.5	10.6	51.9	32.8	15.5	47.3
政党・候補者の演説会	5.1	1.4	28.4	7.3	3.7	51.1	13.2	6.5	49.4
公開討論会・合同個人演説会	1.8	1.1	60.4	3.7	2.4	65.6	8.3	3.1	37.9
政党・候補者の街頭演説	17.8	4.3	24.4	13.8	3.5	25.7	15.7	6.6	42.2
電話による勧誘	6.9	1.4	21.0	6.5	0.9	14.4	10.1	1.4	14.0
連呼	10.1	1.1	10.8	11.8	0.6	4.7	12.7	1.0	7.7
LINE やツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動	9.8	5.4	55.5	4.7	3.5	75.4	1.5	0.8	50.7
この中のどれも見聞きしなかった	5.4			3.9			3.1		
わからない	6.9			4.1			1.4		

さらに、年代別に選挙運動有用率を見ていく。年代別の有用率（有用度を接触度で除したもの）の上位3つは、18歳から30歳代では、それぞれ接触度が低いものの、「公開討論会・合同個人演説会」（60.4%）、「LINEやツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動」（55.5%）、「党首討論会（テレビ・インターネット）」（43.4%）であった。40歳代・50歳代でも似たような傾向があり、上位3つは「LINEやツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動」（75.4%）、「公開討論会・合同個人演説会」（65.6%）、「党首討論会（テレビ・インターネット）」（51.9%）であった。60歳代以上では多少変わるが、「LINEやツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動」（50.7%）、「政党・候補者の演説会」（49.4%）、「党首討論会（テレビ・インターネット）」（47.3%）となった。特徴的なのは、「LINEやツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動」がすべての年代で上位の有用率を示していることであろう。年代ごとの接触率は、若い世代から9.8%、4.7%、1.5%となっており、世代ごとに接触パターンが異なるものの、SNSによって選挙運動に接触したものはその情報を役に立ったと評価する傾向がここでも確認される。

選挙時の有権者のインターネット利用について、「あなたは今回の参院選で、インターネットをどのように利用しましたか」という質問で尋ねた（複数回答方式）。最も多かった回答は「ニュースサイトや選挙情報サイトを見た」であったが、8.3%に過ぎない。次に、「政党や候補者のHP・ブログ・SNSを見た」（5.2%）、「動画共有サイトで選挙関連の動画を見た」（2.1%）と続く。このように、全体的に見てインターネット利用はそれほどされておらず、その他の「政党や候補者のメールを受信した」（0.6%）、「自分自身が特定の候補者を応援又は批判する情報を発信した」（0.5%）、「政党や候補者とインターネットを通して交流した」（0.2%）、「ポートマッチを利用した」（0.2%）、「その他」（0.1%）もほとんどなかった。なお、「利用しなかった」が67.4%で、「わからない」は3.7%であった。

図 37 インターネット利用形態（年代別）



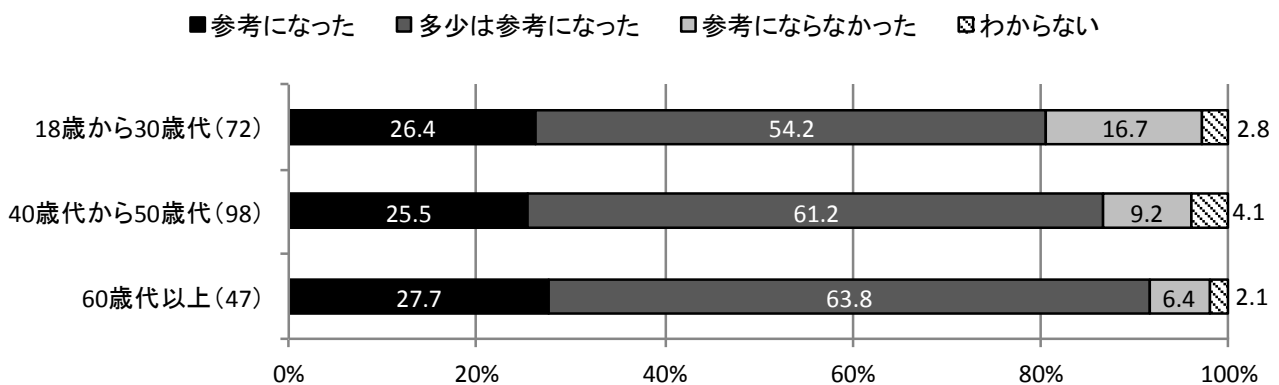
年代別に見てみると、やはり若年層ほどインターネット利用をしており、世代が上がるほど利用がなされていない。たとえば、「ニュースサイトや選挙情報サイトを見た」では、若年層の利用が17.4%あったが、高齢層では3.4%にとどまる。政治や選挙情報への接触の質問でも、若年層において

インターネット利用の浸透という傾向が見られたが、ここでも同様に確認された。

インターネット利用をした回答者（233人）にかぎって「インターネットで得られた情報は、投票に関して参考になりましたか」という質問で有用性も尋ねた。この質問に対して24.9%が「参考になった」、57.1%が「多少は参考になった」、11.2%が「参考にならなかった」、3.0%が「わからない」と回答し、8割以上のインターネット利用者が多少なりとも参考になったと評価していることが明らかになった。

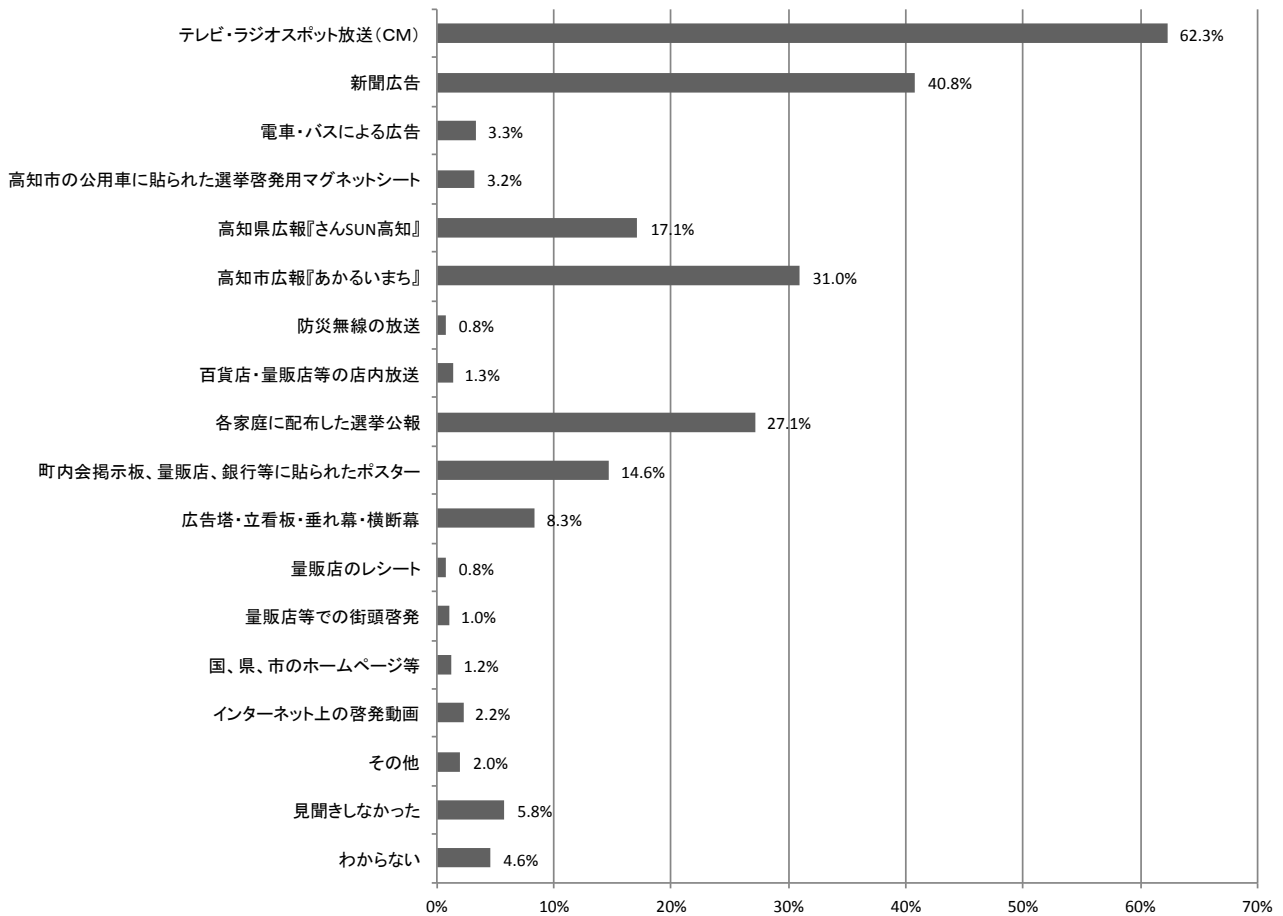
年代別にインターネット利用の有用度を見ると、利用度は反対に、高齢層のほうが参考になったと評価する傾向がある。「参考になった」と「多少は参考になった」をあわせると、60歳以上では91.5%、40歳代・50歳代では86.7%、18歳から30歳代では80.6%であった。高齢層ではインターネット利用の敷居が高い分だけ、インターネットを利用している人はインターネット上の情報の価値を高く評価している人が多く、他方で、若年層ではインターネット利用の敷居が低く利用自体は多いものの、インターネット上の情報について価値を見出さない人もアクセスしているため、このような傾向が見られたと推測される。

図 38 インターネット利用の有用度（年代別）



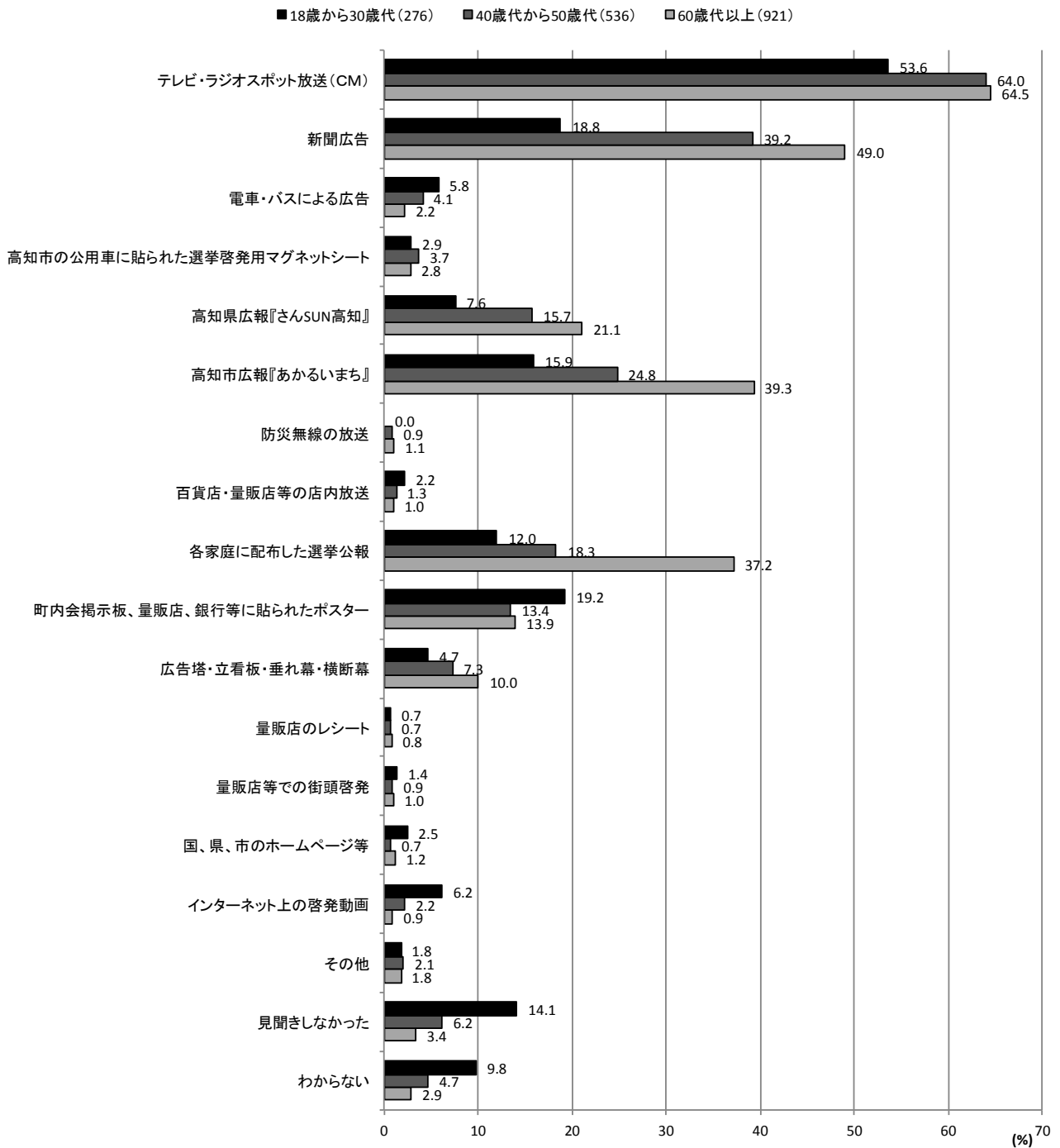
選挙啓発に対する接触についても、「今回の参院選であなたが見たり聞いたりして印象に残っている投票参加の呼びかけや投票日のお知らせは、次のどれでしょうか」という質問で尋ねた。16の選挙啓発の方法が選択肢に並び、接触したものをすべて挙げてもらった。最も多かったのは、「テレビ・ラジオスポット放送（CM）」（62.3%）でおよそ6割が見聞きしていた。次いで、40.8%が「新聞広告」、31.0%が「高知市広報『あかるいまち』」、27.1%が「各家庭に配布した選挙公報」、17.1%が「高知県広報『さんSUN高知』」（17.1%）と紙媒体での選挙啓発が並んだ。その他は、「町内会掲示板、量販店、銀行等に貼られたポスター」（14.6%）、「広告塔・立看板・垂れ幕・横断幕」（8.3%）、「電車・バスによる広告」（3.3%）、「高知市の公用車に貼られた選挙啓発用マグネットシート」（3.2%）、「インターネット上の啓発動画」（2.2%）、「その他」（2.0%）、「百貨店・量販店等の店内放送」（1.3%）、「国、県、市のホームページ等」（1.2%）、「量販店等での街頭啓発」（1.0%）、「量販店のレシート」（0.8%）、「防災無線の放送」（0.8%）の順であった。また、「見聞きしなかった」という回答は5.8%、「わからない」という回答は4.6%に留まり、9割近くは何らかの選挙啓発に接触していることがわかる。

図 39 選挙啓発に対する接触



選挙啓発に対する接触について年代別に見ると、全体的に接触度の高い媒体については高齢層のほうが若年層よりも高い傾向がある。「テレビ・ラジオスポット放送 (CM)」では64.5% (60歳以上) と53.6% (18歳から30歳代) とその差はそれほど大きくはないが、「新聞広告」「高知市広報『あかるいまち』」「各家庭に配布した選挙公報」「高知県広報『さんSUN高知』」では大きな差が認められる。若年層のほうが多い選挙啓発手段は、「町内会掲示板、量販店、銀行等に貼られたポスター」「インターネット上の啓発動画」などである。また、「見聞きしなかった」と回答した高齢層は3.4%であるのに対し、若年層では14.1%がそのように回答している。

図 40 選挙啓発に対する接触（年代別）

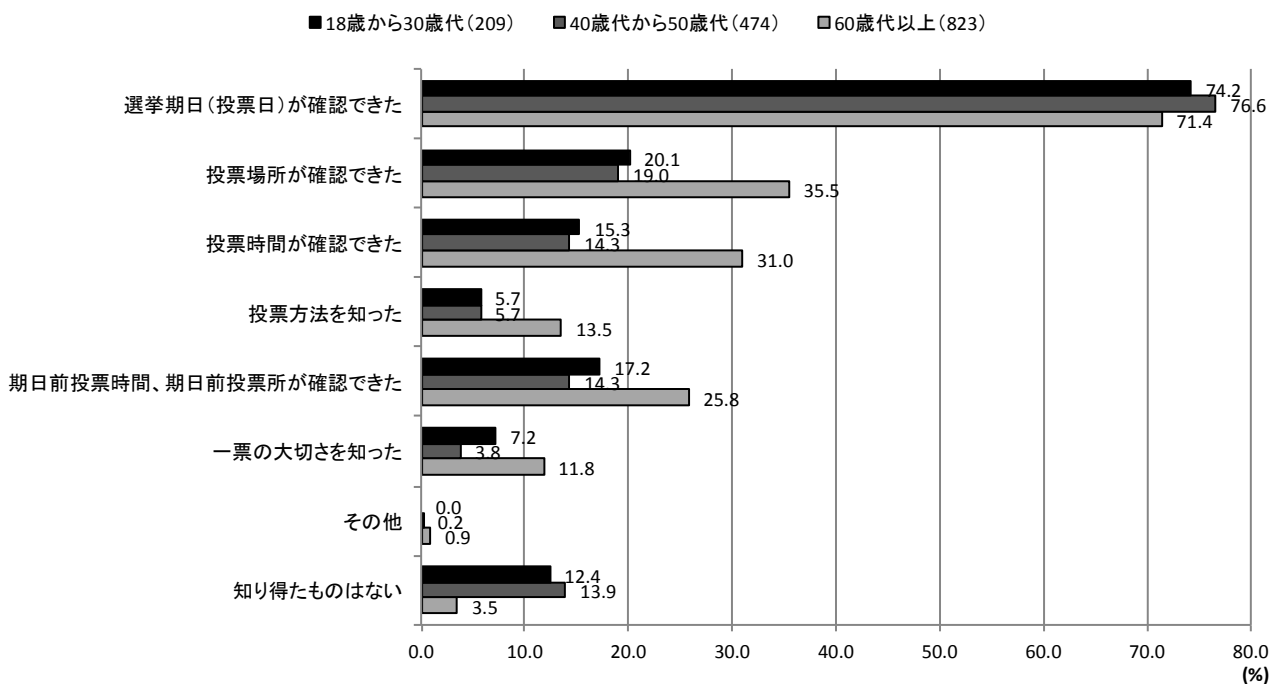


そのような選挙啓発に接触した回答者（1537人）にかぎって、「これらを見聞きしたことによって、知り得たことなどがありましたか」という質問で7種類の情報を提示し、あてはまるものをすべて選択してもらった。最も多かった回答は、「選挙期日（投票日）が確認できた」で73.1%であった。次いで、「投票場所が確認できた」（28.1%）, 「投票時間が確認できた」（23.5%）, 「期日前投票時間, 期日前投票所が確認できた」（20.8%）, 「投票方法を知った」（9.9%）, 「一票の大切

さを知った」(8.8%)、「その他」(0.5%)という順であった。また、これらの選挙啓発に接触しても「知り得たものはない」という回答は8.2%であった。

年代別に選挙啓発で知り得たことを見ていくと、最も回答の多い「選挙期日(投票日)」については、40歳代・50歳代が最も多く(76.6%)、18歳から30歳代(74.2%)が続き、60歳代以上(71.4%)が最も低い。「投票場所」「投票時間」「期日前投票時間、期日前投票所」「一票の大切さ」については、その逆に、60歳以上が最も高く、18歳から30歳代が続き、40歳代・50歳代が最も言及率が少ない。また、「知り得たものはない」は40歳代・50歳代(13.9%)、18歳から30歳代(12.4%)、60歳以上(3.5%)という順になっている。

図 41 選挙啓発で知り得たこと(年代別)

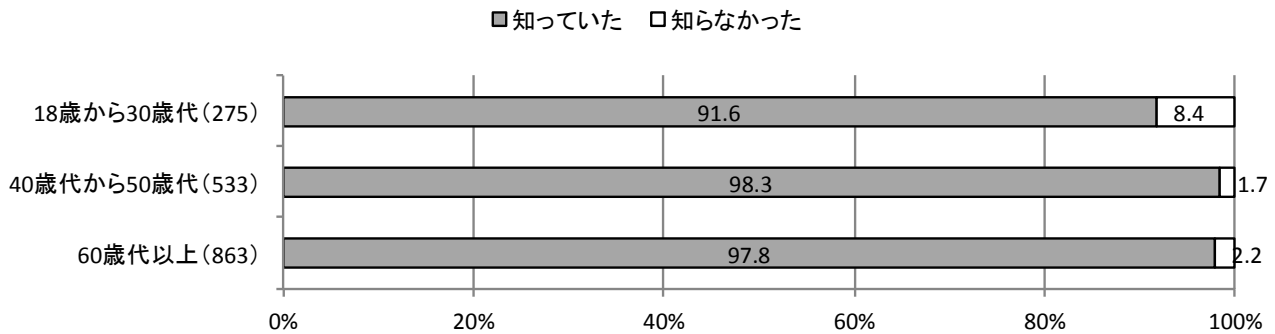


9 選挙制度関連

本調査では選挙に関わる様々な制度についても尋ねている。まず、選挙権のある自治体についての前提知識として、転居と住民票の移動について、「転居する場合、引っ越し先の市区町村へ住民票を移さなければなりません。あなたはこのことをご存知でしたか」という質問で尋ねた。93.0%が知っていたと回答し、2.9%が知らなかったと回答している(4.1%が無回答)。ほとんどの有権者がこのことを知っていたことになる。

年代別に「転居と住民票移動」の知識について見ると、認知度が相対的に低いのは18歳から30歳代で91.6%であった。他の世代では98.3%(40歳代・50歳代)、97.8%(60歳代以上)が認知しており、常識と言ってよい。

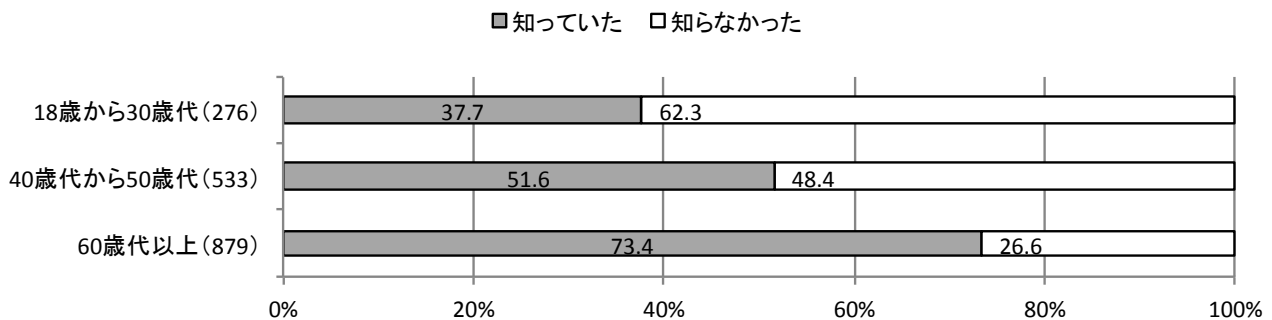
図 42 「転居と住民票移動」の知識（年代別）



次に、「選挙権と住民票の関係」について、「現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければなりません。あなたは、このことをご存知でしたか」という質問で尋ねた。住民票移動と比べて認知度は大幅に下がり、59.1%と低く、「知らなかった」という回答は37.8%に上がった。

選挙権と住民票の関係の知識について年代別に見てみると、認知度が最も高いのは60歳以上で73.4%であった。続いて、40歳代・50歳代では51.6%とおよそ半数にまで減る。さらに、18歳から30歳代の認知度が最も低く37.7%であった。

図 43 「選挙権と住民票の関係」の知識（年代別）

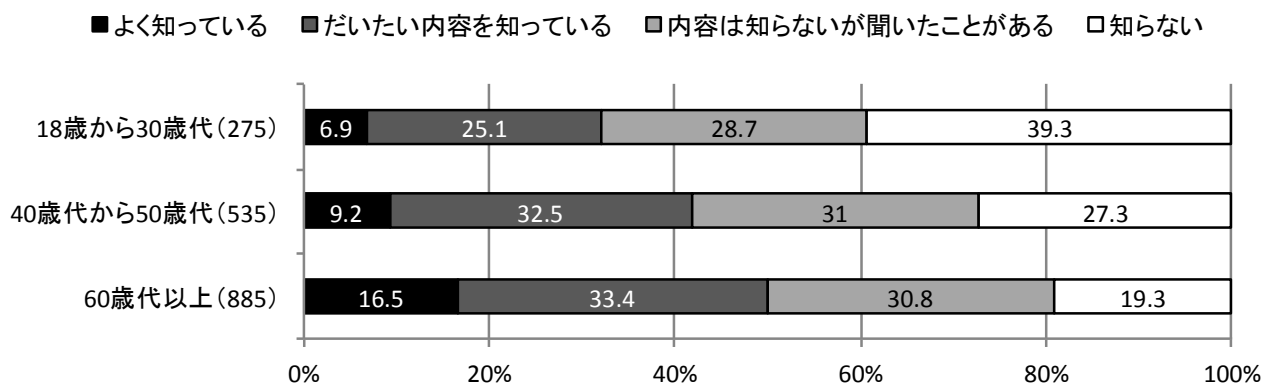


不在者投票制度の認知度について、「選挙のとき、住民票がある市区町村と別の地域に滞在している場合に、市区町村に届け出をして別の地域で投票する制度（不在者投票制度）がありますが、あなたはこの制度を知っていますか」という質問で尋ねた。12.5%がこの制度を「よく知っている」と回答し、「だいたい内容を知っている」は30.6%であり、43.1%が内容まで把握していた、他方、29.7%は「内容は知らないが『不在者投票（制度）』という言葉は聞いたことがある」と答え、制度の存在のみ認知していた。また、制度の存在も含めて「知らない」という回答は24.3%であり、後者2つをあわせると54.0%で半数以上は不在者投票制度の内容を把握していなかったことが分かる。

年代別に不在者投票制度の認知度を見ていくと、内容を把握している有権者は60歳代以上で49.9%

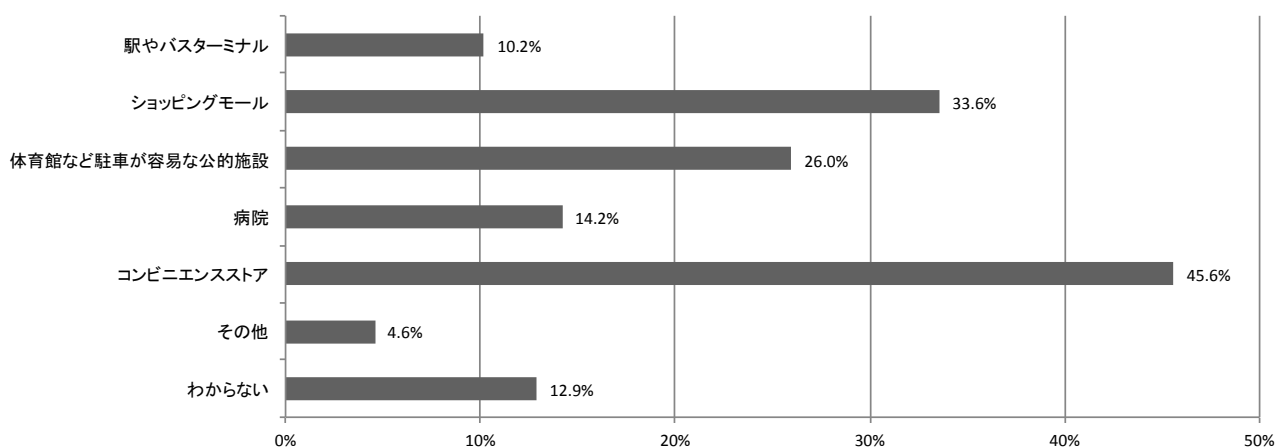
（「よく知っている」と「だいたい内容を知っている」をあわせた割合）と最も高い。40歳代・50歳代では、41.7%と下がり、18歳から30歳代では32.0%とさらに下がる。不在者投票については高齢層においても半数程度しか把握していないという実態が明らかになった。

図 44 不在者投票の認知度（年代別）



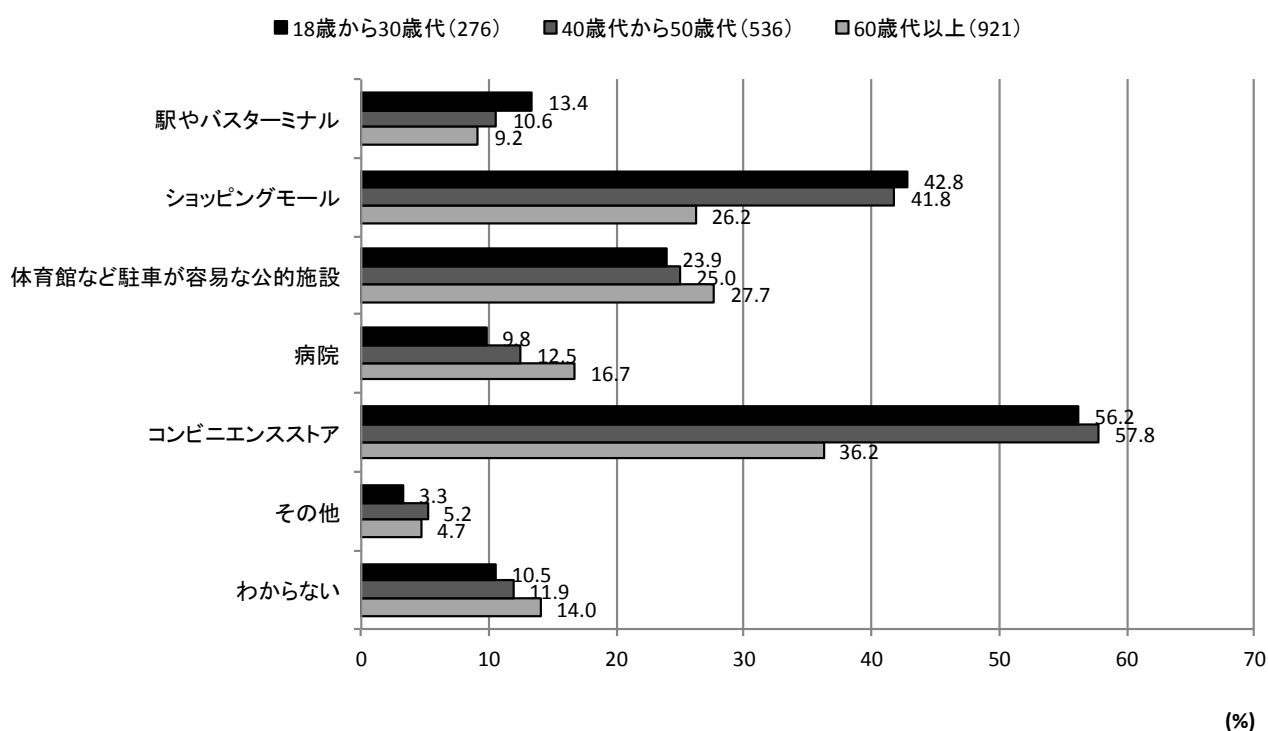
次に、期日前投票について、今後設置されたら利用したい場所について尋ねた。「期日前投票についてお伺いします。現在、期日前投票は、市役所たかじょう庁舎、市内の各ふれあいセンター、鏡・土佐山・春野地域の庁舎、福寿園、高知大学、イオンモール高知でおこなっています。今後、以下の場所で期日前投票が可能になった場合、利用してみようと思う場所があれば、すべて選んでください」という質問で、6つの選択肢を提示し複数回答方式で選んでもらった。最も要望の高かったのは「コンビニエンスストア」で45.6%の要望があった。次いで、「ショッピングモール」(33.6%)、「体育館など駐車が容易な公的施設」(26.0%)、「病院」(14.2%)、「駅やバスターミナル」(10.2%)と要望が続いた。他方、「わからない」という回答も12.9%に上った。

図 45 期日前投票所の要望場所



年代別に期日前投票所の場所の要望について見てみると、最も回答の多かった「コンビニエンスストア」については50歳代以下の要望が高く、高齢層と比べても20ポイント近く差があることがわかる。ショッピングモールも同様の傾向があるが、「体育館など駐車が容易な公的施設」や「病院」については高齢層のほうが要望が高い傾向がある。他方、「駅やバスターミナル」については年代が下がるほど要望する傾向がある。それぞれの生活範囲に普段の移動手段が反映された傾向といえるだろう。また、高齢層では全体的に要望自体が少なかった。

図 46 期日前投票所の要望場所（年代別）



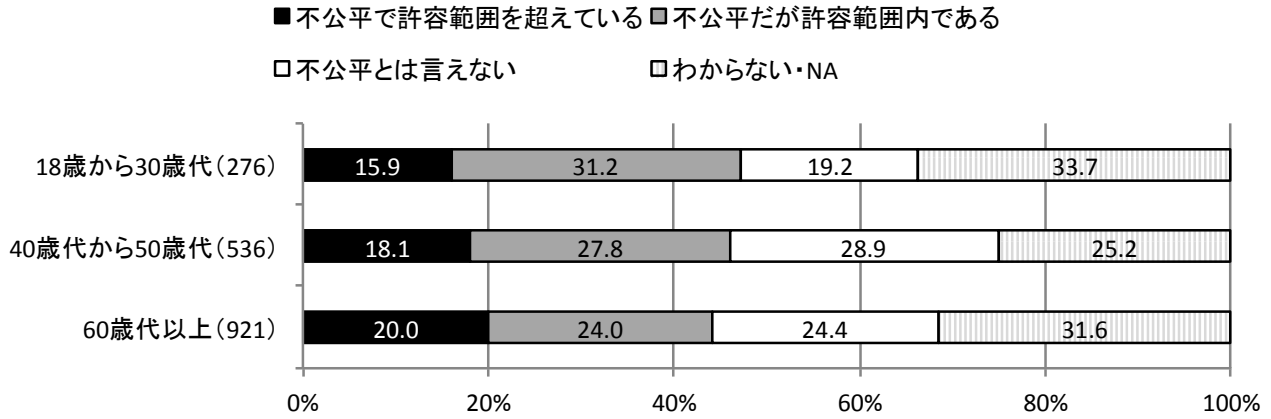
10 合区制度

本調査では、今回の参院選から新たに導入された合区制度に関する質問もいくつか尋ねている。まず、合区制度導入の背景にある一票の格差についての認識を尋ねた。「あなたは、参議院選挙の選挙区で選ばれる議員一人あたりの有権者数の格差、いわゆる『一票の格差』について、どう思いますか」という質問に対して、「不公平で許容範囲を超えている」と考える回答者は18.8%に及んだ。「不公平だが許容範囲内である」という回答は26.1%、「不公平とは言えない」という回答は24.6%と高知市民の意見は割れている。「わからない」という回答も26.9%と多い。

年代別に一票の格差についての認識を見てみると、「不公平で許容範囲を超えている」と考える有権者は60歳以上で多く(20.0%)、年齢が若くなるほどその比率は下がる(18歳から30歳代で15.9%)。反対に、「不公平だが許容範囲である」と考える有権者は若年層が多く(31.2%)、高齢層で少ない(24.0%)。「不公平とは言えない」という現状認識の有権者は40歳代・50歳代で多く(28.9%)、60

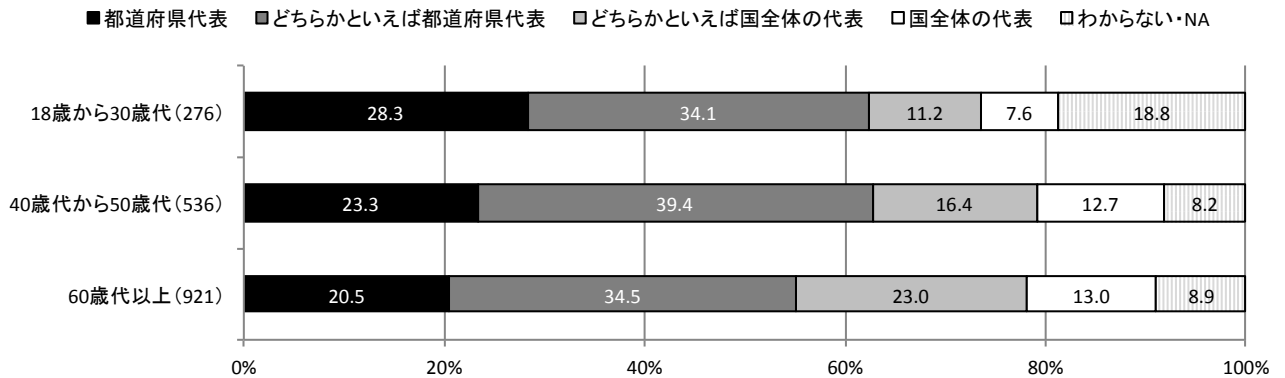
歳代以上（24.4%），18歳から30歳代（19.2%）と下がる。「わからない」という回答については18歳から30歳代と60歳代以上で30%を超えており，40歳代・50歳代の25.2%より高い。

図 47 一票の格差についての認識（年代別）



合区制度の是非を論じる際に，参議院選挙区選出の議員が果たすべき役割について議論になる。高知市の有権者がどのように認識しているかを「あなたは，参議院選挙の選挙区で選ばれる議員は都道府県代表として活動すべきだ，と思いますか，それとも，国全体の代表として活動すべきだと思いますか」という質問で尋ねた。「都道府県代表として活動すべきだ」が22.5%，「どちらかといえば，都道府県代表として活動すべきだ」が35.8%と6割近い有権者が多かれ少なかれ都道府県代表としての役割を期待している。他方で，「国全体の代表として活動すべきだ」が12.0%，「どちらかといえば，国全体の代表として活動すべきだ」が19.1%と，およそ3割の有権者が国全体の代表としての役割を期待している。「わからない」という回答は8.2%であった。

図 48 参議院選挙区選出の議員の役割（年代別）



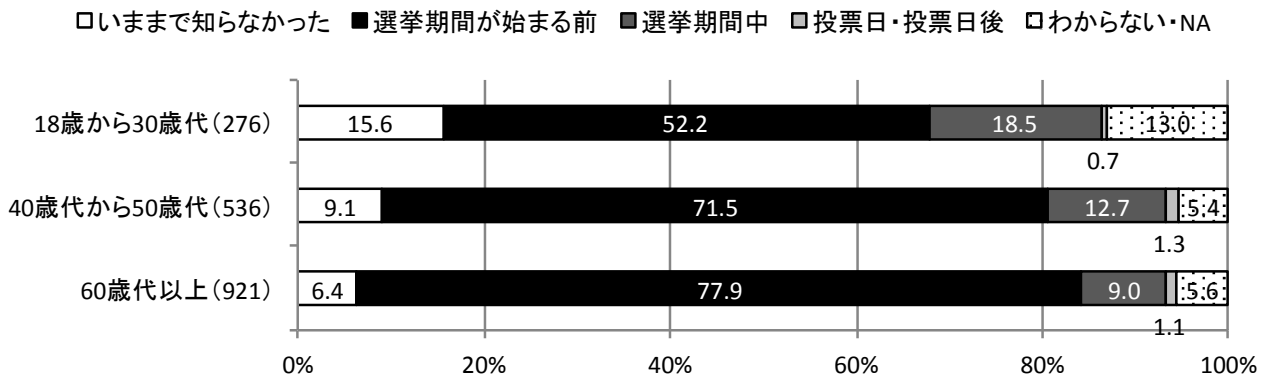
年代別に参議院選挙区選出の議員が果たすべき役割を見ると，都道府県代表としての役割を期待している有権者は18歳から30歳代では62.4%，40歳代・50歳代62.7%とほぼ同程度であるが，60歳以

上では55.0%と下がる。反対に、国全体の代表としての役割を期待している有権者は60歳以上で多く(36.0%)、年代が下がるとその割合も減っている(40歳代・50歳代で29.1%、18歳から30歳代で18.8%)。若年層では「わからない」という回答もおよそ2割を占めている。

合区制度そのものについての認知度について、「あなたは、今回の参院選で導入された合区制度をご存知でしたか。ご存知の場合、いつくらいにお知りになりましたか」という質問で尋ねた。高知市の有権者の8.6%は「いままで知らなかった」と答えたものの、大多数の有権者は「選挙期間が始まる前(投票日の約3週間前)には知っていた」(71.3%)を選び、合区制度は選挙前から浸透していたことがわかる。「選挙期間中(投票日の約3週間前から前日まで)に知った」有権者も11.6%いた。「投票日に知った」(0.4%)、「投票日後に知った」(0.7%)という回答はほとんどおらず、「わからない」という回答は5.5%であった。

年代別に合区制度の認知度を見てみると、年代によって浸透度が異なるのがわかる。60歳代以上では77.9%が選挙前に合区制度を知っており、反対に「いままで知らなかった」と「わからない」を足しても12.0%である。それに対して、18歳から30歳代では選挙前から合区制度について認知していたのは半数に過ぎず(52.2%)、15.6%は合区制度そのものを「いままで知らなかった」と回答し、「わからない」という回答も13.0%に及ぶ。

図 49 合区制度を知った時期(年代別)

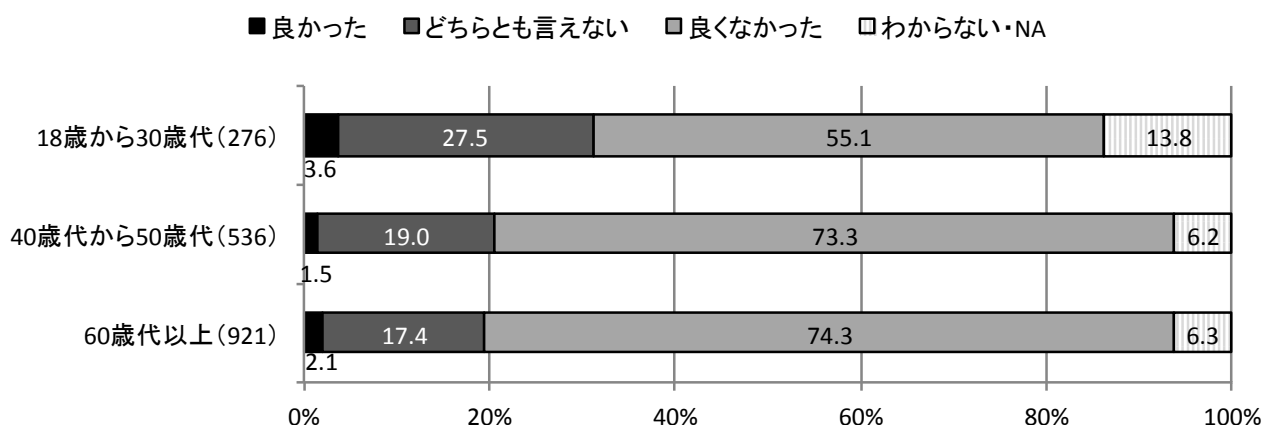


本調査では、合区制度についての評価についても尋ねた。「今回の参院選から、高知県選挙区は徳島県と合区され、徳島県・高知県選挙区となりました。あなたはこのことをどう思いましたか」という質問に対し、「良かった」という肯定的な意見は2.1%と極端に少なく、「良くなかった」という回答が70.4%と多数であった。同時に、「どちらとも言えない」という回答も19.3%あり、「わからない」という回答は6.8%であった。

合区制度についての評価を年代別に見てみると、40歳代以上の有権者は同じような分布であるのに対し、若年層では意見が若干異なることがわかる。「良くなかった」という回答は40歳代・50歳代で73.3%、60歳代以上で74.3%とほぼ同程度である。他方、18歳から30歳代の有権者では55.1%とその割合は低く、半分程度しか占めていない。その代わりに「どちらとも言えない」という回答と「わか

らない・NA」が40歳代以上よりも高い。

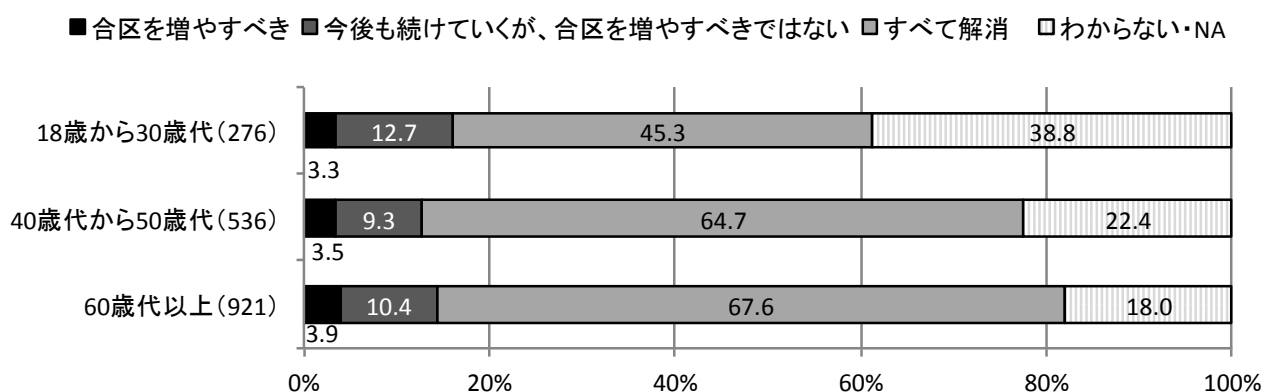
図 50 合区制度に対する評価（年代別）



今後の合区制度のあり方についても「あなたは、参議院選挙における選挙区で、合区制度を今後も続けていくことについて、どう思いますか」という質問で尋ねた。「今後も続けていき、合区の選挙区を増やすべきである」という回答は3.7%と非常に少なかった。「今後も続けていくが、これ以上、合区の選挙区を増やすべきではない」という回答も10.4%と少ない。「合区をすべて解消すべきである」という回答が62.7%と最も多く、「わからない」という回答が21.5%でその次に多い。

年代別に今後の合区制度のあり方について見てみると、合区制度についての評価と同様、若年層の意見分布が他の年代と異なっていることがわかる。合区をすべて解消するという意見が40歳代以上では65%前後と多数を占めているが、若年層では45%程度でしかない。他方、若年層の38.8%が「わからない・NA」を選んでおり、他の年代よりも突出して高い。合区制度は40歳代以上で抵抗感があるが、若年層ではその是非について判断を躊躇する有権者が多いことを示していると推測される。

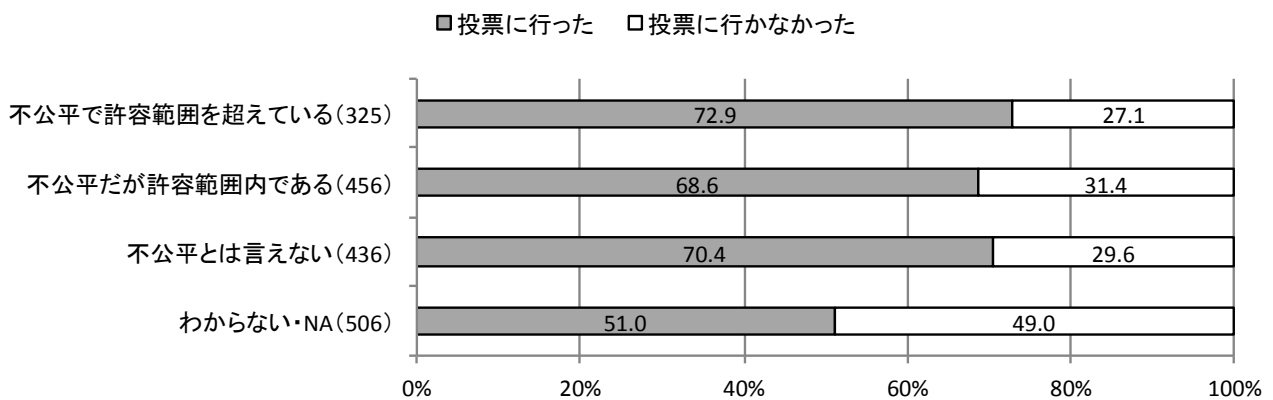
図 51 今後の合区制度のあり方（年代別）



今回の参院選で高知県の投票率が低かった理由として合区制度の導入が挙げられる。ここでは、合区制度関連の質問と投票参加率の関係も確認していく。

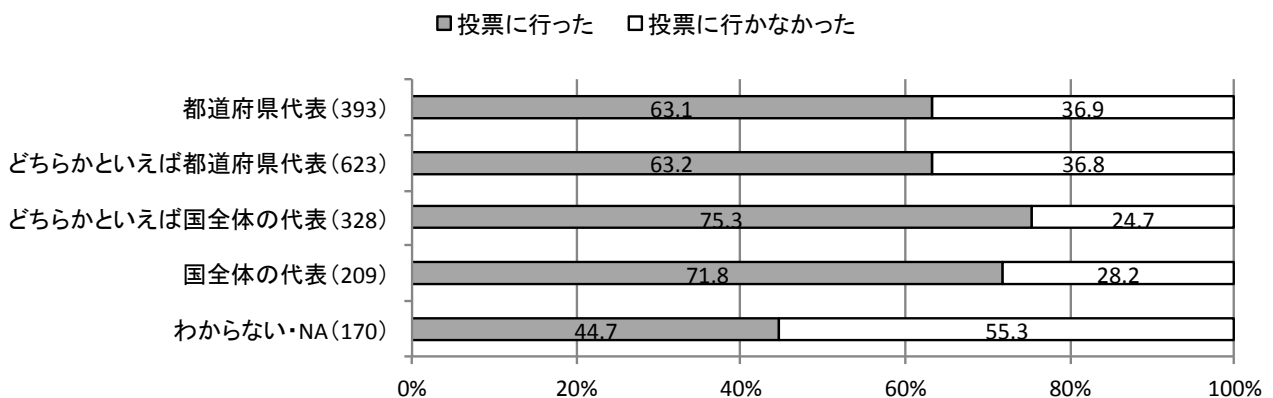
一票の格差についての認識と投票参加率の関係をしてみると、いずれの意見でも投票参加率はそれほど変わらないが、最も高いのは「不公平で許容範囲を超えている」と回答したグループである。なお、最も低いのは「わからない・NA」グループで51.0%である。

図 52 投票参加率（一票の格差についての認識別）



参議院選挙区選出の議員の役割と投票参加率の関係をしてみると、国全体の代表の役割を期待しているグループでは70%台、都道府県代表の役割と考えているグループでは60%台となっている。後者では合区制度に不満を持ち、投票参加率が低くなっている可能性がある。なお、最も低いのは「わからない・NA」グループで44.7%である。

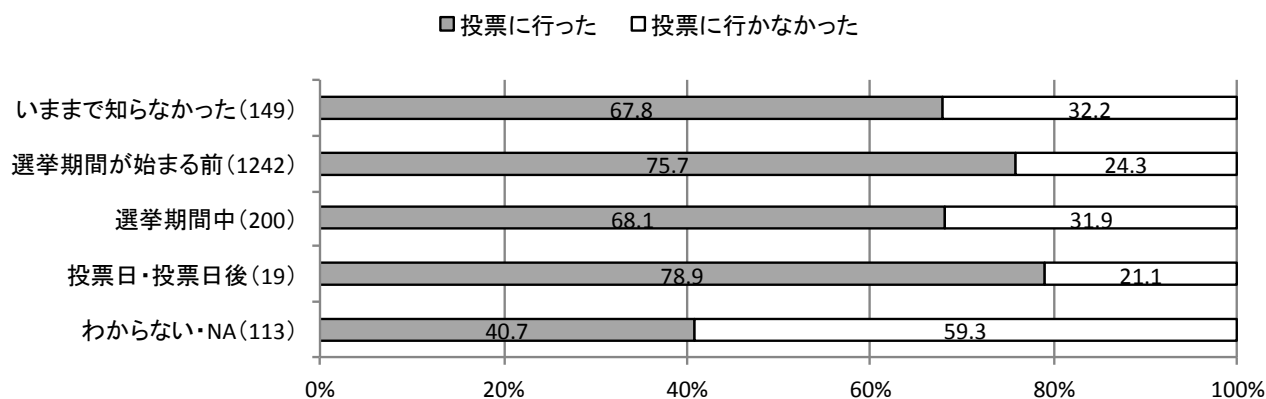
図 53 投票参加率（参議院選挙区選出の議員の役割別）



合区制度の認知度と投票参加率の関係をしてみると、「選挙期間が始まる前」グループと「投票日・投票日後」グループでの投票参加率が高い（75.7%、78.9%）。「いままで知らなかった」グループ

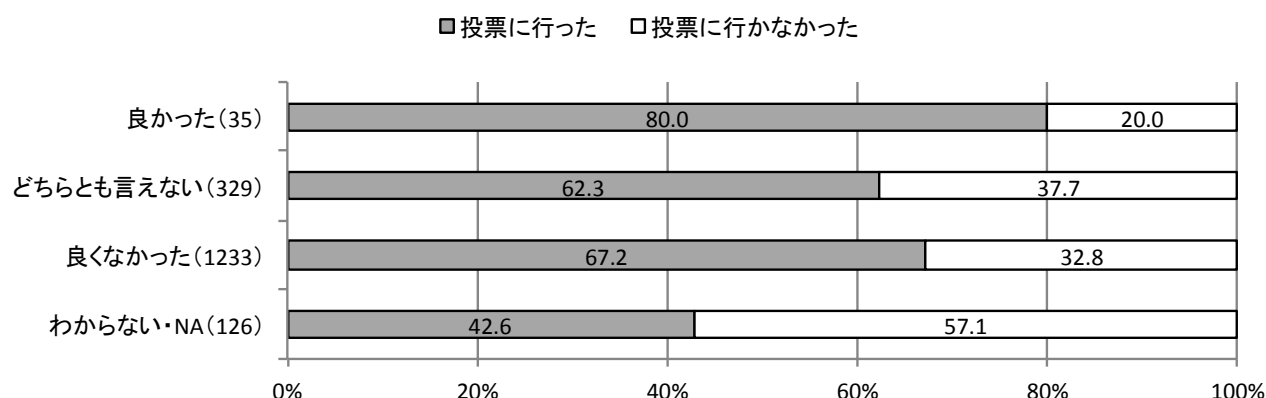
プと「選挙期間中」グループでは、投票参加率が68%程度と低くなる。つまり、合区制度を事前から知っていたから投票に行かなくなったという関係は確認できなかった。なお、「わからない・NA」グループでは40.7%である。

図 54 投票参加率（合区制度を知った時期別）



合区制度への評価と投票参加率の関係を見てみると、合区制度の評価が高いグループは予想通り投票に参加する傾向があり(80.0%)、評価が低いグループでは投票に参加しない傾向がある(67.2%)。ただし、「どちらとも言えない」というグループの方がさらに低い投票参加率を示している(62.3%)。また、「わからない・NA」グループでは42.6%の投票参加率であった。

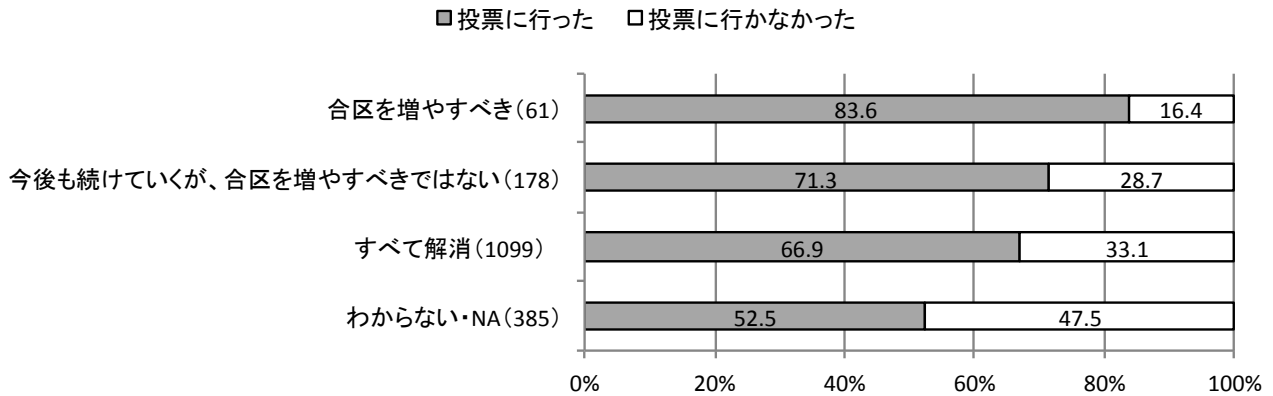
図 55 投票参加率（合区制度に対する評価別）



最後に、今後の合区制度のあり方についての意見と投票参加率の関係を見てみると、「合区を増やすべき」という意見のグループでは投票参加率が高く(83.6%)、現状維持グループでも71.3%と高い。合区に反対の意見である「すべて解消」グループでは、66.9%と低い。すなわち、合区につい

て受け入れたくない有権者の間では投票をしなかった傾向が確認できる。また、「わからない・NA」グループでは52.5%の投票参加率であった。

図 56 投票参加率（今後の合区制度のあり方別）

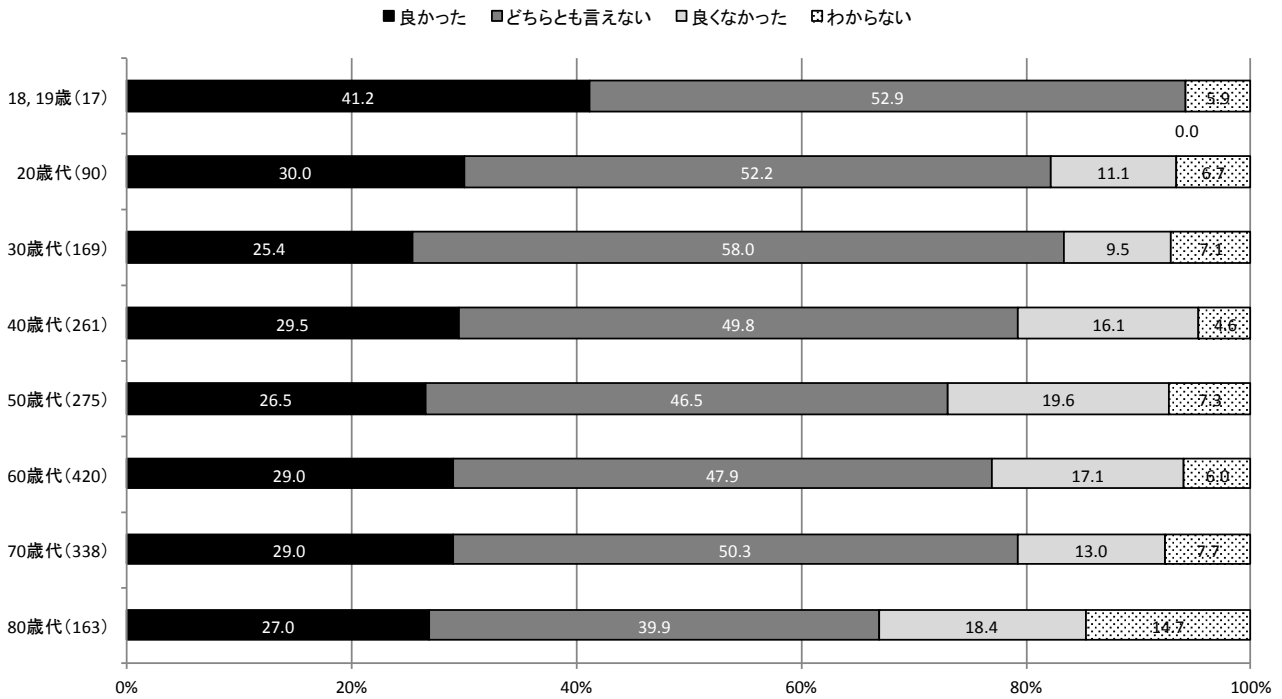


11 18歳選挙権

今回の参院選では選挙権の拡大がなされ、18歳選挙権が実現された。この制度についての評価についても「今回の参院選から、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられました。あなたはこのことをどう思いましたか」という質問で尋ねた。「良かった」という肯定的な意見は28.4%、「良くなかった」という否定的な意見は15.3%であった。しかし、最も回答の多かったのは「どちらとも言えない」で48.6%であり、半数の有権者は判断を保留している状況である。また、「わからない」は6.0%であった。

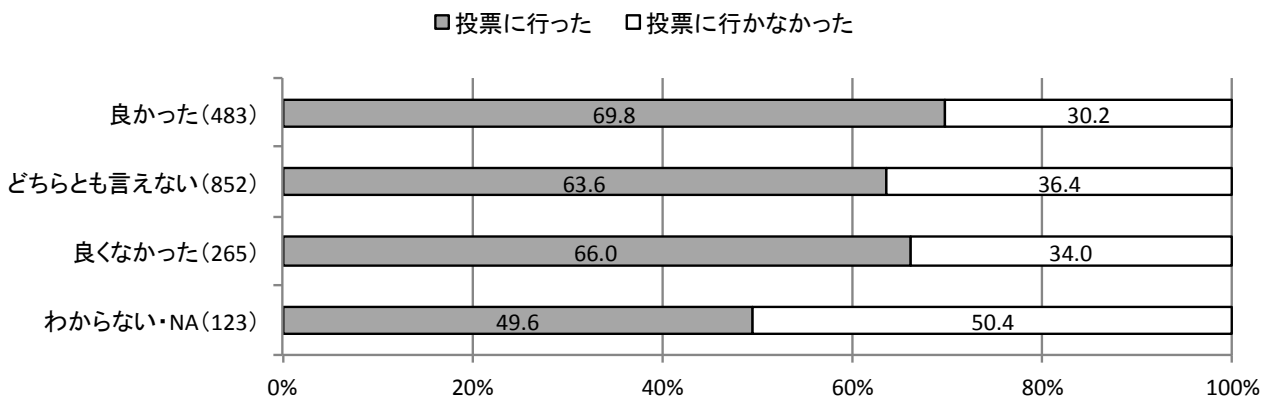
18歳選挙権に対する評価について10歳刻みで見ると、肯定的な評価が最も多かったのは18歳・19歳のグループであり41.2%、否定的な評価は一人もしていなかった。他の年代では好意的な評価は25-30%程度でそれほど差はなかった。否定的な意見は20歳代と30歳代は10%前後で他の年代と比べると低く、40歳代・50歳代・60歳代・80歳代では15-20%程度となる。また、80歳代では「わからない」という回答が14.7%と他より高いという傾向がある。

図 57 18歳選挙権に対する評価（年代別）



18歳選挙権に対する評価と投票参加率の関係を見ると、意見による違いはそれほど大きくない。肯定的な評価グループでは投票参加率が69.8%と最も高い。次に高いのは否定的な評価のグループで66.0%であった。「どちらとも言えない」というグループは63.6%と若干低い。また、「わからない・NA」グループでは49.6%の投票参加率であった。

図 58 投票参加率（18歳選挙権に対する評価別）



12 地区別分析

これまで見たように、本調査では投票環境について様々な質問を聞いている。今後の啓発活動・選挙管理の参考のために、それぞれについて地区別に見ていく。本調査では、調査票にIDを印字し調査対象者のうち回答した者を特定する方式をとらず、「あなたのご住所はどちらですか。〇丁目までお書きください」という形で回答してもらった。回答者の地区別分布を示したのが以下である。ただし、無回答と無効回答を除いている。なお、御豊瀬・浦戸・鏡・土佐山は回答者が極端に少ないため、この後の分析結果については参考程度に考えるべきであるため、それぞれの結果の解釈においても言及をしたりはしない。

表 4 地区別回答者分布

大街区	%	大街区	%
上街	1.1	秦	4.9
高知街	1.9	初月	4.3
南街	1.0	朝倉	7.3
北街	0.8	鴨田	6.7
下知	3.9	長浜	7.4
江ノ口	4.0	御豊瀬	0.2
小高坂	2.9	浦戸	0.3
旭街	9.7	大津	2.9
潮江	8.2	介良	4.3
三里	2.5	鏡	0.2
五台山	1.2	土佐山	0.2
高須	3.6	春野町	4.2
布師田	0.6		
一宮	5.9	無回答・無効回答	9.6

N=1773

地区別の調査結果を見ていく前に、まずは地区別の実際の投票率について確認してみよう。投票率が最も高かったのは、土佐山で48.2%であった。次いで鏡が47.5%、上街が44.8%、初月が44.8%、小高坂が44.7%と続く。他方、最も低い投票率は、大津で36.1%であった。次いで一宮（36.5%）、高須（36.9%）、潮江（37.9%）、北街（38.2%）であった。

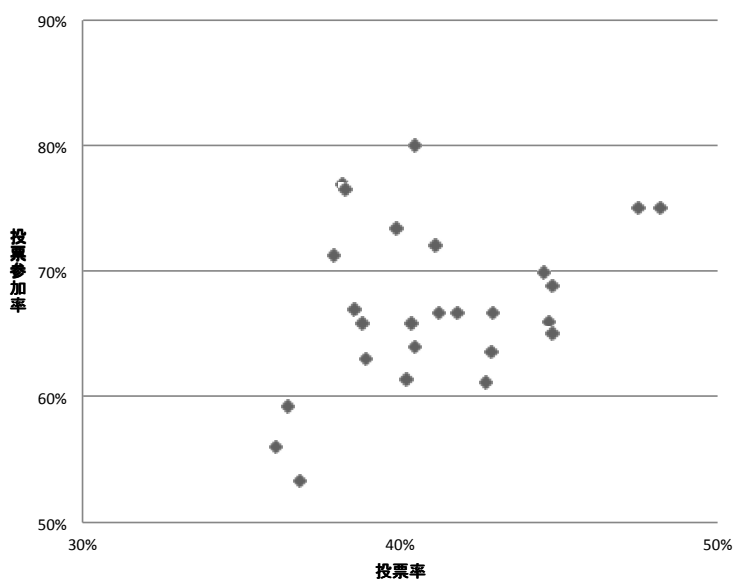
調査の中での「投票参加率」は、必ずしも完全に実際の投票率を反映しているわけではなく、回答者数が一定程度いる地区の中で、投票参加率が70%を超えているのは北街（76.9%）、南街（76.5%）、

下知（73.4%），長浜（72.1%），潮江（71.3%）であった。他方で，投票参加率が60%を切るのは高須（53.3%），大津（56.0%），一宮（59.2%）であった。

表 5 投票率と投票参加率（地区別）

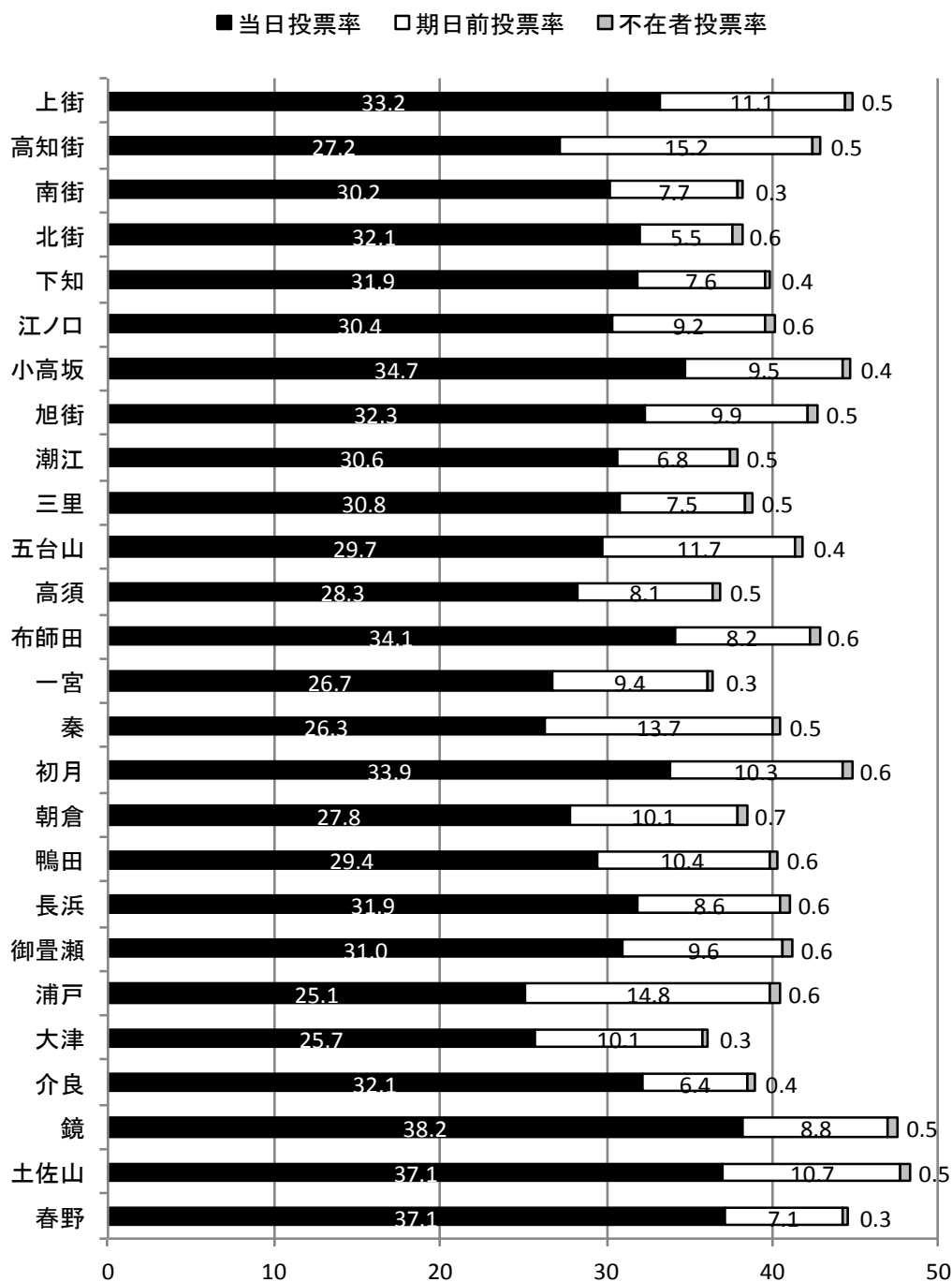
	投票率	投票参加率	N		投票率	投票参加率	N
上街	44.8	65.0	20	一宮	36.5	59.2	103
高知街	42.9	66.7	33	秦	40.5	64.0	86
南街	38.3	76.5	17	初月	44.8	68.8	77
北街	38.2	76.9	13	朝倉	38.5	66.9	127
下知	39.9	73.4	64	鴨田	40.4	65.8	117
江ノ口	40.2	61.4	70	長浜	41.1	72.1	129
小高坂	44.7	66.0	50	御畳瀬	41.2	66.7	3
旭街	42.7	61.2	170	浦戸	40.5	80.0	5
潮江	37.9	71.3	143	大津	36.1	56.0	50
三里	38.8	65.9	44	介良	38.9	63.0	73
五台山	41.8	66.7	21	鏡	47.5	75.0	4
高須	36.9	53.3	60	土佐山	48.2	75.0	4
布師田	42.8	63.6	11	春野	44.5	69.9	73

図 59 投票率と投票参加率の散布図（地区別）



地区別の「投票率」と「投票参加率」の散布図を見てみると、完全に対応しているわけではなく、投票率が下位から中位あたりに位置している地区は投票参加率の（縦の）バラツキが大きいように見える。ただし、概ね右上がりの関係を示しており、相関係数は0.341で10%水準で統計的にも有意であった。投票率が高い地区では、投票参加率も高い傾向が確認されている。

図 60 地区別投票率（投票形態別）



実際の投票率を当日投票率，期日前投票率，不在者投票率に分けて，もう少し詳しく見てみると，鏡（38.2%），春野（37.1%），土佐山（37.1%）の順で当日投票率が高い。反対に，当日投票率が低いのは浦戸（25.1%），大津（25.7%），秦（26.3%）であった。これらの地域はその代わり，期日前投票率が高い傾向も認められる。期日前投票率の上位3地区は高知街（15.2%），浦戸（14.8%），秦（13.7%）である。これらの3地区は投票率全体に対する期日前投票の割合が3割を超えている。他方，北街（5.5%），介良（6.4%），潮江（6.8%）の順番で期日前投票率が低い。

投票環境の相違を見るために，投票所までの移動時間について地区別に見てみる。ほとんどの地区では10分未満が大半を占めており，回答者の100%に達している北街と南街は投票参加率上位2地区でもある。10分未満が90%を超えるのは他に，春野町（94.6%）と介良（91.0%）である。反対に，10分未満の回答者が少ないのは朝倉（69.0%）や旭街（69.2%），一宮（73.1%），秦（73.5%），鴨田（74.8%）となる。他方，20分以上の回答が多い地域は高知街（11.8%），朝倉（9.3%），高須（7.8%），鴨田（5.0%），五台山（4.8%）であった。ただし，投票所までの移動時間といっても，移動手段については指定していないので，徒歩10分未満のときも自動車でも10分未満でも「10分未満」と回答されている。

次に，投票所までの移動手段を地区別に見てみると，それぞれの地区で主要な移動手段が異なることがわかる。徒歩が多いのは上街（60.0%），高知街（55.9%）であり，徒歩が少ないのは五台山（14.3%），南街（17.6%），布師田（18.2%）である。自転車が主要な移動手段であるのは南街（47.1%）と北街（40.0%），江ノ口（32.4%）である。原動機付自転車・自動二輪車が多い地区は五台山（14.3%）と布師田（9.1%）である。自動車が多かった地域は，五台山（61.9%），三里（55.6%），布師田（54.5%），一宮（53.8%），春野町（49.3%）であり，これらの地域では回答者の半数を超えるかそれに近い数が自動車を使用している。他方で，自動車が少なかった地区は北街（6.7%），高知街（8.8%），上街（15.0%），江ノ口（16.9%），小高坂（17.6%）であった。

さらに，期日前投票所の場所の要望について地区別に見てみる。最も要望の高かったのはコンビニエンスストアであったが，特に要望の高い地区は，上街（70.0%），介良（63.6%），大津（60.8%）であった。反対に，コンビニエンスストアの要望が低い地区は布師田（27.3%），五台山（33.3%），潮江（37.7%）であった。ショッピングモールについては，要望の高い地区は御畳瀬（66.7%），秦（50.6%），上街（50.0%）であった一方，要望が低かったのは五台山（14.3%），高知街（20.6%），潮江（27.4%），朝倉（27.9%）である。体育館など駐車が容易な公的施設については，要望の高い地区は五台山（38.1%），布師田（36.4%），高知街（35.3%）であり，要望の低い地区は江ノ口（18.3%），北街（20.0%），朝倉（20.2%）であった。病院については，要望の高い地区は五台山（23.8%），上街（25.0%），小高坂（27.5%）であり，要望の低い地区は江ノ口（7.0%），高須（7.8%），秦（8.0%）であった。駅やバスターミナルについて，要望の高い地区は江ノ口（31.0%），北街（26.7%），高知街（17.6%）であり，要望の低い地区は五台山（4.8%），鴨田（5.0%），春野町（5.3%），南街（5.9%）であった。ほとんどの地区で最も要望の高いのはコンビニエンスストアであったが，秦と布師田ではショッピングモールの要望が，五台山では体育館など駐車が容易な公的施設の要望が最も高い。

図 61 投票所までの移動時間（地区別）

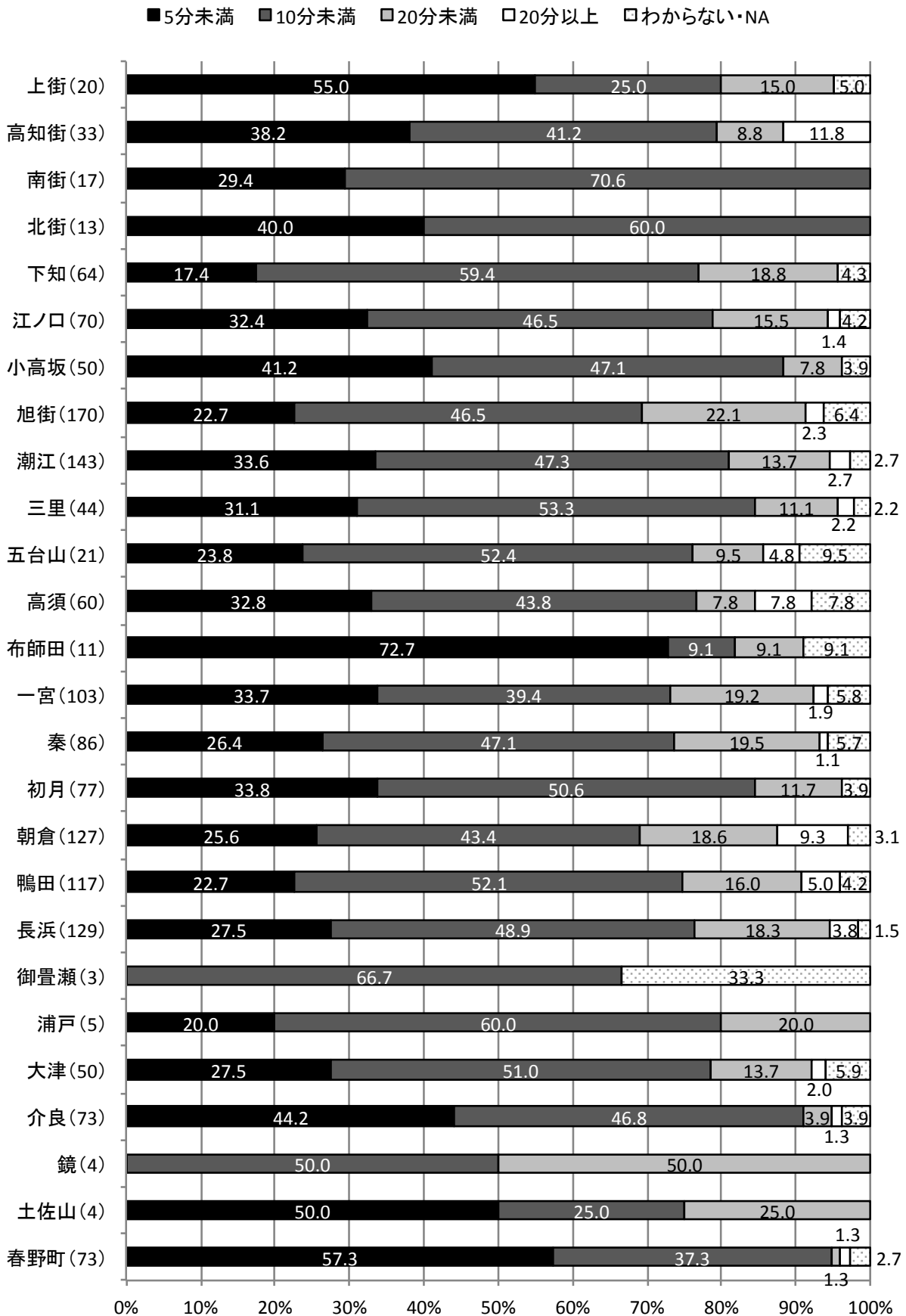


図 62 投票所までの移動手段（地区別）

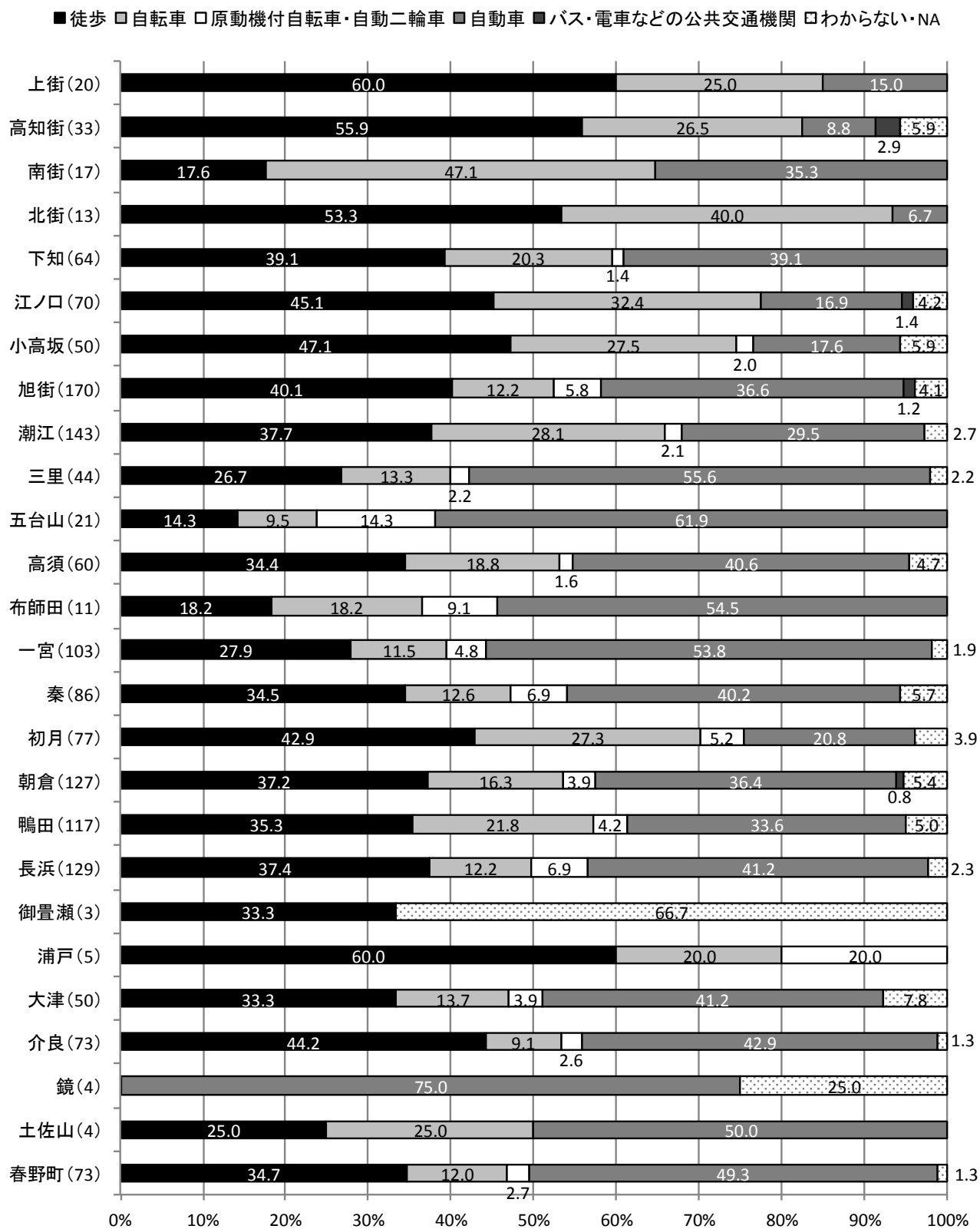


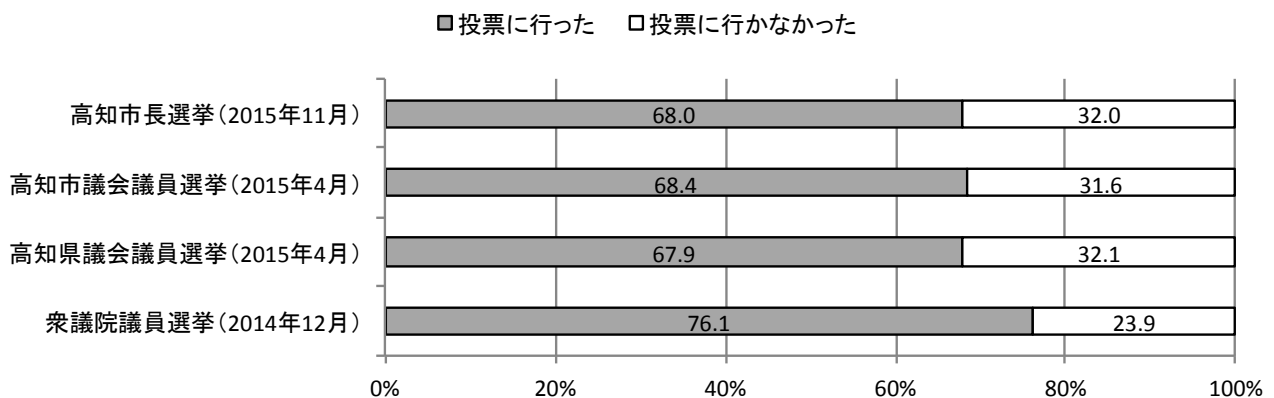
表 6 期日前投票所の要望（地区別）

	駅やバス ターミナル	ショッピング モール	体育館など 駐車が容易な 公的施設	病院	コンビニエンス ストア
上街 (20)	10.0	50.0	30.0	25.0	70.0
高知街 (33)	17.6	20.6	35.3	17.6	58.8
南街 (17)	5.9	41.2	23.5	11.8	47.1
北街 (13)	26.7	33.3	20.0	20.0	46.7
下知 (64)	10.1	30.4	23.2	15.9	49.3
江ノ口 (70)	31.0	38.0	18.3	7.0	40.8
小高坂 (50)	13.7	39.2	31.4	27.5	47.1
旭街 (170)	9.9	37.8	25.0	14.0	47.1
潮江 (143)	11.6	27.4	34.2	17.1	37.7
三里 (44)	13.3	28.9	33.3	22.2	53.3
五台山 (21)	4.8	14.3	38.1	23.8	33.3
高須 (60)	15.6	28.1	23.4	7.8	39.1
布師田 (11)	9.1	45.5	36.4	9.1	27.3
一宮 (103)	10.6	35.6	24.0	18.3	44.2
秦 (86)	6.9	50.6	29.9	8.0	39.1
初月 (77)	9.1	42.9	24.7	10.4	50.6
朝倉 (127)	9.3	27.9	20.2	13.2	44.2
鴨田 (117)	5.0	29.4	25.2	10.1	55.5
長浜 (129)	7.6	31.3	25.2	12.2	39.7
御畳瀬 (3)	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3
浦戸 (5)	0.0	20.0	60.0	0.0	40.0
大津 (50)	9.8	31.4	29.4	19.6	60.8
介良 (73)	7.8	39.0	26.0	16.9	63.6
鏡 (4)	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0
土佐山 (4)	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
春野町 (73)	5.3	32.0	28.0	16.0	50.7

13 過去選挙の投票参加率

本調査では、今回の参院選だけでなく、過去2年間に行われた選挙への投票参加率も尋ねている。「あなたは、ここ2年間に行われた選挙において投票に行きましたか、いきませんでしたか」という質問で、「高知市長選挙（2015年11月）」「高知市議会議員選挙（2015年4月）」「高知県議会議員選挙（2015年4月）」「衆議院議員選挙（2014年12月）」の4つの選挙それぞれについて投票に行ったか否かを回答してもらった。投票参加率は衆院選が最も高く、76.1%であった（実際の投票率は46.6%）。市長選、市議選、県議選はほぼ同じ投票参加率で68.0%、68.4%、67.9%であった（実際の投票率はそれぞれ28.9%、38.1%、41.6%であった）。

図 63 過去選挙の投票参加率



本調査では、それぞれの選挙について棄権者にかぎって棄権の理由を尋ねている。たとえば、市長選の棄権者には「市長選で投票に行かなかったのは、なぜですか」と尋ね、17の理由からあてはまるものをすべて選んでもらった。市長選の棄権の理由で多かったのは、「選挙にあまり関心がなかったから」（22.7%）、「適当な候補者も政党もなかったから」（22.2%）、「仕事があったから」（16.8%）、「私一人が投票してもしなくても同じだから」（15.9%）、「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」（14.4%）であった。市議選の棄権の理由で多かったのは、「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」（27.4%）、「適当な候補者も政党もなかったから」（26.9%）、「選挙にあまり関心がなかったから」（26.0%）、「仕事があったから」（16.6%）、「私一人が投票してもしなくても同じだから」（12.4%）、「面倒だったから」（12.4%）であった。県議選の棄権の理由は市議選のそれとほぼ共通しており、多かった理由は、「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」（27.6%）、「適当な候補者も政党もなかったから」（26.5%）、「選挙にあまり関心がなかったから」（26.1%）、「仕事があったから」（16.0%）、「面倒だったから」（13.3%）であった。衆院選の棄権の理由で多かったのは「選挙にあまり関心がなかったから」（26.2%）、「適当な候補者も政党もなかったから」（23.8%）、「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」（21.8%）、「仕事があったから」（18.9%）、「面倒だったから」（15.0%）であった。

表 7 過去選挙の棄権の理由

	市長選	市議選	県議選	衆院選
	2015年	2015年	2015年	2014年
	11月	4月	4月	12月
仕事があったから	16.8	16.6	16.0	18.9
重要な用事（仕事を除く）があったから	6.3	5.7	4.7	5.1
病気だったから	4.9	4.8	5.2	6.6
体調がすぐれなかったから	7.9	6.4	6.8	9.2
投票所が遠かったから	5.0	4.6	4.3	5.1
面倒だったから	13.3	12.4	13.3	15.0
選挙にあまり関心がなかったから	22.7	26.0	26.1	26.2
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	14.4	27.4	27.6	21.8
適当な候補者も政党もなかったから	22.2	26.9	26.5	23.8
私一人が投票してもしなくても同じだから	15.9	12.4	11.2	14.3
自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	3.4	4.0	4.7	5.3
選挙によって政治はよくならないと思ったから	7.9	10.4	9.5	11.9
マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	6.7	1.5	1.3	1.9
今の政治を変える必要がないと思ったから	3.4	1.1	0.9	1.2
選挙権がなかったから	5.8	6.2	5.8	5.8
天候が悪かったから（暑すぎた、雨だったなど）	0.5	0.4	0.5	0.7
その他	11.9	10.4	9.0	8.0
わからない	3.4	3.1	3.6	5.1
無回答	1.6	2.0	2.5	3.9
N	555	547	555	412

市長選の棄権の理由を年代別に見てみると、若い年代ほど「仕事があったから」「投票所が遠かったから」「面倒だったから」「選挙にあまり関心がなかったから」「選挙権がなかったから」に言及する傾向がある。それに対して、高齢層ほど言及する理由としては「病気だったから」「体調がすぐれなかったから」「マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから」であった。また、40歳代・50歳代で他の年代よりも言及率が高くなるのは、「重要な用事（仕事を除く）があったから」「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」「適当な候補者も政党もなかったから」「私一人が投票してもしなくても同じだから」「選挙によって政治はよくなると思わなかったから」であった。

表 8 市長選棄権の理由（年代別）

	18 歳から 30 歳代	40 歳代から 50 歳代	60 歳代以上
仕事があったから	29.7	18.0	6.5
重要な用事（仕事を除く）があったから	5.8	7.4	5.5
病気だったから	0.0	1.6	12.1
体調がすぐれなかったから	1.9	2.1	18.1
投票所が遠かったから	8.4	3.7	3.5
面倒だったから	20.0	16.4	6.0
選挙にあまり関心がなかったから	27.1	24.9	17.1
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	16.1	16.4	10.6
適当な候補者も政党もなかったから	14.8	27.5	22.6
私一人が投票してもしなくても同じだから	12.9	18.0	16.1
自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	4.5	3.7	2.5
選挙によって政治はよくなると思わなかったから	3.9	13.2	6.5
マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	1.3	7.4	9.5
今の政治を変える必要がないと思ったから	1.3	3.2	5.0
選挙権がなかったから	16.1	2.1	1.5
天候が悪かったから（暑すぎた、雨だったなど）	0.6	0.0	1.0
その他	12.3	12.2	12.1
わからない	3.9	4.8	1.5
N	155	189	199

市議選の棄権の理由を年代別に見てみると、若い年代ほど「仕事があったから」「投票所が遠かったから」「面倒だったから」「選挙権がなかったから」に言及する傾向がある。それに対して、高齢層ほど言及する理由としては「病気だったから」「体調がすぐれなかったから」であった。また、40歳代・50歳代で他の年代よりも言及率が高くなるのは、「重要な用事（仕事を除く）があったから」「選挙にあまり関心がなかったから」「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」「適当な候補者も政党もなかったから」「私一人が投票してもしなくても同じだから」「選挙によって政治はよくならないと思ったから」であった。

表 9 市議選棄権の理由（年代別）

	18 歳から 30 歳代	40 歳代から 50 歳代	60 歳代以上
仕事があったから	25.3	21.4	5.3
重要な用事（仕事を除く）があったから	2.5	9.1	5.3
病気だったから	0.0	2.1	11.6
体調がすぐれなかったから	1.9	0.0	16.4
投票所が遠かったから	6.8	2.7	4.2
面倒だったから	16.7	16.6	5.3
選挙にあまり関心がなかったから	27.8	29.9	20.1
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	25.9	31.0	25.4
適当な候補者も政党もなかったから	14.8	34.2	29.1
私一人が投票してもしなくても同じだから	11.1	13.9	11.6
自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	4.9	4.3	3.2
選挙によって政治はよくならないと思ったから	4.3	15.0	11.6
マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	0.6	1.6	2.1
今の政治を変える必要がないと思ったから	0.0	0.5	2.6
選挙権がなかったから	17.3	2.1	1.1
天候が悪かったから（暑すぎた、雨だったなど）	0.6	0.0	0.5
その他	10.5	7.5	13.8
わからない	4.3	3.2	2.1
N	162	187	189

県議選の棄権の理由を年代別に見てみると、若い年代ほど「仕事があったから」「投票所が遠かったから」「選挙権がなかったから」に言及する傾向がある。それに対して、高齢層ほど言及する理由としては「病気だったから」「体調がすぐれなかったから」であった。また、40歳代・50歳代で他の年代よりも言及率が高くなるのは、「重要な用事（仕事を除く）があったから」「面倒だったから」「選挙にあまり関心がなかったから」「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」「適当な候補者も政党もなかったから」「私一人が投票してもしなくても同じだから」「選挙によって政治はよくならないと思ったから」であった。

表 10 県議選棄権の理由（年代別）

	18 歳から 30 歳代	40 歳代から 50 歳代	60 歳代以上
仕事があったから	25.9	21.0	4.1
重要な用事（仕事を除く）があったから	3.6	7.7	3.0
病気だったから	0.0	2.2	12.7
体調がすぐれなかったから	2.4	0.6	16.2
投票所が遠かったから	6.6	1.7	4.6
面倒だったから	29.5	30.9	18.3
選挙にあまり関心がなかったから	29.5	30.9	18.3
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	24.7	33.1	24.9
適当な候補者も政党もなかったから	13.3	33.1	31.5
私一人が投票してもしなくても同じだから	9.6	13.3	10.7
自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	5.4	4.4	4.6
選挙によって政治はよくならないと思ったから	4.2	15.5	9.1
マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	0.6	1.7	1.5
今の政治を変える必要がないと思ったから	0.0	0.6	2.0
選挙権がなかったから	16.3	1.1	1.5
天候が悪かったから（暑すぎた、雨だったなど）	1.2	0.0	0.5
その他	8.4	7.7	11.2
わからない	3.6	5.0	2.5
N	166	181	197

衆院選の棄権の理由を年代別に見てみると、若い年代ほど「仕事があったから」「投票所が遠かったから」「面倒だったから」「選挙権がなかったから」に言及する傾向がある。それに対して、高齢層ほど言及する理由としては「病気だったから」「体調がすぐれなかったから」であった。また、40歳代・50歳代で他の年代よりも言及率が高くなるのは、「重要な用事（仕事を除く）があったから」「選挙にあまり関心がなかったから」「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」「適当な候補者も政党もなかったから」「私一人が投票してもしなくても同じだから」「選挙によって政治はよくならないと思ったから」であった。

表 11 衆院選棄権の理由（年代別）

	18 歳から 30 歳代	40 歳代から 50 歳代	60 歳代以上
仕事があったから	29.5	21.4	6.8
重要な用事（仕事を除く）があったから	2.9	9.2	3.8
病気だったから	0.7	3.8	15.8
体調がすぐれなかったから	2.9	0.8	23.3
投票所が遠かったから	7.9	2.3	5.3
面倒だったから	21.6	19.1	4.5
選挙にあまり関心がなかったから	28.8	32.1	17.3
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	20.1	28.2	16.5
適当な候補者も政党もなかったから	13.7	38.9	18.8
私一人が投票してもしなくても同じだから	12.2	16.8	13.5
自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	5.0	6.1	4.5
選挙によって政治はよくならないと思ったから	5.8	19.8	11.3
マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	0.7	3.1	2.3
今の政治を変える必要がないと思ったから	0.0	2.3	1.5
選挙権がなかったから	15.8	0.0	1.5
天候が悪かったから（暑すぎた、雨だったなど）	0.7	0.8	0.8
その他	6.5	9.2	9.0
わからない	6.5	4.6	3.8
N	139	131	133

おわりに

本報告書は、投票率が過去最低の40.29%に終わった第24回参議院議員通常選挙（平成28年7月10日執行）の後に実施した高知市有権者の選挙と政治に関する意識調査の結果をまとめたものである。調査の回収率が低かったこともあり、場合によっては、実際の数値と調査上の数値が異なることもあるが（特に投票率と投票参加率）、さまざまな要因間の関係を検討することで高知市の有権者の実態を描いてきた。

ここで最後に挙げておくべき点は以下の3つであろう。第一に、若年層の投票率が低いことはよく知られているが、今回の選挙では18歳選挙権が導入されたこともあり、選挙啓発がなお一層、活性化された。その結果からか、選挙への関心は、20歳代よりも18・19歳の間の方が高かったようであり、投票率も20歳代前半よりも10歳代の方が高い傾向が見られた。選挙に行かない理由として、「選挙にあまり関心がなかった」を挙げる若年有権者は多い傾向にある。地道ながらも、若者への選挙啓発を継続すべきである。

第二に、合区制度の導入が与えた影響である。半数以上の棄権者が、その理由として「選挙区が徳島県と合区になったから」という理由を挙げている。合区制度への評価や今後のあり方についての意見も、投票参加率に影響を与えており、高知市の有権者にとって非常に大きな制度変更であったということが実証的に確認された。ただし、すべての有権者が合区についてネガティブに捉えていたわけではない。参議院選挙区選出の議員の役割として「国全体の代表」として考えているのであれば、合区になったからといって投票をしないわけではなく、高い投票参加率を誇っている。合区制度変更の持続的な影響については不透明な部分が多いが、少なくとも投票率という面でいえば、合区制度は抑制要因となっている。

第三に、選挙管理については、地区別での対策について検討する必要性が挙げられる。そもそも当日投票率と期日前投票率の割合は地区によって大きく異なる。期日前投票所との距離やその地区住民の生活・勤務パターンなど、様々な要因に起因すると思われる。さらに地区別の分析では、投票所までの移動手段や所要時間が地区ごとに異なる傾向が浮き彫りになり、投票環境は一様ではないことが確認された。とりわけ、期日前投票の場所についての要望は地区ごとに異なっており、それぞれに適した対策を考慮すべきである。

本報告書は、現在の高知市の選挙環境について考えるための資料として活用することとするが、本調査の結果を参照するだけでなく、過去調査や全国レベルの明推協調査などと比較することで現代の高知市有権者の姿がさらに立体的に浮き彫りになる。

< 資 料 >

調査票と回答の単純分布

「選挙と政治に関する意識調査」 調査票

回答は質問番号、矢印に従って進んでください。記入は鉛筆又は黒のボールペンでお願いします。名前をお書きになる必要はありません。ご回答は、この調査票をお送りした封筒の宛名のご本人様をお願いします。

Q1 あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 非常に関心を持っている	22.2
2 多少は関心を持っている	59.3
3 あまり関心を持っていない	14.9
4 全く関心を持っていない	1.7
5 わからない	1.2
無回答	0.5

Q2 あなたは、政治、選挙に関する情報を主に何から得ていますか。最も多くの情報を得ているものを1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 テレビ	57.6
2 ラジオ	1.2
3 新聞	25.7
4 雑誌	0.1
5 インターネット	6.4
6 家族や知人からの話	2.8
7 その他	0.6
無回答	5.7

Q3 あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 大いに満足している	4.2
2 だいたい満足している	50.3
3 やや不満足である	32.4
4 大いに不満足である	11.2
5 わからない	1.6
無回答	0.3

Q4 これからのあなたの生活は良くなると思いますか、悪くなると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 今よりも良くなる	2.1
2 どちらかといえば良くなる	6.3
3 今と変わらない	32.5
4 どちらかといえば悪くなる	37.6
5 今よりも悪くなる	16.3
6 わからない	4.9
無回答	0.2

Q5 あなたは現在の政治に対してどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 大いに満足している	0.5
2 だいたい満足している	17.8
3 やや不満足である	45.0
4 大いに不満足である	28.4
5 わからない	8.0
無回答	0.3

Q6 あなたはふだん、選挙の投票について、下記の中のどれに近い考えを持っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 投票することは国民の義務である	29.9
2 投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	36.5
3 投票する、しないは個人の自由である	30.6
4 わからない	2.6
無回答	0.4

Q7 保守的とか革新的とかいう言葉が使われますが、あなたご自身はこの中のどれにあたると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 保守的	10.3
2 やや保守的	26.8
3 中間	30.1
4 やや革新的	13.8
5 革新的	4.5
6 わからない	14.0
無回答	0.6

Q8 7月の参院選(以下「今回の参院選」)について、あなた自身は、どれくらい関心がありましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 非常に関心があった	16.2
2 多少は関心があった	33.5
3 あまり関心がなかった	35.3
4 全く関心がなかった	12.4
5 わからない	2.1
無回答	0.5

Q9 あなたは、今回の参院選で、投票に行きましたか。
1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 投票に行った | 62.9 (→Q10へ) |
| 2 投票に行かなかった | 34.3 (→次頁のQ11へ) |
| 3 わからない | 0.5 (→4頁のQ13へ) |
| 無回答 | 2.4 |

Q10 当日投票をしましたか、それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

- | | |
|------------|------|
| 1 当日投票をした | 76.0 |
| 2 期日前投票をした | 21.6 |
| 3 不在者投票をした | 1.4 |
| 4 わからない | 0.1 |
| 無回答 | 0.9 |

Q10SQ1 投票に行ったのは何時頃ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

- | | |
|--------------|------|
| 1 午前中 | 55.7 |
| 2 午後(6時まで) | 34.3 |
| 3 午後6時から8時の間 | 7.9 |
| 4 午後8時以降 | 0.2 |
| 5 わからない | 1.3 |
| 無回答 | 0.6 |

Q10SQ2 次に選挙区選挙についてお尋ねします。あなたは、選挙区選挙で、政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

- | | |
|--------------|------|
| 1 政党を重くみて | 53.5 |
| 2 候補者個人を重くみて | 23.1 |
| 3 一概にいけない | 20.5 |
| 4 わからない | 2.2 |
| 無回答 | 0.6 |

Q10SQ3 あなたは選挙区選挙で候補者を選ぶ時、どういう点を重くみて投票する人を決めたのですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=1115

- | | |
|-----------------------|------|
| 1 地元の利益を考えて | 24.0 |
| 2 自分と同じような職業の利益を考えて | 8.0 |
| 3 自分と同じような世代の利益を考えて | 11.9 |
| 4 候補者の政策や主張を考えて | 50.2 |
| 5 候補者の人柄を考えて | 23.9 |
| 6 候補者の属する党の政策や活動をj考えて | 57.6 |
| 7 候補者の属する党の党首を考えて | 8.6 |
| 8 テレビや新聞、雑誌などで親しみを感じて | 6.3 |
| 9 政党間の勢力バランスをj考えて | 12.5 |
| 10 家族や知人のすすめだったから | 8.8 |
| 11 その他 | 1.5 |
| 12 わからない | 1.3 |
| 無回答 | 1.2 |

Q10SQ4 選挙区選挙で、投票する人を決めたのはいつ頃でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

- | | |
|----------------------------|------|
| 1 選挙期間に入る前から(6月21日以前) | 29.8 |
| 2 選挙期間に入った時(6月22日(水)) | 18.5 |
| 3 選挙期間中(6月23日(木)から7月9日(土)) | 40.4 |
| 4 投票日当日(7月10日(日)) | 7.4 |
| 5 わからない | 2.5 |
| 無回答 | 1.3 |

Q10SQ5 選挙区選挙で投票した人は、何党の人でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

- | | |
|------------------|------|
| 1 自民党 | 43.2 |
| 2 民進党 | 20.4 |
| 3 公明党 | 6.0 |
| 4 共産党 | 13.1 |
| 5 おおさか維新の会 | 1.0 |
| 6 日本のこころを大切にjする党 | 0.1 |
| 7 社民党 | 0.7 |
| 8 新党改革 | 0.0 |
| 9 その他の党 | 0.7 |
| 10 無所属 | 3.9 |
| 11 白票を入れた | 3.0 |
| 12 わからない | 4.8 |
| 無回答 | 3.0 |

Q10SQ6 次に比例代表選挙についてお尋ねします。比例代表選挙で、あなたは候補者名で投票しましたか、政党名で投票しましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

1 政党名	64.8
2 候補者名	30.3
3 わからない	4.2
無回答	0.7

Q10SQ7 比例代表選挙で、あなたがその政党、または候補者に投票することを決めたのはいつ頃でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

1 選挙期間に入る前から (6月21日以前)	37.0
2 選挙期間に入った時 (6月22日(水))	16.8
3 選挙期間中 (6月23日(木)から7月9日(土))	34.2
4 投票日当日 (7月10日(日))	8.2
5 わからない	3.4
無回答	0.4

Q10SQ8 比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1115

1 自民党	37.0
2 民進党	17.1
3 公明党	9.8
4 共産党	18.4
5 おおさか維新の会	2.9
6 日本のことを大切にす党	0.8
7 社民党	1.8
8 生活の党	0.8
9 新党改革	0.1
10 その他の党	1.3
11 白票を入れた	1.2
12 わからない	6.4
無回答	2.4

→ここまで回答された方は次頁のQ13へお進みください。

2 頁のQ9で「投票に行かなかった」と回答された方にお尋ねします。

Q11 投票に行かないと決めたのはいつ頃ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=608

1 選挙期間に入る前から (6月21日以前)	35.0
2 選挙期間に入った時 (6月22日(水))	12.2
3 選挙期間中 (6月23日(木)から7月9日(土))	16.8
4 投票日当日 (7月10日(日))	23.4
5 わからない	10.4
無回答	2.3

Q12 投票に行かなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=608

1 仕事があったか	15.5
2 重要な用事(仕事を除く)があったから	7.1
3 病気だったから	4.8
4 体調がすぐれなかったから	8.2
5 投票所が遠かったから	4.6
6 面倒だったから	11.3
7 選挙にあまり関心がなかったから	23.4
8 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	28.6
9 適当な候補者も政党もなかったから	30.4
10 私一人が投票してもしなくても同じだから	10.4
11 自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	3.9
12 選挙によって政治はよくなるかと思わなかったから	13.0
13 マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	2.3
14 今の政治を変える必要がないと思ったから	0.7
15 今住んでいる所に選挙権がなかったから	2.1
16 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)	0.5
17 選挙区が徳島県と合区になったから	47.2
18 その他	8.7
19 わからない	0.2
無回答	2.1

ここからは全員の方にお尋ねします。

Q13 今回の参院選では、どのような政策課題を考慮しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 医療・介護	56.5	12 治安対策	10.0
2 子育て・教育	30.6	13 防災対策	24.5
3 景気対策	44.4	14 社会資本整備	3.8
4 雇用対策	21.4	15 地域振興	17.8
5 財政再建	16.6	16 憲法改正	21.0
6 年金	49.2	17 外交・防衛	17.4
7 消費増税	24.1	18 男女共同参画	2.8
8 震災からの復興	11.3	19 選挙制度	9.9
9 原発・エネルギー	19.6	20 その他	1.7
10 TPPへの参加	8.0	21 政策は考えなかった	4.2
11 規制緩和	2.6	22 わからない	5.8
		無回答	1.9

Q14 一昨年(2014年12月)に行われた第47回衆院選の比例代表選挙で、あなたが投票したのは何党でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 自民党	33.3	9 その他の党	0.6
2 民主党	14.6	10 白票を入れた	1.1
3 維新の党	3.0	11 投票しなかった	13.8
4 公明党	7.2	12 選挙権がなかった	1.2
5 共産党	12.1	13 わからない	9.1
6 次世代の党	0.0	無回答	3.0
7 社民党	0.6		
8 生活の党	0.3		

Q15 3年前(2013年7月)の第23回参院選の比例代表選挙で、あなたが投票したのは何党、又は何党の候補者でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 自民党	31.1	10 その他の党	0.4
2 民主党	14.6	11 白票を入れた	0.6
3 公明党	6.7	12 投票しなかった	12.1
4 みんなの党	0.4	13 選挙権がなかった	1.8
5 日本維新の会	2.1	14 わからない	14.4
6 共産党	11.0	無回答	3.3
7 社民党	1.2		
8 生活の党	0.2		
9 みどりの風	0.1		

Q16 あなたはふだん何党を支持していらっしゃいますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 自民党	34.5
2 民進党	10.3
3 公明党	4.7
4 共産党	8.8
5 おおさか維新の会	0.7
6 日本のことを大切にする党	0.2
7 社民党	0.9
8 生活の党	0.3
9 その他の党	0.3
10 支持する政党はない	31.6
11 わからない	4.5
無回答	3.2

Q17 あなたは、参議院選挙の選挙区で選ばれる議員一人あたりの有権者数の格差、いわゆる「一票の格差」について、どう思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 不公平で許容範囲を超えている	18.8
2 不公平だが許容範囲内である	26.1
3 不公平とは言えない	24.6
4 わからない	26.9
無回答	3.4

Q18 あなたは、参議院選挙の選挙区で選ばれる議員は都道府県代表として活動すべきだ、と思いますか、それとも、国全体の代表として活動すべきだと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 都道府県代表として活動すべきだ	22.5
2 どちらかといえば、都道府県代表として活動すべきだ	35.8
3 どちらかといえば、国全体の代表として活動すべきだ	19.1
4 国全体の代表として活動すべきだ	12.0
5 わからない	8.2
無回答	2.4

Q19 今回の参院選で、あなたが見たり聞いたりしたものが下記の中にありますか。あればすべて選んでAの欄に○をつけてください。その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでBの欄に○をつけてください。

n=1773 n=1560

	A	B
1 候補者の政見放送・経歴放送 (テレビ)	46.2	22.0
2 政党の政見放送 (テレビ)	38.9	17.7
3 政党のテレビスポット広告	18.8	2.5
4 候補者の政見放送・経歴放送 (ラジオ)	8.5	3.3
5 政党の政見放送 (ラジオ)	6.5	2.2
6 政党のラジオスポット広告	3.4	0.8
7 政党や候補者のバナー広告・動画広告	5.4	1.7
8 選挙公報	34.2	16.0
9 候補者の新聞広告	34.6	15.5
10 政党の新聞広告	27.2	9.6
11 候補者のビラ	21.1	5.3
12 掲示場にはられた候補者のポスター	43.9	8.5
13 政党のビラ・ポスター	24.0	4.3
14 候補者の葉書	17.9	2.8
15 政党の葉書	9.6	2.2
16 政党の機関紙	10.0	3.9
17 政党の選挙公約などが記載されたパンフレット	17.4	6.9
18 党首討論会 (テレビ・インターネット)	26.3	14.4
19 政党・候補者の演説会	10.0	5.4
20 公開討論会・合同個人演説会	5.8	2.9
21 政党・候補者の街頭演説	15.3	5.9
22 電話による勧誘	8.3	1.4
23 連呼	11.8	1.0
24 LINE やツイッター、フェイスブックなどのSNSによる選挙運動	3.8	2.6
25 この中のどれも見聞きしなかった	3.8	---
26 わからない	3.2	2.1
無回答	5.0	42.1

Q20 あなたは今回の参院選で、インターネットをどのように利用しましたか。下記の中にあてはまるものがあればすべて選んで番号に○をつけてください。

n=1773

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1 政党や候補者のHP・ブログ・SNSを見た | 5.2 |
| 2 政党や候補者のメールを受信した | 0.6 |
| 3 自分自身が特定の候補者を応援又は批判する情報を発信した | 0.5 |
| 4 政党や候補者とインターネットを通して交流した | 0.2 |
| 5 動画共有サイトで選挙関連の動画を見た | 2.1 |
| 6 ニュースサイトや選挙情報サイトを見た | 8.3 |
| 7 ポートマッチを利用した | 0.2 |
| 8 その他 | 0.1 |
| 9 利用しなかった (→次頁のQ21へ) | 67.4 |
| 10 わからない (→次頁のQ21へ) | 3.7 |
| 無回答 | 15.7 |

(Q20S)

Q20SQ インターネットで得られた情報は、投票に関して参考になりましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

n=233

- | | |
|-------------|------|
| 1 参考になった | 24.9 |
| 2 多少は参考になった | 57.1 |
| 3 参考にならなかった | 11.2 |
| 4 わからない | 3.0 |
| 無回答 | 3.9 |

以下は全員の方にお尋ねします。

Q21 今回の参院選であなたが見たり聞いたりして印象に残っている投票参加の呼びかけや投票日のお知らせは、次のどれでしょうか。あればすべて選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | | |
|----|---------------------------|------|
| 1 | テレビ・ラジオスポット放送（CM） | 62.3 |
| 2 | 新聞広告 | 40.8 |
| 3 | 電車・バスによる広告 | 3.3 |
| 4 | 高知市の公用車に貼られた選挙啓発用マグネットシート | 3.2 |
| 5 | 高知県広報『さんSUN高知』 | 17.1 |
| 6 | 高知市広報『あかるいまち』 | 31.0 |
| 7 | 防災無線の放送 | 0.8 |
| 8 | 百貨店・量販店等の店内放送 | 1.3 |
| 9 | 各家庭に配布した選挙公報 | 27.1 |
| 10 | 町内会掲示板、量販店、銀行等に貼られたポスター | 14.6 |
| 11 | 広告塔・立看板・垂れ幕・横断幕 | 8.3 |
| 12 | 量販店のレシート | 0.8 |
| 13 | 量販店等での街頭啓発 | 1.0 |
| 14 | 国、県、市のホームページ等 | 1.2 |
| 15 | インターネット上の啓発動画 | 2.2 |
| 16 | その他 | 2.0 |
| 17 | 見聞きしなかった（→Q22へ） | 5.8 |
| 18 | わからない（→Q22へ） | 4.6 |
| | 無回答 | 3.0 |

*1～16 を選択された方はQ21SQへ

Q21SQ これらを見聞きしたことによって、知り得たことなどがありましたか。この中にあてはまるものがあればすべて選んで番号に○をつけてください。n=1537
（Q21で「見聞きしなかった」、「わからない」と回答された方はお答えする必要はありません。Q22へお進みください）

- | | | |
|---|----------------------|------|
| 1 | 選挙期日（投票日）が確認できた | 73.1 |
| 2 | 投票場所が確認できた | 28.1 |
| 3 | 投票時間が確認できた | 23.5 |
| 4 | 投票方法を知った | 9.9 |
| 5 | 期日前投票時間、期日前投票所が確認できた | 20.8 |
| 6 | 一票の大切さを知った | 8.8 |
| 7 | その他 | 0.5 |
| 8 | 知り得たものはない | 8.2 |
| | 無回答 | 9.3 |

以下は全員の方にお尋ねします。

Q22 転居する場合、引っ越し先の市区町村へ住民票を移さなければなりません。あなたはこのことをご存知でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。n=1773

- | | | |
|---|--------|------|
| 1 | 知っていた | 93.0 |
| 2 | 知らなかった | 2.9 |
| | 無回答 | 4.1 |

Q23 現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければなりません。あなたは、このことをご存知でしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | | |
|---|--------|------|
| 1 | 知っていた | 59.1 |
| 2 | 知らなかった | 37.8 |
| | 無回答 | 3.0 |

Q24 選挙のとき、住民票がある市区町村と別の地域に滞在している場合に、市区町村に届け出をして別の地域で投票する制度（不在者投票制度）がありますが、あなたはこの制度を知っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | | |
|---|-----------------------------------|------|
| 1 | よく知っている | 12.5 |
| 2 | だいたい内容を知っている | 30.6 |
| 3 | 内容は知らないが「不在者投票（制度）」という言葉は聞いたことがある | 29.7 |
| 4 | 知らない | 24.3 |
| | 無回答 | 2.8 |

Q25 期日前投票についてお伺いします。現在、期日前投票は、市役所たかじょう庁舎、市内の各ふれあいセンター、鏡・土佐山・春野地域の庁舎、福寿園、高知大学、イオンモール高知でおこなっています。今後、以下の場所で期日前投票が可能になった場合、利用してみようと思う場所があれば、すべて選んでください。n=1773

- | | | |
|---|-----------------|------|
| 1 | 駅やバスターミナル | 10.2 |
| 2 | ショッピングモール | 33.6 |
| 3 | 体育館など駐車が容易な公的施設 | 26.0 |
| 4 | 病院 | 14.2 |
| 5 | コンビニエンスストア | 45.6 |
| 6 | その他 | 4.6 |
| 7 | わからない | 12.9 |
| | 無回答 | 7.2 |

Q26 今回の参院選から、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられました。あなたはこのことをどう思いましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | |
|-------------|------|
| 1 良かった | 28.4 |
| 2 良くなかった | 15.3 |
| 3 どちらとも言えない | 48.6 |
| 4 わからない | 6.0 |
| 無回答 | 1.7 |

Q27 あなたは、今回の参院選で導入された合区制度をご存知でしたか。ご存知の場合、いつくらいにお知りになりましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1 いままで知らなかった | 8.6 |
| 2 選挙期間が始まる前(投票日の約3週間前)には知っていた | 71.3 |
| 3 選挙期間中(投票日の約3週間前から前日まで)に知った | 11.6 |
| 4 投票日に知った | 0.4 |
| 5 投票日後に知った | 0.7 |
| 6 わからない | 5.5 |
| 無回答 | 1.9 |

Q28 今回の参院選から、高知県選挙区は徳島県と合区され、徳島県・高知県選挙区となりました。あなたはこのことをどう思いましたか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | |
|-------------|------|
| 1 良かった | 2.1 |
| 2 良くなかった | 70.4 |
| 3 どちらとも言えない | 19.3 |
| 4 わからない | 6.8 |
| 無回答 | 1.3 |

Q29 あなたは、参議院選挙における選挙区で、合区制度を今後も続けていくことについて、どう思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

- | | |
|-----------------------------------|------|
| 1 今後も続けていき、合区の選挙区を増やすべきである | 3.7 |
| 2 今後も続けていくが、これ以上、合区の選挙区を増やすべきではない | 10.4 |
| 3 合区をすべて解消すべきである | 62.7 |
| 4 わからない | 21.5 |
| 無回答 | 1.7 |

Q30 あなたは、ここ2年間に行われた選挙において投票にいきましたか、いきませんでしたか。それぞれの選挙すべてについて、「投票に行った」「投票に行かなかった」のいずれかに○をつけてください。 n=1773

	投票に行った	投票に行かなかった	無回答
A. 高知市長選挙(2015年11月)	66.4	31.3	2.3
B. 高知市議会議員選挙(2015年4月)	66.8	30.9	2.4
C. 高知県議会議員選挙(2015年4月)	66.3	31.3	2.4
D. 衆議院議員選挙(2014年12月)	73.9	23.2	2.9

上記のQ30「A. 高知市長選挙(2015年11月)」で「投票に行かなかった」と答えた人のみにお聞きします(「投票に行った」と答えた方は次頁のQ32へ)。

Q31 市長選で投票に行かなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=555

- | | |
|---------------------------------------|------|
| 1 仕事があったから | 16.8 |
| 2 重要な用事(仕事を除く)があったから | 6.3 |
| 3 病気だったから | 4.9 |
| 4 体調がすぐれなかったから | 7.9 |
| 5 投票所が遠かったから | 5.0 |
| 6 面倒だったから | 13.3 |
| 7 選挙にあまり関心がなかったから | 22.7 |
| 8 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから | 14.4 |
| 9 適当な候補者も政党もなかったから | 22.2 |
| 10 私一人が投票してもしなくても同じだから | 15.9 |
| 11 自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから | 3.4 |
| 12 選挙によって政治はよくなると思ったから | 7.9 |
| 13 マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから | 6.7 |
| 14 今の政治を変える必要がないと思ったから | 3.4 |
| 15 選挙権がなかったから | 5.8 |
| 16 天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど) | 0.5 |
| 17 その他 | 11.9 |
| 18 わからない | 3.4 |
| 無回答 | 1.6 |

7 頁の Q30「B. 高知市議会議員選挙 (2015 年 4 月)」で「投票に行かなかった」と答えた人のお聞きします (「投票に行った」と答えた方は Q33 へ)。

Q32 市議選で投票に行かなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=547

- | | | |
|----|------------------------------------|------|
| 1 | 仕事があったから | 16.6 |
| 2 | 重要な用事 (仕事を除く) があったから | 5.7 |
| 3 | 病気だったから | 4.8 |
| 4 | 体調がすぐれなかったから | 6.4 |
| 5 | 投票所が遠かったから | 4.6 |
| 6 | 面倒だったから | 12.4 |
| 7 | 選挙にあまり関心がなかったから | 26.0 |
| 8 | 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから | 27.4 |
| 9 | 適当な候補者も政党もなかったから | 26.9 |
| 10 | 私一人が投票してもしなくても同じだから | 12.4 |
| 11 | 自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから | 4.0 |
| 12 | 選挙によって政治はよくなると思ったから | 10.4 |
| 13 | マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから | 1.5 |
| 14 | 今の政治を変える必要がないと思ったから | 1.1 |
| 15 | 選挙権がなかったから | 6.2 |
| 16 | 天候が悪かったから (暑すぎた、雨だったなど) | 0.4 |
| 17 | その他 | 10.4 |
| 18 | わからない | 3.1 |
| | 無回答 | 2.0 |

7 頁の Q30「C. 高知県議会議員選挙 (2015 年 4 月)」で「投票に行かなかった」と答えた人のお聞きします (「投票に行った」と答えた方は Q34 へ)。

Q33 県議選で投票に行かなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=555

- | | | |
|---|--------------------------------|------|
| 1 | 仕事があったから | 16.0 |
| 2 | 重要な用事 (仕事を除く) があったから | 4.7 |
| 3 | 病気だったから | 5.2 |
| 4 | 体調がすぐれなかったから | 6.8 |
| 5 | 投票所が遠かったから | 4.3 |
| 6 | 面倒だったから | 13.3 |
| 7 | 選挙にあまり関心がなかったから | 26.1 |
| 8 | 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから | 27.6 |
| 9 | 適当な候補者も政党もなかったから | 26.5 |

- | | | |
|----|------------------------------------|------|
| 10 | 私一人が投票してもしなくても同じだから | 11.2 |
| 11 | 自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから | 4.7 |
| 12 | 選挙によって政治はよくなると思ったから | 9.5 |
| 13 | マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから | 1.3 |
| 14 | 今の政治を変える必要がないと思ったから | 0.9 |
| 15 | 選挙権がなかったから | 5.8 |
| 16 | 天候が悪かったから (暑すぎた、雨だったなど) | 0.5 |
| 17 | その他 | 9.0 |
| 18 | わからない | 3.6 |
| | 無回答 | 2.5 |

7 頁の Q30「D. 衆議院議員選挙 (2014 年 12 月)」で「投票に行かなかった」と答えた人のお聞きします (「投票に行った」と答えた方は次頁の F1 へ)。

Q34 衆院選で投票に行かなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。 n=412

- | | | |
|----|------------------------------------|------|
| 1 | 仕事があったから | 18.9 |
| 2 | 重要な用事 (仕事を除く) があったから | 5.1 |
| 3 | 病気だったから | 6.6 |
| 4 | 体調がすぐれなかったから | 9.2 |
| 5 | 投票所が遠かったから | 5.1 |
| 6 | 面倒だったから | 15.0 |
| 7 | 選挙にあまり関心がなかったから | 26.2 |
| 8 | 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから | 21.8 |
| 9 | 適当な候補者も政党もなかったから | 23.8 |
| 10 | 私一人が投票してもしなくても同じだから | 14.3 |
| 11 | 自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから | 5.3 |
| 12 | 選挙によって政治はよくなると思ったから | 11.9 |
| 13 | マスコミの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから | 1.9 |
| 14 | 今の政治を変える必要がないと思ったから | 1.2 |
| 15 | 選挙権がなかったから | 5.8 |
| 16 | 天候が悪かったから (暑すぎた、雨だったなど) | 0.7 |
| 17 | その他 | 8.0 |
| 18 | わからない | 5.1 |
| | 無回答 | 3.9 |

以下は全員の方にお尋ねします。

F 1 あなたは男性ですか、女性ですか。 n=1773

1 男性	42.8
2 女性	56.2
無回答	1.0

F 2 あなたのお年は満でいくつですか。

_____歳

F 3 あなたのご住所はどちらですか。○丁目までお書きください。(例 本町5丁目)

_____丁目

F 4 あなたが最後に在籍した(又は現在在籍している)学校を、下記の中から1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 小学校・中学校卒(高等小学校を含む)	12.0
2 高校卒(旧制中学校を含む)	40.2
3 短大・高専・専修学校卒	20.6
4 大学・大学院卒(旧制高校、旧制専門学校を含む)	23.6
5 わからない	0.6
無回答	3.0

F 5 あなたの職業についてお尋ねします。下記の中からあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 勤め	40.8
2 自営業主、自由業者	10.3
3 家族従業	1.9
4 学生	1.7
5 主婦	16.2
6 無職	23.6
無回答	5.1

(F 6 へお進みください)

F 5 S Q 1 あなたの職業は下記のように分類した場合、どれにあたりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=940

1 経営者・役員・管理職	23.6
2 正社員・正職員	42.4
3 派遣社員	0.9
4 パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託	25.9
5 その他	4.7
無回答	2.6

F 5 S Q 2 このように分類した場合、あなたの職業はどれにあたりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=940

1 農・林・水産に関わる仕事(農作物生産者、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など)	3.6
2 保安の仕事(警察官、消防職員、自衛官、警備員など)	2.0
3 運輸・通信の仕事(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など)	2.3
4 製造業の仕事(製品製造・組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など)	9.8
5 販売・サービスの仕事(小売・卸売店主・店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールス、理・美容師、コック・料理人、ウェ이터・ウェイトレス、客室乗務員など)	27.4
6 専門・技術の仕事(医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの)	24.0
7 事務の仕事(企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の仕事など)	18.4
8 その他	6.9
無回答	5.3

以下は全員の方にお尋ねします。

F 6 あなたは、この市に何年くらい住んでいますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 生まれてからずっと	21.5
2 20年以上(生まれてからずっとを除く)	51.7
3 10年以上	9.9
4 3年以上	5.2
5 3年未満	2.8
6 わからない	0.2
無回答	8.7

F 7 あなたのご自宅から投票所へ行くのには、何分ぐらいかかりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 5分未満	31.2
2 10分未満	45.5
3 20分未満	14.4
4 20分以上	3.3
5 わからない	3.4
無回答	2.0

F 8 あなたは、投票所までどのようにして行きますか。
1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 徒歩	37.2
2 自転車	17.9
3 原動機付自転車・自動二輪車	4.0
4 自動車	36.3
5 バス・電車などの公共交通機関	0.3
6 わからない	2.4
無回答	1.8

F 9 あなたのご家族は、このように分類した場合どれにあたりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 1人世帯	15.2
2 一世代世帯（夫婦だけ）	31.0
3 二世代世帯（親と子）	42.8
4 三世代世帯（親と子と孫）	6.8
5 その他の世帯	2.4
6 わからない	0.4
無回答	1.5

F 10 あなたは、このような団体に加入していますか。
あればすべて選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 政治家の後援会	4.3
2 町内会・自治会	47.8
3 婦人会	1.1
4 青年団・消防団	0.5
5 老人クラブ（会）	2.6
6 P T A	5.5
7 農協その他の農林漁業団体	3.4
8 労働組合	4.3
9 商工業関係の経済団体	1.4
10 宗教団体	3.9
11 同好会・趣味のグループ	12.9
12 住民運動・消費者運動・市民運動の団体	0.8
13 NPO・地域づくり団体	2.1
14 同窓会	9.1
15 その他	1.4
16 どれにも加入していない	32.6
17 わからない	1.8
無回答	4.1

F 11 あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 パソコン	26.1
2 スマートフォン	25.2
3 タブレット	3.2
4 携帯電話（スマートフォン以外）	3.6
5 インターネットは使わない	28.7
無回答	13.3

F 12 あなたはふだん政治に関する話を家族としますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 よくする	11.9
2 たまにする	46.5
3 ほとんどしない	32.2
4 家族はいない	5.9
5 わからない	1.4
無回答	2.1

F 13 あなたはふだん政治に関する話を友人としますか。1つ選んで番号に○をつけてください。 n=1773

1 よくする	6.3
2 たまにする	38.9
3 ほとんどしない	49.7
4 友人はいない	2.4
5 わからない	1.3
無回答	1.4